

群馬県農業農村振興計画 2021-2025

未来へ紡ぐ！豊かで成長し続ける
農業・農村の確立

令和4年度 実績



群馬県

目次

| | |
|-------------------------|----|
| 1. 群馬県農業農村振興計画概要 | 1 |
| 2. 令和4年度 運営方針 | 2 |
| 3. 令和4年度 農政部予算総額と主要施策体系 | |
| [農政部予算総額] | 5 |
| [主要施策体系] | 6 |
| 4. 令和4年度実績の概要 | 7 |
| 5. 施策推進指標、主要指標の動向 | |
| [総合指標] | 11 |
| [基本施策] | 11 |
| [重点P J] | 14 |
| [地域重点P J] | 16 |
| [主要指標の動向] | 18 |
| 6. 基本施策実績シート | 19 |
| 7. 地域施策実績シート | |
| [中部地域] | 57 |
| [西部地域] | 60 |
| [吾妻地域] | 63 |
| [利根沼田地域] | 65 |
| [東部地域] | 68 |

1. 群馬県農業農村振興計画概要

[策定の趣旨]

本県の農業が魅力ある産業として大きく成長し、農村がより一層活性化することで、将来にわたって県民生活に不可欠な農畜産物の安定供給が図られるとともに、農業・農村の魅力が向上するよう、「新・総合計画（ビジョン）」を踏まえ、新たな農業農村振興計画を策定しました。

[位置づけ]

本計画は、「新・総合計画（ビジョン）」の目指す「誰一人取り残さず、誰もが幸福を実感できる自立分散型社会の実現」に向けて、「新・総合計画（基本計画）」や国の新たな「食料・農業・農村基本計画」との整合性を保ちつつ、本県の農業分野における最上位計画として位置づけています。

[計画期間]

令和3年度を初年度とし令和7年度を目標年度とする5年間とする。

[性格]

10年先の将来を見据えて、計画期間における施策の方向性や具体的な目標を示す県農政推進の基本指針とします。また、農業者、消費者、関係団体、行政機関がそれぞれの果たすべき役割に応じて、主体的に取組を進める上での協力・連携に向けた指針とします。

[構成]

(1) 基本計画

本県の農業・農村振興における「基本理念」や計画期間における「基本目標」のほか、「基本目標」の達成に向けた具体的な取組として、「基本施策」、「重点プロジェクト」を示します。また、地域毎には、「地域別基本方向」、「地域重点プロジェクト」を示します。

(2) 年度別計画

基本計画に基づき、年度毎の具体的な取組内容を示します。各年度の成果及び進捗を検証することで、基本計画の着実な推進を図ります。

[基本目標]

「未来へ紡ぐ！豊かで成長し続ける農業・農村の確立」

[総合指標]

| | | | |
|-------|---------|---|---------|
| | (R1) | | (R7) |
| 農業産出額 | 2,361億円 | ➡ | 2,600億円 |

2. 令和4年度 運用方針

本県の農業と農村が持つ可能性を最大限引き出し、持続的に発展させるとともに、未来に向けて農業者が元気に躍動し、県民誰もが豊かさを享受できるよう、次の重点事項を中心に総合的な施策を展開しました。

基本目標

「未来へ紡ぐ！豊かで成長し続ける農業・農村の確立」

令和4年度重点事項

◆グリーンな栽培体系への転換推進

○環境にやさしい栽培技術の推進

- ・特別栽培農産物認証制度やエコファーマー認定制度の普及・定着、有機農業の推進
- ・持続的な農業生産に資する農業生産工程管理（GAP）の推進
- ・生分解性マルチ等の環境に配慮した農業用資材利用の普及啓発



土着天敵温存植物の
植栽した露地ナスほ場

○グリーン化・DXに資する先端技術の展開

- ・現地実証試験のエビデンスに基づくスマート農業技術の導入推進
- ・タブレット等を活用したリアルタイム指導による農業経営の高度化
- ・電子カルテによる新規就農者等の支援強化



タブレットを活用した栽培指導

◆県産農畜産物の「強み」を生かした持続的な消費拡大

○県産農畜産物のブランド化・新たな販路開拓の推進

- ・「ぐんまプレミアム認証制度（仮称）」の立ち上げ、マーケティングへの取組
- ・産直ECサイトを活用した飲食店フェア、イベント等の実施



産直ECサイトを活用した販路開拓

○県産農畜産物のプロモーション強化

- ・YouTuber等とのタイアップによる県産農畜産物のPR
- ・首都圏における県産食材を利用した料理教室の開催



県産食材を利用した料理教室

○「食で癒やしのリトリート」の推進

- ・健康や環境に配慮した農畜産物・加工品等を提供するマルシェとヨガフェスタを同時開催

未来につながる担い手確保と経営基盤の強化【人・農地】

■新たな担い手の確保・育成

- ・オンライン就農相談実施と就農希望者に対する研修機会提供
- ・産地による新たな担い手受入体制整備を促進
- ・就農時の生活安定・経営確立のための資金交付

■地域農業を支える力強い経営体の育成

- ・力強い経営体の育成のため先端技術を活用した機械導入・施設整備に補助
- ・農業経営体等とスタートアップ企業など民間事業者とをマッチングすることで、双方の課題解決と育成を図る。

■農地利用の最適化と生産基盤の整備

- ・農業生産基盤整備事業を契機とした担い手への農地集積・集約化の推進
- ・担い手の多様なニーズに応じた農地の区画拡大等の基盤整備
- ・農地中間管理機構を通して遊休農地の発生抑制・解消等を図り、農地の有効活用を促進

次世代につなぐ収益性の高い農業の展開【収益性向上】

■園芸産地等の競争力強化

- ・野菜産地の高収益化に向けた機械導入・施設整備
- ・展示会・市場を通じた県産花きの需要拡大
- ・観光果樹園のPR支援やりんご新品種を核とした振興
- ・こんにゃく生産の環境負荷軽減及び低コスト化の推進

■強靱な畜産経営の確立

- ・豚熱・鳥インフルエンザ等の特定家畜伝染病対策の強化
- ・ゲノミック評価を活用した優良繁殖雌牛の増頭・改良促進
- ・全国和牛能力共進会鹿児島大会への出品・上位入賞
- ・家畜排せつ物適正処理の推進、耕畜連携による堆肥利用の促進

■持続的な水田農業の展開

- ・売れる米づくりの推進（高温耐性品種の普及、高品質米生産等）
- ・ぐんま型「水田フル活用」の推進、高収益作物等の作付拡大支援

豊富で多彩な県産農畜産物の需要拡大【需要拡大】

■農畜産物等の輸出促進による販路拡大

- ・輸出に取り組む生産者等の育成に向けた伴走型支援
- ・北関東3県（群馬、栃木、茨城）連携による現地プロモーション
- ・輸出品目の拡大・定着及び新たな販路の構築

■食の地産地消の推進

- ・デジタルスタンプラリーによる地産地消推進店への誘客
- ・生産現場と教室をリモートで結ぶ食農教育の推進

魅力あふれる農村の持続的な発展【魅力度向上】

■多彩な地域特産物の生産振興

- ・県産繭確保対策の実施、多様な養蚕担い手の育成、県産シルクの需要拡大
- ・統一名称による県産ブランドニジマスの消費拡大、養殖業者の育成支援

■防災・減災対策の強化

- ・防災重点ため池の豪雨・地震に対する詳細調査の支援、改修・補強の実施
- ・湛水被害を防止・軽減する排水施設整備の実施

■鳥獣被害防止対策の強化

- ・対策支援PJチームによる被害増加地区（婦恋村）での重点的な被害防止対策の実施
- ・捕獲目標に基づく計画的な捕獲の推進、ICT等を活用した捕獲技術の実証・普及
- ・地域が主体となった被害対策への支援、対策に取り組む人材の育成

ニューノーマルがもたらす農村の新たな価値の創出【価値創出】

■「快疎」な空間としての農村地域を求める関係人口の拡大・深化

- ・県内外での首都圏キャラバン等の実施による農村への誘客促進
- ・養蚕等の地域資源を生かした農泊モデル地区の支援
- ・農泊事業者等のインタビューによる農村の魅力発信
- ・『『農』あるぐんま暮らし』に関する情報発信による移住・定住の促進

■農村協働力の深化による多面的機能の維持・発揮

- ・農業者や地域住民等による組織が取り組む多面的機能を支える協働活動及び地域資源の質的向上を図る協働活動への支援

3. 令和4年度 農政部予算総額と主要施策体系

[農政部予算総額]

(単位:千円)

| 区 分 課 別 | | 令 和 4 年 度 | | 左 (A) の 内 訳 | | 左 (A) の 財 源 内 訳 | | | |
|------------------|--------------------|-------------------|---------------------------|------------------|-------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|
| | | 当初予算額 (A) | 割 合 | 職員給与費 | 事業費 | 国庫支出金 | 県 債 | その他特財 | 一般財源 |
| 一 般 会 計 | 県 予 算 額 | 818,706,000 | | 215,958,952 | 602,747,048 | 164,690,450 | 37,455,000 | 38,258,772 | 578,301,778 |
| | 農 政 部 予 算 額 | 19,777,701 | (県予算に対して) 2.4% | 6,120,336 | 13,657,365 | 6,528,452 | 1,571,000 | 2,831,320 | 8,846,929 |
| | 農 政 課 | 4,686,470 | (部予算に対して) 23.7 | 4,331,533 | 354,937 | 30,622 | 3,000 | 344,646 | 4,308,202 |
| | 農 業 構 造 政 策 課 | 2,034,914 | 10.3 | 496,327 | 1,538,587 | 672,552 | | 514,912 | 847,450 |
| | 技 術 支 援 課 | 1,116,016 | 5.6 | 343,753 | 772,263 | 410,288 | 5,000 | 324,858 | 375,870 |
| | 蚕 糸 園 芸 課 | 1,407,719 | 7.1 | 193,474 | 1,214,245 | 287,416 | 5,000 | 166,793 | 948,510 |
| | ぐんまブランド推進課 | 1,024,420 | 5.2 | 104,106 | 920,314 | 853,742 | | 15,012 | 155,666 |
| | 畜 産 課 | 1,887,582 | 9.5 | 425,795 | 1,461,787 | 657,281 | 251,000 | 198,716 | 780,585 |
| | 農 村 整 備 課 | 7,620,580 | 38.5 | 225,348 | 7,395,232 | 3,616,551 | 1,307,000 | 1,266,383 | 1,430,646 |
| | 計 | 19,777,701 | 100.0 | 6,120,336 | 13,657,365 | 6,528,452 | 1,571,000 | 2,831,320 | 8,846,929 |
| | 上記のうち 公共事業 | (417,061) | (2.1) | | (417,061) | (414,934) | (1,000) | | (1,127) |
| 補助公共 | 6,694,000 | 33.8 | | 6,694,000 | 3,795,749 | 1,336,000 | 750,739 | 811,512 | |
| 単独公共 | 750,000 | 3.8 | | 750,000 | | 222,000 | 333,150 | 194,850 | |
| 特 別 会 計 | 農 業 改 良 資 金 | 22,303 | | | 22,303 | | | 22,293 | 10 |
| 計 | 22,303 | | | 22,303 | | | 22,293 | 10 | |

※補助公共()内は災害復旧予算で内数。

※補助公共事業費には、事業費支弁職員給与費132,545千円を含む。

※県予算額の一般財源には、臨時財政対策債(21,500,000千円)を含む。

[主要施策体系]

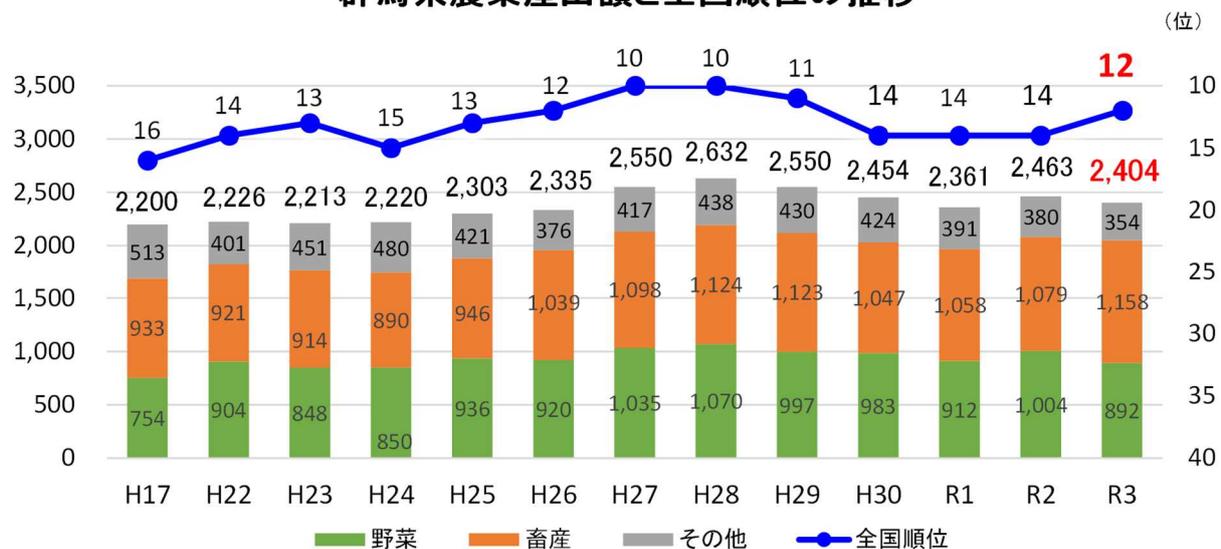
| 基本目標 | 基本方向 | 主要事業 | 令和4年度当初予算額 | 担当課 |
|-------------------------|----------------------|----------------------------------|------------------------------------|----------------|
| 未来へ紡ぐ！豊かで成長し続ける農業・農村の確立 | 未来につながる担い手確保と経営基盤の強化 | はばたけ「ぐんまの担い手」支援 | 60,000千円 | 農業構造政策課 |
| | | 担い手への農地集積・集約化 | 191,337千円 | 農業構造政策課 |
| | | 農福連携推進 | 4,587千円 | 農業構造政策課 |
| | | 就農促進対策 | 11,620千円 | 農業構造政策課 |
| | | 農業近代化資金等融通対策 総合農政推進資金融通対策 | 119,213千円 | 農業構造政策課 |
| | | 「ぐんま農業実践学校」推進 | 3,290千円 | 農業構造政策課(農林大学校) |
| | | 小規模農村整備 | 600,600千円 | 農村整備課 |
| | | 農山漁村地域整備 | 818,057千円 | 農村整備課 |
| | | 農業競争力強化基盤整備 | 1,483,621千円 (ほかR3年度補正890,000千円) | 農村整備課 |
| | 次世代につながる収益性の高い農業の展開 | 「野菜王国・ぐんま」総合対策 | 134,000千円 | 蚕糸園芸課 |
| | | 園芸産地強化支援 | 350,115千円 | 蚕糸園芸課 |
| | | 野菜価格安定 | 263,636千円 | 蚕糸園芸課 |
| | | 持続的なこんにやく生産を支える総合対策 | 11,853千円 | 蚕糸園芸課 |
| | | 花き振興 | 13,045千円 | 蚕糸園芸課 |
| | | 畜産競争力強化 | 72千円 (ほかR3年度補正220,244千円) | 畜産課 |
| | | 肉牛振興 | 16,711千円 | 畜産課 |
| | | 家畜伝染病予防 | 589,486千円 | 畜産課 |
| | | 環境制御技術の開発推進 | 9,689千円 | 農政課(農業技術センター) |
| | | ぐんま農業イノベーション推進 | 4,100千円 | 技術支援課 |
| | 豊富で多彩な県産農畜産物の需要拡大 | 県産農畜産物ブランド力強化対策 | 112,728千円 | ぐんまブランド推進課 |
| 農畜産物等輸出促進 | | 26,882千円 | ぐんまブランド推進課 | |
| 6次産業化推進 | | 129,361千円 | ぐんまブランド推進課 | |
| 食育推進 | | 3,721千円 | 健康長寿社会づくり推進課 | |
| リスクコミュニケーション推進 | | 1,307千円 | 食品・生活衛生課 | |
| 農産物等放射性物質検査 | | 6,947千円 | 農政課 | |
| 魅力あふれる農村の持続的な発展 | 蚕糸振興 | 41,840千円 | 蚕糸園芸課 | |
| | 漁業振興 | 18,323千円 | 蚕糸園芸課 | |
| | きのこ等振興対策 | 199,755千円 | 林業振興課 | |
| | 病害虫発生予察 | 14,240千円 | 技術支援課 | |
| | 農村地域防災減災 | 797,000千円 (ほかR3年度補正380,000千円) | 農村整備課 | |
| ニューノーマルがもたらす農村の新たな価値の創出 | 鳥獣害防止・鳥獣被害対策支援 | 557,274千円 | 技術支援課 | |
| | グリーン・ツーリズム推進 | 4,983千円 | 農村整備課 | |
| | 多面的機能支払 | 866,078千円 | 農村整備課 | |
| | | 中山間地域等直接支払 中山間地農業ルネッサンス推進 | 146,781千円 | 農村整備課 |

4. 令和4年度実績の概要

新型コロナウイルス感染症により、社会を取り巻く環境が大きく変化するなか、農業者の努力や市町村・関係団体の創意工夫によって、群馬県における農業産出額（令和3年）は前年より59億円の減少に留まり、2,404億円となりました。また、都道府県別順位は、前年14位から2つ順位を上げて12位となりました。

将来にわたって豊かな食生活を支える本県農業・農村が環境と調和しながら持続的に発展していくため、令和3年度からスタートした「群馬県農業農村振興計画2021-2025」に基づき、基本目標である「未来へ紡ぐ！豊かで成長し続ける農業・農村の確立」の達成に向けて、農業の持続的な発展を促進する「産業政策」と、農村の持続的な発展を促進する「地域政策」を車の両輪とした各種施策を推進しました。

群馬県農業産出額と全国順位の推移



<施策の達成状況>

基本施策19項目の達成状況は以下のとおりとなりました。

A : 7項目 B : 12項目 C : 0項目 D : 0項目

| 判定 | 内容（達成状況） |
|----|---|
| A | 計画どおり達成（または概ね達成）している。（100%≦達成状況） |
| B | 達成ではないが、順調に推進している。引き続き、達成に向けて努力する。（80%≦達成状況<100%） |
| C | 達成に向け努力が必要。必要に応じて施策の展開内容等を再点検し、見直しを検討する。（50%≦達成状況<80%） |
| D | 達成に向け大きく努力が必要。かつ、施策の展開内容等を再点検し、必要に応じて抜本的に見直す。（達成状況<50%） ※未実施も含む |

I 未来につながる担い手確保と経営基盤の強化

新規就農者や担い手の確保については、オンライン就農相談の実施や就農希望者に対する研修機会の提供、制度資金や補助事業を活用した機械導入・施設整備等の補助を行いました。また、新たな担い手を地域ぐるみで受け入れる体制整備を促進しました。

地域農業を支える経営体に対しては、担い手の多角的な経営発展を推進するため、様々な分野のスペシャリストによる経営相談会や企業連携による農業課題解決セミナーの開催、農業経営の法人化等を推進し、農業経営の基盤強化を図りました。また、農業における課題解決を図ろうとする農業経営体と斬新なアイデアを事業化するための実証試験のフィールド等を求めるスタートアップ企業をマッチングさせ、双方の課題解決と育成に向けた取組を実施しました。

担い手の多様なニーズに応じた農業生産基盤の保全・整備を進めるとともに、農地中間管理事業を活用し、農業生産基盤整備事業を契機とした担い手への農地集積・集約化を推進するとともに、遊休農地の発生抑制に取り組みました。



オンライン就農相談



農業スタートアップ企業の事業紹介及び意見交換会

II 次世代につなぐ収益性の高い農業の展開

野菜振興では、群馬県で生産が盛んな「きゅうり」「トマト」「なす」「いちご」「キャベツ」「ほうれんそう」「レタス」「ねぎ」を重点8品目として位置づけ、県単補助事業「『野菜王国・ぐんま』総合対策」等を活用し、施設整備や機械導入を補助することで、規模拡大や生産性の向上を図りました。また、園芸施設における燃料価格高騰対策として、施設園芸セーフティネット構築事業の加入促進を図るとともに、資材等の導入経費を補助する事業を創設しました。

花き振興では、県産花きの展示会や高校生フラワーアレンジコンテストを実施するなど、県産花きの魅力発信に取り組みました。

果樹振興では、果樹経営系支援対策事業を活用し、優良品種への転換や新植に係る経費を補助し、収益力の向上を図りました。また、県育成りんご新品種「紅鶴」のプレデビューイベントを高崎駅で実施したほか、インスタグラムを開設して「ぐんまのりんご」をPRしました。

水田振興では、高温耐性品種の普及や高品質米の生産を進めるとともに、高収益作物等の作付拡大に向け、ぐんま型「水田フル活用」を推進しました。

畜産振興では、畜産農家の労働力軽減・経営効率化に向けたICT機器の導入を推進するとともに、ゲノミック評価の活用による改良促進を図りました。その結果として、全国和牛能力共進会に本県代表牛が出品し、肉牛の部で全国5位獲得をは

じめ、本県出品牛としては過去最高の成績を収めました。また、県内の乳用育成牛の増産に向けて、浅間家畜育成牧場の草地整備改良工事等を進めました。さらに、子実トウモロコシ生産の実証など、高栄養・高収量飼料作物を中心に飼料増産の推進に取り組みました。一方、県内での豚熱発生を踏まえて、飼養衛生管理の徹底・強化、野生イノシシの捕獲強化・経口ワクチンの散布、子豚への豚熱ワクチンの適期接種等の対策に重点的に取り組むとともに、県内で初めて発生した高病原性鳥インフルエンザについて、速やかな防疫措置を講じました。



県育成りんご新品種「紅鶴」プレデビューイベント



第12回全国和牛能力共進会入賞

Ⅲ 豊富で多彩な県産農畜産物の需要拡大

G-アナライズ&PR チームでの分析により、県育成品種のウメ（白加賀）やニジマス（ギンヒカリ）の強みや特長を見いだしました。また、上州地鶏（ムネ肉）については、G-アナライズ&PR チームの分析結果を踏まえ、機能性表示食品としての届出が消費者庁に受理されました。

輸出促進については、オンラインを活用したバイヤー招へいや海外での青果物PR販売を行い、商談機会の創出及び輸出拡大に取り組みました。令和4年2月に輸入規制が緩和された台湾において、ヤマトイモ、キャベツ、コンニャク加工品等の輸出に道筋をつけることができました。また、UAE・ドバイの現地レストランにて、こんにゃく麺を使用したメニュー開発や試食提供を行い、現地での健康志向層への需要の可能性を確認することができました。

食育関係では、郷土料理等の地域伝統に根ざした豊かな食文化への理解促進を図るとともに、「学校給食ぐんまの日（10月24日）」に畑と近隣の小学校4校の教室をリモートで結び、生産者と児童約600人が交流を図る食農教育を行いました。また、食品の安全性確保に向けた取組への理解促進を図るために、オンラインセミナー等によるリスクコミュニケーション事業を実施しました。



台湾での青果物PR販売



リモート食農教育

IV 魅力あふれる農村の持続的な発展

蚕糸振興では、県産繭確保対策の実施や県産シルクの需要拡大を図るとともに、多様な養蚕担い手の育成として、ぐんま養蚕学校の開催や養蚕参入に係る初期投資への補助などにより、新規参入者の育成・確保に取り組みました。

水産振興では、電子遊漁券の導入によるニューノーマルに対応した漁場管理の促進や県産ブランドニジマスの消費拡大や養殖業者の育成に取り組みました。

きのこ振興では、きのこ料理コンクールの開催や学校給食に県産きのこの食材提供を行うなど需要拡大に取り組みました。

防災・減災では、防災重点ため池の豪雨・地震に対する詳細調査を推進し、改修・補強を実施するとともに、湛水被害を防止・軽減する排水施設整備に取り組みました。

鳥獣被害対策については、ドローンやネット式囲いわな等を活用した捕獲技術を普及させるとともに、地域ぐるみによる「守る」・「捕る」・「知る」の総合的な対策を推進しました。また、豚熱感染拡大防止のため、野生イノシシの移動経路となっている河川内や養豚場周辺の草木の伐採等を行い、緩衝帯を整備しました。



ぐんま養蚕学校での現場実習



貯水池における耐震補強工事



ネット式囲いわなによる効率的な捕獲

V ニューノーマルがもたらす農村の新たな価値の創出

都市との交流や農村への移住・定住の促進のため、農泊の魅力伝えるプロモーション動画の製作や地域資源を生かした「農泊×養蚕」モニターツアーを実施し、農村への誘客促進を図りました。

農村地域の多面的機能の維持・発揮と農村環境の保全のため、多面的機能支払交付金を活用し、農業者や地域住民等による組織が取り組む多面的機能の維持・発揮や地域資源の質的向上を図る協働活動を推進しました。



地域資源を生かした農泊モデル（農泊×養蚕）



大学生との連携による協働活動

5. 施策推進指標、主要指標の動向

[総合指標]

| 目標指標 | 単位 | R 元年実績 | R4 計画 | R4 実績 | R7 目標 (策定時最終目標) |
|-------|----|--------|-------|-----------|--------------------|
| 農業産出額 | 億円 | 2,361 | 2,520 | R5.12月頃公表 | 2,600 |

[基本施策]

I 未来につながる担い手確保と経営基盤の強化

| 展開方向 | 目標指標 | 単位 | R 元年実績 | R4 計画 | R4 実績 | R7 目標 (策定時最終目標) |
|------|---|-----|--------|--------|-----------|--------------------|
| 1 | 新規就農者数 (45歳未満) (令和3年度からの累計数) | 人 | 170 | 340 | 409 | 850 |
| | 新規就農者数 (45歳以上65歳以下) (令和3年度からの累計数) | 人 | 57 | 140 | 146 | 350 |
| | 農外からの企業参入件数 (年度末時点稼働数) | 件 | 81 | 93 | R5.8月頃公表 | 111 |
| | 農福連携(共同受注窓口)利用農業者数 | 戸 | 16 | 40 | 19 | 70 |
| 2 | 販売農家数 | 千戸 | 22.6 | 19.6 | 19.5 | 16.5 |
| | 担い手数 | 経営体 | 6,247 | 6,620 | 6,554 | 7,040 |
| | 県・国による認定農業者数 (県・国認定開始(R2年度)からの累計数) | 者 | 0 | 350 | 364 | 700 |
| | 集落営農組織数 | 組織 | 134 | 138 | R5.12月頃公表 | 140 |
| | 家族経営協定締結数 | 戸 | 2,106 | 2,172 | R5.8月頃公表 | 2,238 |
| | 農業委員に占める女性率 | % | 15.7 | 20.7 | 18.1 | 30.0 |
| | 農村女性起業数 | 件 | 300 | 315 | R5.9月頃公表 | 330 |
| 3 | 地域計画又は実質化された人・農地プランに基づき取組を実践している地区(集落)の割合 | % | — | 50 | 81 | 80 |
| | 再生可能な遊休農地(1号)面積 | ha | 1,436 | 1,046 | R5.11月頃公表 | 656 |
| | 農用地区域内の農地(耕地)面積 | ha | 59,255 | 58,628 | R5.12月頃公表 | 58,000 |
| | 生産基盤整備事業を契機に担い手へ集積する農地面積 | ha | 332 | 448 | R5.9月頃公表 | 517 |
| 4 | 基幹農業水利施設の長寿命化対策工事を完成させる地区数 | 地区 | 17 | 23 | 21 | 29 |

II 次世代につなぐ収益性の高い農業の展開

| 展開方向 | 目標指標 | 単位 | R 元年実績 | R4 計画 | R4 実績 | R7 目標 (策定時最終目標) |
|------|-----------|----|---------|---------|-----------|--------------------|
| 5 | 野菜産出額 | 億円 | 912 | 1,061 | R5.12月頃公表 | 1,100 |
| | 重点8品目作付面積 | ha | 10,070 | 10,045 | R5.8月頃公表 | 10,231 |
| | 重点8品目出荷量 | t | 433,230 | 432,020 | R5.8月頃公表 | 441,820 |

Ⅱ 次世代につなぐ収益性の高い農業の展開（続き）

| 展開方向 | 目標指標 | 単位 | R 元年実績 | R4 計画 | R4 実績 | R7 目標 (策定時最終目標) |
|------|-----------------------|----|---------|---------|----------|--------------------|
| 5 | 指定野菜価格安定制度交付予約数量 | t | 244,265 | 247,900 | 244,265 | 250,000 |
| | こんにゃく栽培面積 10ha 以上の農家数 | 戸 | 71 | 76 | 74 | 81 |
| | 「みやままさり」栽培面積 | ha | 1,519 | 1,714 | 1,616 | 2,192 |
| | こんにゃく越冬栽培面積 | ha | 28 | 50 | 53 | 42 |
| | 観光果樹品目収穫量（りんご、ぶどう、なし） | t | 13,740 | 13,860 | 12,370 | 14,100 |
| | 果樹改植面積（累計） | ha | 37.4 | 45.6 | 46.6 | 62.4 |
| | 花き産出額 | 億円 | 51 | 56 | R6.3月頃公表 | 60 |
| | きのこ産出額 | 億円 | 52 | 54 | R5.9月頃公表 | 56 |
| 6 | 乳用未經産牛頭数 | 頭 | 10,700 | 10,400 | 10,100 | 10,500 |
| | 豚飼養頭数 | 頭 | 629,600 | 631,800 | 593,700 | 634,000 |
| | 飼料自給率 | % | 37.2 | 38.6 | 37.1 | 40 |
| 7 | うるち玄米一等米比率 | % | 89.7 | 90.0 | 90.6 | 90 |
| | 「いなほっこり」等作付面積 | ha | 100 | 225 | 270 | 500 |
| | ブランド米作付面積 | ha | 304 | 360 | 397 | 450 |
| | 「さとのそら」の農産物検査数量割合 | % | 5.5 | 6.0 | 4.8 | 10 |
| | 「ゆめかおり」のタンパク質含有率 | % | 11.2 | 13.0 | 12.4 | 13~14 |
| 8 | ぐんま農業新技術・技術情報資料の件数 | 件 | 23 | 20 以上 | 22 | 20 以上 |
| | 施設園芸における環境制御技術導入農家数 | 戸 | 97 | 148 | 153 | 160 |
| | 水田作におけるスマート農業機械導入農家数 | 戸 | 45 | 75 | 79 | 80 |
| 9 | GAP の取組組織数 | 組織 | 100 | 116 | 131 | 140 |
| | 農作業死亡事故件数 | 件 | 5 | 0 | R6.3月頃公表 | 0 |

Ⅲ 豊富で多彩な県産農畜産物の需要拡大

| 展開方向 | 目標指標 | 単位 | R 元年実績 | R4 計画 | R4 実績 | R7 目標 (策定時最終目標) |
|------|-----------------------------------|-----|--------|--------|----------|--------------------|
| 10 | 群馬県産農畜産物を「買いたい」「食べたい」と考えている消費者の割合 | % | 31.5 | 31.9 | 34.1 | 33.6 |
| | PR 動画の年間総視聴回数 | 回 | 15,097 | 18,000 | 69,999 | 30,000 |
| | 農業生産関連事業年間総販売額 (6次産業化総合調査) | 百万円 | 61,800 | 68,479 | R6.6月頃公表 | 70,554 |

Ⅲ 豊富で多彩な県産農畜産物の需要拡大（続き）

| 展開方向 | 目標指標 | 単位 | R 元年実績 | R4 計画 | R4 実績 | R7 目標 (策定時最終目標) |
|------|----------------------------------|------|--------|----------|---------|--------------------|
| 11 | 青果物輸出金額 | 百万円 | 116 | 40 | 8 | 200 |
| | 輸出に取り組む産地・事業者数 | 産地・者 | 13 | 22 | 25 | 26 |
| 12 | ぐんま地産地消優良店認定店舗数 | 店舗 | 69 | 75 | 85 | 100 |
| | 地域や家庭で受け継がれてきた料理や味について知っている県民の割合 | % | 47.2 | 53.7 | R6 年度公表 | 60 |
| 13 | リスクコミュニケーション事業年間参加者人数 | 人 | 2,784 | 3,000 以上 | 2,977 | 3,000 以上 |
| | 動物用医薬品販売業者への立入検査割合 | % | 31.8 | 33.3 | 38.9 | 33 以上 |
| | 講習会等での農薬適正使用指導回数 | 回 | 1,315 | 1,300 | 1,017 | 1,300 以上 |

Ⅳ 魅力あふれる農村の持続的な発展

| 展開方向 | 目標指標 | 単位 | R 元年実績 | R4 計画 | R4 実績 | R7 目標 (策定時最終目標) |
|------|---|----|-----------------|---------|---------|--------------------|
| 14 | 繭生産量 | t | 36 | 42 | 19 | 50 |
| | 養蚕経営体一戸当たり繭生産量 | Kg | 353 | 420 | 306 | 500 |
| | ハコスチ生産量 | t | 9 | 24 | 14.5 | 30 |
| 15 | エコファーマー認定者数（累計） | 人 | 5,728 | 6,320 | 6,475 | 6,920 |
| | 病虫害発生予察情報の提供回数 (年間) | 回 | 16 (うち予報 12) | 12 | 20 | 12 以上 |
| 16 | ハザードマップの作成及び豪雨・地震における詳細調査を完了させる防災重点ため池数 | 箇所 | 60 | 157 | 157 | 197 |
| 17 | 野生鳥獣による農作物被害額 | 千円 | 337,746 | 212,000 | 277,904 | 176,000 |
| | 野生鳥獣による農作物被害面積 | ha | 186 | 157 | 142 | 134 |

Ⅴ ニューノーマルがもたらす農村の新たな価値の創出

| 展開方向 | 目標指標 | 単位 | R 元年実績 | R4 計画 | R4 実績 | R7 目標 (策定時最終目標) |
|------|-------------------------|----|--------|--------|--------|--------------------|
| 18 | 「農泊モデル地区」の支援数 | 地区 | 0 | 2 | 2 | 3 |
| 19 | 農地・農業用施設の維持・保全が図られた農地面積 | ha | 17,553 | 19,210 | 18,869 | 20,000 |

[重点プロジェクト]

| PJ | 目標指標 | 単位 | R 元年実績 | R4 計画 | R4 実績 | R7 目標 (策定時最終目標) |
|----|---------------------------------------|------|---------|---------|-----------|--------------------|
| A | 年間分析品目数 | 回/年 | 1 | 5 | 8 | 4 |
| | PR動画の年間総視聴回数【再掲】 | 回 | 15,097 | 18,000 | 69,999 | 30,000 |
| B | 就農受入体制整備産地数（延べ） | 産地 | 8 | 14 | 11 | 20 |
| | 産地受入者数（就農者）（延べ） | 人 | 4 | 8 | 20 | 20 |
| C | 農業法人数 | 法人 | 815 | 940 | 970 | 1,100 |
| | 農業経営相談所による重点指導農業者数（累計） | 者 | 97 | 202 | 192 | 307 |
| | 販売金額 100 万円以上の農家の平均販売金額 | 千円 | 19,800 | 21,800 | R6.4 月頃公表 | 23,200 |
| D | 耕地面積 | ha | 67,600 | 64,780 | 64,900 | 62,000 |
| | 担い手への農地集積率 | % | 38.8 | 54.2 | 42.4 | 66 |
| E | 野生鳥獣による農作物被害額【再掲】 | 千円 | 337,746 | 212,000 | 277,904 | 176,000 |
| | 地域ぐるみの被害対策の取組地域数（延べ） | 地域 | 5 | 20 | 17 | 35 |
| F | きゅうり出荷量 | t | 52,900 | 51,830 | 50,000 | 53,600 |
| | 全国順位 | 位 | 2 | 2 | 2 | 2 |
| | 夏秋なす出荷量 | t | 16,600 | 16,920 | 19,100 | 17,500 |
| | 全国順位 | 位 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| | ほうれんそう出荷量 | t | 18,500 | 20,400 | R5.8 月頃公表 | 20,400 |
| | 全国順位 | 位 | 2 | 1 | | 1 |
| | いちご出荷量 | t | 2,730 | 3,050 | R5.8 月頃公表 | 3,120 |
| G | 高収益作物等の作付面積 | ha | 1,394 | 1,495 | 1,453 | 1,700 |
| | 高度先端技術導入経営体数 (収量コンバイン、管理システム) | 経営体 | 18 | 40 | 40 | 30 |
| H | 新たな養蚕経営体数 (H26 からの累計) | 経営体 | 23 | 30 | 30 | 38 |
| | 新規用途・遺伝子組換えカイコ等の飼育量 | 頭 | 300,000 | 920,000 | 0 | 1,500,000 |
| I | 群馬県産農畜産物を「買いたい」「食べたい」と考えている消費者の割合【再掲】 | % | 31.5 | 31.9 | 34.1 | 33.6 |
| | PR動画の年間総視聴回数【再掲】 | 回 | 15,097 | 18,000 | 69,999 | 30,000 |
| J | 青果物輸出金額【再掲】 | 百万円 | 116 | 40 | 8 | 200 |
| | 輸出に取り組む産地・事業者数【再掲】 | 産地・者 | 13 | 22 | 25 | 26 |
| K | 一戸当たり生乳生産量 | t | 443 | 477 | R5.8 月頃公表 | 525 |
| | 枝肉重量（和牛去勢） | kg | 508 | 514 | 515 | 520 |
| | 飼料用トウモロコシ作付面積 | ha | 2,650 | 2,710 | 2,430 | 2,800 |
| | 高糖分高消化性イネ WCS 作付面積 | ha | 53.8 | 70 | 111.1 | 100 |

[重点プロジェクト] (続き)

| PJ | 目標指標 | 単位 | R 元年実績 | R4 計画 | R4 実績 | R7 目標 (策定時最終目標) |
|----|---|----|--------|-------|-------|--------------------|
| L | 「農泊モデル地区」の支援数【再掲】 | 地区 | 0 | 2 | 2 | 3 |
| | 中山間地域における新規就農者数 (65歳以下、令和3年度からの累計数) | 人 | 35 | 90 | 88 | 225 |
| M | ハザードマップの作成及び豪雨・地震に おける詳細調査を完了させる防災重点た め池数【再掲】 | 箇所 | 60 | 157 | 157 | 197 |

[地域重点プロジェクト]

中部

| PJ | 目標指標 | 単位 | R 元年実績 | R4 計画 | R4 実績 | R7 目標 (策定時最終目標) |
|----|----------------------------------|----|--------|--------|--------|--------------------|
| A | 体質強化に取り組んだ集落営農法人数 | 法人 | 0 | 3 | 6 | 10 |
| | 飼料作物（飼料イネ・飼料用麦・飼料用トウモロコシ）の作業受託面積 | ha | 275 | 292 | 300 | 310 |
| B | きゅうり出荷量 | t | 12,700 | 13,600 | 12,031 | 14,000 |
| | なす出荷量 | t | 5,327 | 5,700 | 5,975 | 6,000 |

西部

| PJ | 目標指標 | 単位 | R 元年実績 | R4 計画 | R4 実績 | R7 目標 (策定時最終目標) |
|----|-----------------|----|--------|-------|-------|--------------------|
| A | 松義台地の担い手への農地集積 | ha | 85.6 | 104 | 111.7 | 106 |
| | こんにゃくの越冬栽培面積 | ha | 27 | 53 | 53 | 39 |
| B | 果樹（なし、うめ等）改植面積 | ha | 4.1 | 7.3 | 7.4 | 10.3 |
| | ナシハダニ天敵導入農家数 | 戸 | 11 | 23 | 24 | 35 |
| C | 10aあたり収量（2JA） | kg | 4,285 | 4,700 | 4,246 | 4,500 |
| | IPM技術導入農家戸数（全域） | 戸 | 57 | 73 | 89 | 76 |

吾妻

| PJ | 目標指標 | 単位 | R 元年実績 | R4 計画 | R4 実績 | R7 目標 (策定時最終目標) |
|----|------------------------|------|---------|---------|---------|--------------------|
| A | 受入協議会活動による新規就農者数（累計） | 人 | 10 | 17 | 16 | 21 |
| | 集落営農組織の栽培面積・作業受託面積 | ha | 51 | 55.6 | 53.3 | 56.6 |
| B | 吾妻西部の高原野菜の出荷量 | 万ケース | 1,932 | 2,029 | 1,885 | 2,030 |
| | 吾妻西部の野生鳥獣による農作物被害額 | 千円 | 170,805 | 110,800 | 157,071 | 95,000 |
| C | 1戸当たりの成牛頭数（24ヶ月齢以上） | 頭 | 66 | 70 | 88 | 69 |
| | 生乳体細胞数 300千個/ml以下の農家割合 | % | 83 | 85 | 88 | 90 |
| | TMRセンター利用農家の成牛頭数 | 頭 | 576 | 1,203 | 848 | 1,452 |

利根沼田

| PJ | 目標指標 | 単位 | R 元年実績 | R4 計画 | R4 実績 | R7 目標 (策定時最終目標) |
|----|----------------------|------|--------|-------|-------|--------------------|
| A | トマト販売出荷量（JA 利根沼田） | 千ケース | 1,630 | 1,625 | 1,629 | 1,700 |
| | レタス販売出荷量（JA 利根沼田） | 千ケース | 2,376 | 2,425 | 2,563 | 2,500 |
| B | 牛の平地区における担い手への農地集積面積 | ha | 0 | 3.6 | 4.2 | 14.6 |
| | 牛の平地区における担い手数 | 人 | 1 | 4 | 4 | 7 |

東部

| PJ | 目標指標 | 単位 | R 元年実績 | R4 計画 | R4 実績 | R7 目標 (策定時最終目標) |
|----|--------------------|----|--------|--------|--------|--------------------|
| A | 担い手への農地集積率 | % | 55.5 | 61.8 | 62.7 | 66 |
| | 契約栽培面積 | ha | 72 | 104 | 92 | 111 |
| | 20a以上の区画整理整備済み耕地面積 | ha | 2936 | 3,067 | 3,060 | 3,070 |
| B | 耕作放棄地解消面積 | ha | 2.9 | 4.7 | 5.1 | 5.9 |
| | 新規作物導入数（累計） | 作物 | 6 | 8 | 8 | 9 |
| | 農産加工品創出数（累計） | 品目 | 4 | 10 | 10 | 7 |
| | 野生鳥獣による農作物被害額 | 千円 | 13,591 | 11,008 | 11,855 | 8,430 |

[主要指標の動向]

| | 単位 | H17 | H22 | H27 | R2 |
|-----------------|----|--------|--------|--------|--------|
| 農地面積 | ha | 78,500 | 75,400 | 71,900 | 66,800 |
| 田 | ha | 29,400 | 28,100 | 27,100 | 25,300 |
| 畑 | ha | 49,000 | 47,300 | 44,900 | 41,500 |
| 基幹的農業従事者数(販売農家) | | | | | |
| 総数 | 人 | 53,612 | 45,304 | 37,917 | 27,832 |
| 15～29歳 | 人 | 893 | 749 | 585 | 372 |
| 30～59歳 | 人 | 15,526 | 11,497 | 8,110 | 5,567 |
| 60歳以上 | 人 | 37,193 | 33,058 | 29,222 | 21,893 |
| 平均年齢 | 歳 | 64.3 | 66.0 | 66.8 | 67.5 |

資料：農林水産省「耕地及び作付面積統計」「農林業センサス」「農業構造動態調査」 ※R2から個人経営体で算出

| | 単位 | H28 | H29 | H30 | R元 | R2 |
|-----------|----|-------|-------|-------|-------|-------|
| 農業産出額 | 億円 | 2,632 | 2,550 | 2,454 | 2,361 | 2,463 |
| 米 | 億円 | 152 | 163 | 166 | 156 | 152 |
| 麦類 | 億円 | 12 | 13 | 12 | 12 | 13 |
| 雑穀・豆类・いも類 | 億円 | 17 | 13 | 12 | 14 | 17 |
| 園芸 | 億円 | 1,222 | 1,150 | 1120 | 1046 | 1130 |
| 野菜 | 億円 | 1,070 | 997 | 983 | 912 | 1004 |
| 果実 | 億円 | 95 | 96 | 83 | 83 | 80 |
| 花き | 億円 | 57 | 57 | 54 | 51 | 46 |
| 工芸農作物 | 億円 | 91 | 74 | 82 | 63 | 61 |
| 種苗・その他 | 億円 | 12 | 13 | 13 | 12 | 11 |
| 畜産 | 億円 | 1,124 | 1,123 | 1047 | 1058 | 1079 |
| 肉用牛 | 億円 | 153 | 153 | 161 | 161 | 146 |
| 乳用牛 | 億円 | 319 | 289 | 269 | 262 | 259 |
| 豚 | 億円 | 430 | 452 | 409 | 430 | 465 |
| 鶏 | 億円 | 210 | 216 | 199 | 192 | 199 |
| その他 | 億円 | 13 | 12 | 11 | 13 | 12 |
| 加工農産物 | 億円 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |

資料：農林水産省「生産農業所得統計」

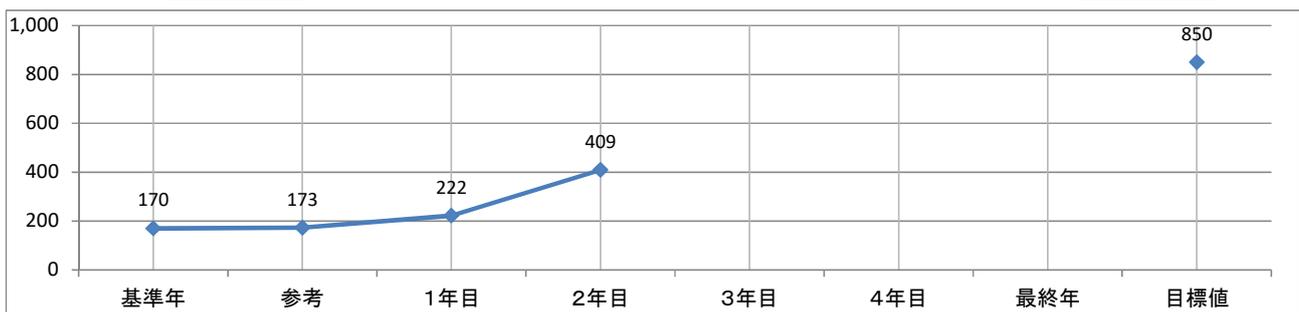
6. 基本施策

| 展開方向 | 項目 | 評価 |
|------|------------------------------------|----|
| 1 | ニューノーマルに対応した多様な農業従事者の確保 | A |
| 2 | 地域農業を支える力強い経営体の育成 | A |
| 3 | 農地利用の最適化と生産基盤の整備による農業の成長産業化 | B |
| 4 | 農地・農業水利施設等の適切な保全管理の推進 | A |
| 5 | ニューノーマルにおける園芸産地等の競争力強化 | B |
| 6 | 国際競争に打ち勝つ強靱な畜産経営の確立 | B |
| 7 | 地域の特性を生かした持続的な水田農業の展開 | B |
| 8 | D Xを背景としたスマート農業等の新技術や新品種の研究開発と普及促進 | A |
| 9 | 農業経営の安定化に向けたリスクマネジメントの強化 | B |
| 10 | 県産農畜産物の「強み」を生かした魅力発信と需要拡大 | B |
| 11 | 農畜産物等の輸出促進による販路拡大 | B |
| 12 | 食の地産地消の推進による地域内の経済循環の向上 | B |
| 13 | 安全確保策に基づく安全・安心な農畜産物の提供 | B |
| 14 | 歴史的・文化的背景を持つ多彩な地域特産物の生産振興 | B |
| 15 | 資源循環を目指した環境保全型農業の推進 | B |
| 16 | 誰もが安心して暮らせる農村地域の実現に向けた防災・減災対策の強化 | A |
| 17 | 官民共創による野生鳥獣被害防止対策の強化 | B |
| 18 | 「快疎」な空間としての農村地域を求める関係人口の拡大・深化 | A |
| 19 | 農村協働力（地域の絆）の深化による多面的機能の維持・発揮 | A |

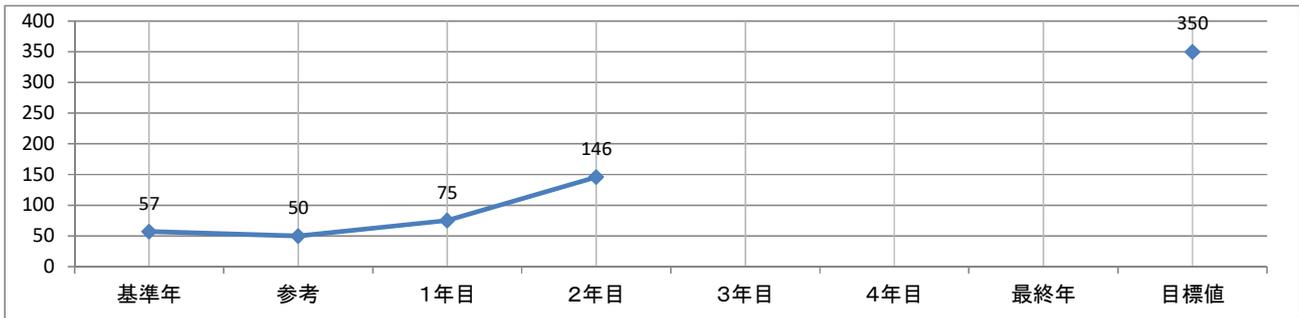
群馬県農業農村振興計画2021-2025 基本施策 実績シート

| | | | |
|----------|---|------|--|
| 施策の柱 | 未来につながる担い手確保と経営基盤の強化【人・農地】 | | |
| 展開方向 | ニューノーマルに対応した多様な農業従事者の確保 | | |
| 推進内容 | ①新規就農に向けた支援の拡大 ②人材育成のための農業教育の充実 ③農外からの企業参入の推進 ④農業を支える人材の確保 | | |
| 担当課 | 農業構造政策課 | | |
| 各年度の実績動向 | 年度 | 達成状況 | 成果・課題 |
| | R3 (1年目) | B | 【成果】 ・就農相談については、コロナ禍に対応するためにオンラインによる就農相談窓口の整備(13ヶ所)や就農イベント参加(7回)の取組を行った。また、希望者には農業体験事業・就農留学事業を実施した。(成果 相談者:357人:延べ相談件数586件、新規就農者45歳未満:222人) ・「高校生のための農林業チャレンジセミナー」を実施し、高校生の就業・就農意識醸成に努めた。(成果 高校生参加者25人) ・農外からの企業参入については、13件の相談を受け、新たな担い手の確保に努めた。相談対応のうち1件が参入、2件が参入に向けて調整を行っている。 ・多様な人材確保に係る農福連携を推進し、特別支援学校生徒の現場実習を支援し、特別支援学校生徒1名が農業法人に就農した。 |
| | R4 (2年目) | A | 【成果】 ・新規就農者や担い手の確保に向けて、就農イベント出展等を行った(9回)。また、就農希望者には農業体験事業・ファームトレーニング事業を実施した。農業体験事業では、受入れ農家に有機農業者を追加し、有機農業を志望する相談者への対応を強化した。(相談者:368人:延べ相談件数583件、新規就農者45歳未満:187人) ・農外からの企業参入に関する相談を12件受けた。相談対応のうち1件が調整中であり、令和3年度からの継続案件2件が企業参入となった。 【課題】 ・施設園芸での就農を希望する相談者が、資材費高騰の影響により初期投資が比較的少ない露地野菜等で就農する場面が発生している。 ・有機農業での就農希望者に対して、研修等を受入れられる産地は限られており、他産地での受入れ体制を整備する必要がある。 ・企業参入については、実現可能な事業計画の作成に至らないケースが多いため、計画作成段階からのサポートが必要である。 |
| | R5 (3年目) | | 【成果】 【課題】 |
| | R6 (4年目) | | 【成果】 【課題】 |
| | R7 (最終年) | | 【成果】 【課題】 |

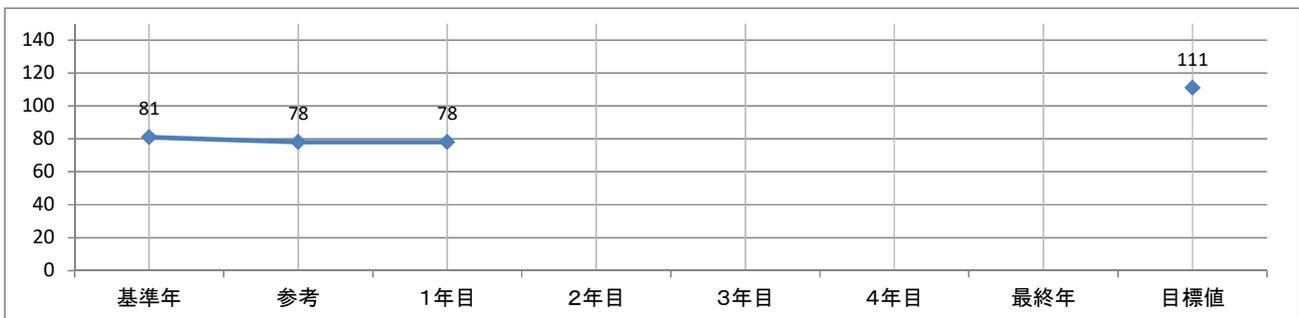
| | | | | | | | | | | |
|-------|----|----------------------------|-----|-----|-----|-----|-----|-------|-----|------------|
| 目標指標① | | 新規就農者数(45歳未満)(令和3年度からの累計数) | | | | | | 指標の単位 | 人 | |
| 実績 | | 基準年 | 参考 | 1年目 | 2年目 | 3年目 | 4年目 | 最終年 | 目標値 | 目標値に対する進捗率 |
| | | R1 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 | | |
| | 実績 | 170 | 173 | 222 | 409 | | | | 850 | |
| | 計画 | | - | 170 | 340 | | | | | |



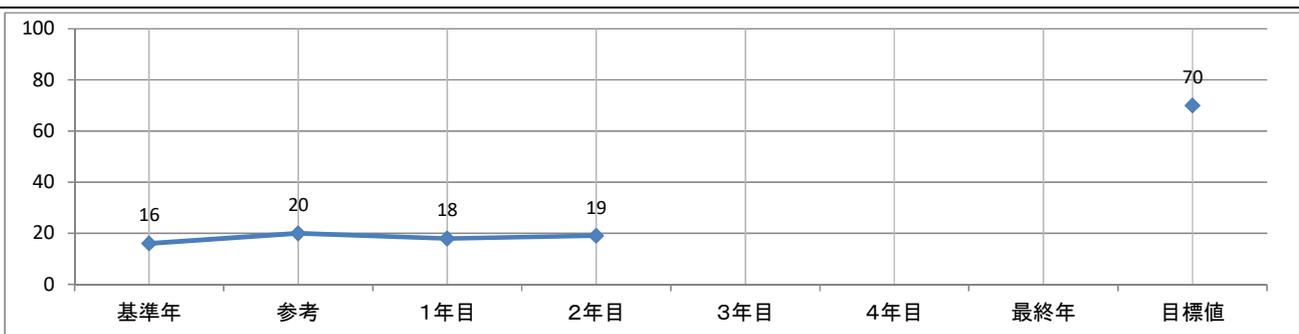
| 目標指標② | | 新規就農者数(45以上65歳以下)(令和3年度からの累計数) | | | | | | | 指標の単位 | 人 | |
|-------|----|--------------------------------|----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|------------|-----|
| 実績 | | 基準年 | 参考 | 1年目 | 2年目 | 3年目 | 4年目 | 5年目 | 目標値 | 目標値に対する進捗率 | |
| | | R1 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 | | | |
| | 実績 | 57 | 50 | 75 | 146 | | | | | | 350 |
| 計画 | | - | 70 | 140 | | | | | | | |



| 目標指標③ | | 農外からの企業参入件数(年度別稼働数) | | | | | | | 指標の単位 | 件 | |
|-------|----|---------------------|----|-----|----------|-----|-----|-----|-------|------------|-----|
| 実績 | | 基準年 | 参考 | 1年目 | 2年目 | 3年目 | 4年目 | 5年目 | 目標値 | 目標値に対する進捗率 | |
| | | R1 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 | | | |
| | 実績 | 81 | 78 | 78 | R5.8月頃公表 | | | | | | 111 |
| 計画 | | - | 87 | 93 | | | | | | | |



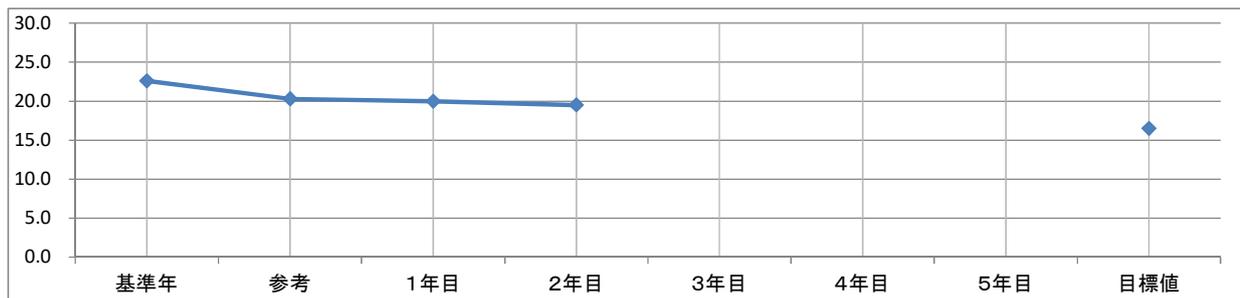
| 目標指標④ | | 農福連携(共同受注窓口)利用農業者数(年度別) | | | | | | | 指標の単位 | 戸 | |
|-------|----|-------------------------|----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|------------|----|
| 実績 | | 基準年 | 参考 | 1年目 | 2年目 | 3年目 | 4年目 | 5年目 | 目標値 | 目標値に対する進捗率 | |
| | | R1 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 | | | |
| | 実績 | 16 | 20 | 18 | 19 | | | | | | 70 |
| 計画 | | - | 30 | 40 | | | | | | | |



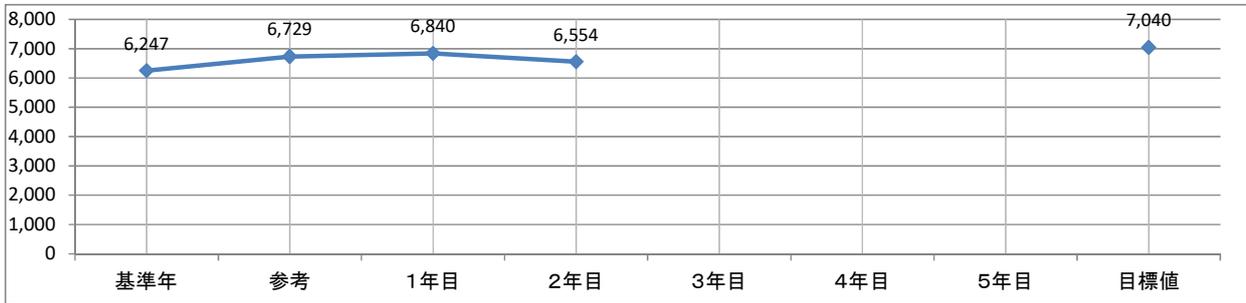
群馬県農業農村振興計画2021-2025 基本施策 実績シート

| | | | |
|----------|--|------|---|
| 施策の柱 | 未来につながる担い手確保と経営基盤の強化【人・農地】 | | |
| 展開方向 | 地域農業を支える力強い経営体の育成 | | |
| 推進内容 | ①力強い担い手の育成 ②地域農業のリーダー育成と活動促進 ③女性農業者の活躍促進 | | |
| 担当課 | 農業構造政策課 | | |
| 各年度の実績動向 | 年度 | 達成状況 | 成果・課題 |
| | R3 (1年目) | B | <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 認定農業者の県認定(複数市町村に渡る改善計画)の認定事務を着実に実施することで、国・県による広域の認定農業者数は、制度開始から279経営体(県244、国35)に増加、R3末までに、200経営体を認定するとして計画を上回る実績となった。また、集落営農組織等の経営基盤の強化を進めるため、県内の集落営農組織を対象としたアンケート調査を実施し、現状や課題を整理した。 農業経営士、農村生活アドバイザー、青年農業士の認定事務を行うとともに、次代を担い地域農業のリーダー育成のため「農業青年実績発表会・リーダー研修会」を開催した(成果:経営士10人、アドバイザー7人、青年農業士20人新規認定)。また、「ぐんま農業フロントランナー養成塾」を開催し、将来の地域農業を担う経営感覚に優れた人材の育成に取り組み、20名の卒業生を輩出することができた(H24以降、のべ289名の卒業生を輩出)。 継続的な女性農業活動の学習や組織活動支援に努めました(成果:全国表彰事業「R3年度農山漁村女性活躍表彰」農林水産大臣賞受賞1名、農山漁村男女共同参画推進協議会長賞受賞1名)。 |
| | R4 (2年目) | A | <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 認定農業者の県認定(複数市町村に渡る改善計画)の認定事務を着実に実施することで、国・県による広域の認定農業者数は、制度開始から364経営体(県316、国48)に増加、令和4年度末までに、350経営体を認定するとして計画を上回る実績となった。 農業の課題解決に向けて、新たに農業経営体とスタートアップ企業とのマッチングを進めたところ、15件のマッチング成果を得た。マッチングした農業経営体とスタートアップ企業のうち一部は、令和5年度から実施する課題解決実証に取り組む見通しである。 優良経営体表彰において、県内生産者(1名)が農林水産大臣賞を受賞した。 農業経営士、農村生活アドバイザー、青年農業士の認定事務を行うとともに、農福連携をテーマにトップリーダー研修会を開催した(経営士8人、アドバイザー8人、青年農業士15人新規認定)。 継続的な女性農業活動の学習や組織活動支援に努めた。(全国表彰事業「令和3年度農山漁村女性活躍表彰」農林水産大臣賞受賞1名、経営局長賞1団体)。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 持続的な食料システムの構築に向けて、環境負荷の低減に向けた地域のモデル的な取組の創出やその横展開が図られるよう、マッチングした農業経営体とスタートアップ企業による現地実証を進めていく必要がある。 |
| | R5 (3年目) | | <p>【成果】</p> <p>【課題】</p> |
| | R6 (4年目) | | <p>【成果】</p> <p>【課題】</p> |
| | R7 (最終年) | | <p>【成果】</p> <p>【課題】</p> |

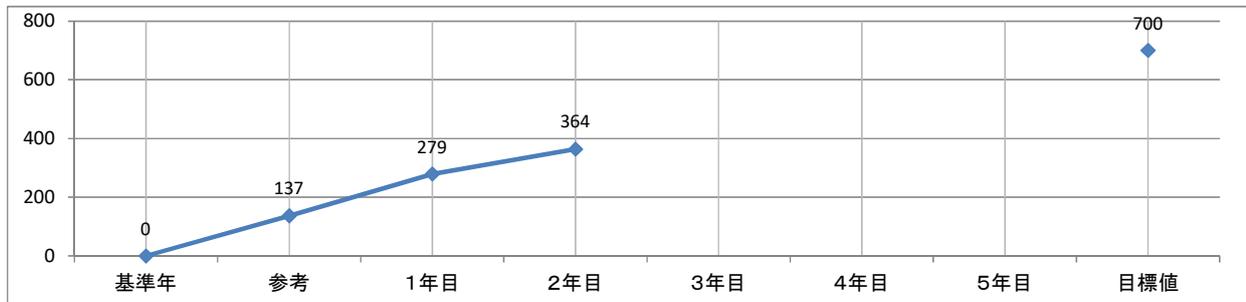
| 目標指標① | | 販売農家数 | | | | | | 指標の単位 | 千戸 | |
|-------|----|-------|------|------|------|------|-----|-------|-----|------------|
| 実績 | | 基準年 | 参考 | 1年目 | 2年目 | 3年目 | 4年目 | 5年目 | 目標値 | 目標値に対する進捗率 |
| | | R1 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 | | |
| | 実績 | | 22.6 | 20.3 | 20.0 | 19.5 | | | | 16.5 |
| 計画 | | | - | 20.2 | 19.6 | | | | | |



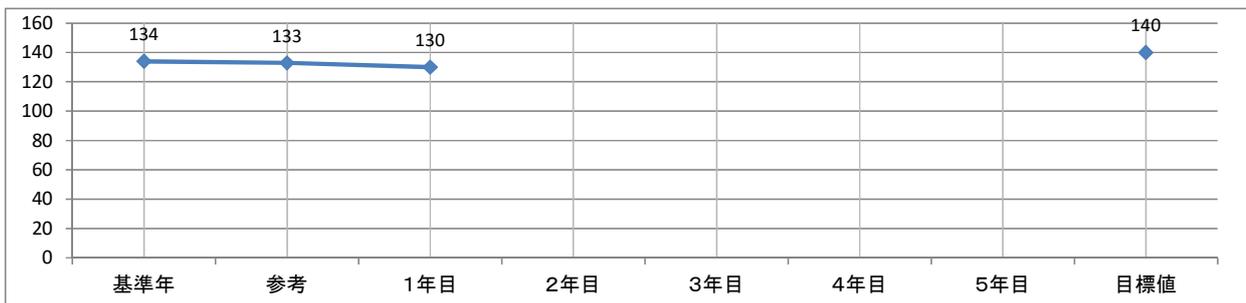
| 目標指標② | | 担い手数(年度末時点) | | | | | | 指標の単位 | 経営体 | |
|-------|----|-------------|-------|-------|-------|-----|-----|-------|-------|------------|
| 実績 | | 基準年 | 参考 | 1年目 | 2年目 | 3年目 | 4年目 | 5年目 | 目標値 | 目標値に対する進捗率 |
| | | R1 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 | | |
| | 実績 | 6,247 | 6,729 | 6,840 | 6,554 | | | | 7,040 | |
| 計画 | | - | 6,490 | 6,620 | | | | | | |



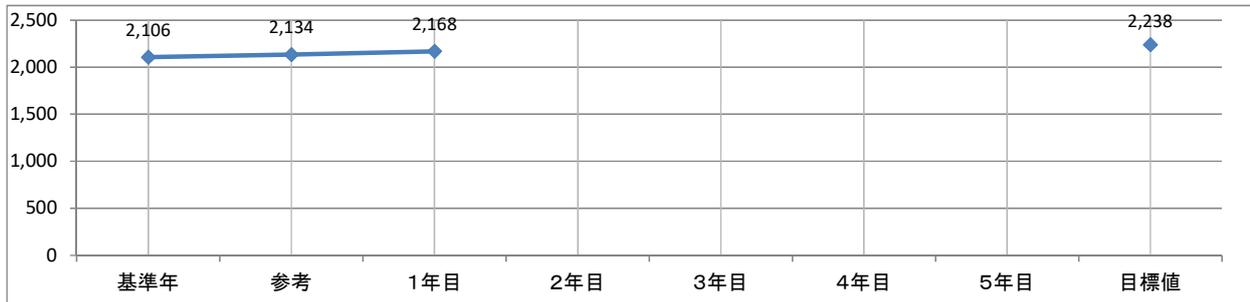
| 目標指標③ | | 県・国による認定農業者数(県・国認定開始(R2年度)からの累計数) | | | | | | 指標の単位 | 者 | |
|-------|----|-----------------------------------|-----|-----|-----|-----|-----|-------|-----|------------|
| 実績 | | 基準年 | 参考 | 1年目 | 2年目 | 3年目 | 4年目 | 5年目 | 目標値 | 目標値に対する進捗率 |
| | | R1 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 | | |
| | 実績 | 0 | 137 | 279 | 364 | | | | 700 | |
| 計画 | | - | 200 | 350 | | | | | | |



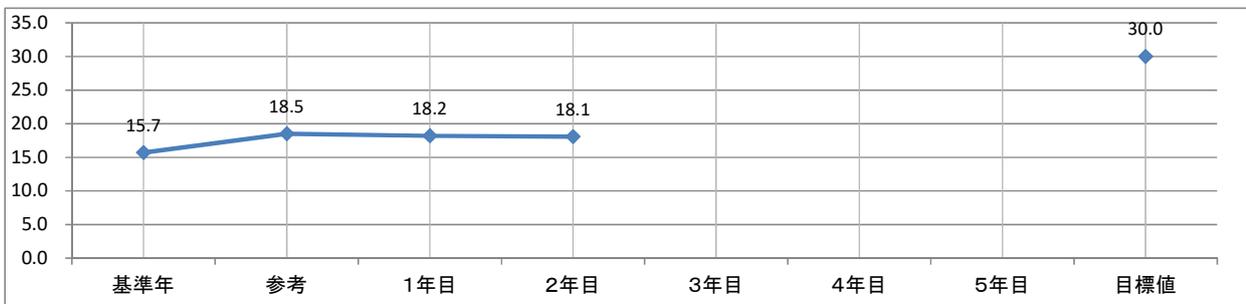
| 目標指標④ | | 集落営農組織数(年度末時点) | | | | | | 指標の単位 | 組織 | |
|-------|----|----------------|-----|-----|-----------|-----|-----|-------|-----|------------|
| 実績 | | 基準年 | 参考 | 1年目 | 2年目 | 3年目 | 4年目 | 5年目 | 目標値 | 目標値に対する進捗率 |
| | | R1 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 | | |
| | 実績 | 134 | 133 | 130 | R5.12月頃公表 | | | | 140 | |
| 計画 | | - | 137 | 138 | | | | | | |



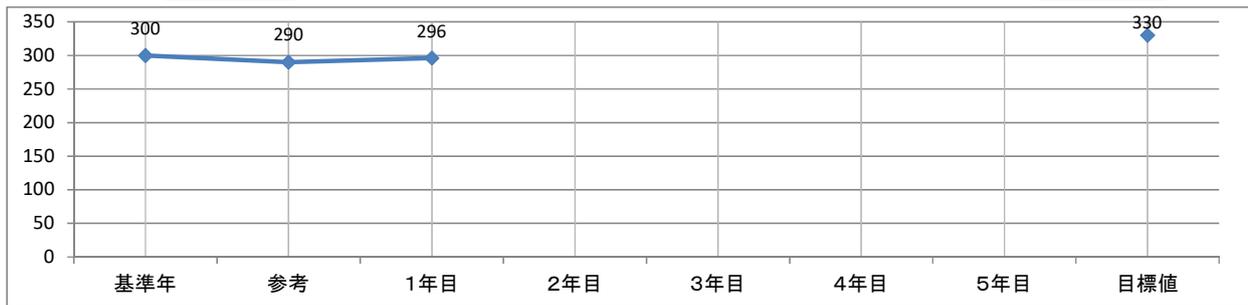
| 目標指標⑤ | | 家族経営協定締結数(年度末時点) | | | | | | | 指標の単位 | 戸 | |
|-------|----|------------------|-------|-------|----------|-----|-----|-----|-------|------------|-------|
| 実績 | | 基準年 | 参考 | 1年目 | 2年目 | 3年目 | 4年目 | 5年目 | 目標値 | 目標値に対する進捗率 | |
| | | R1 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 | | | |
| | 実績 | 2,106 | 2,134 | 2,168 | R5.8月頃公表 | | | | | | 2,238 |
| 計画 | | - | 2,150 | 2,172 | | | | | | | |



| 目標指標⑥ | | 農業委員に占める女性比率(年度末時点) | | | | | | | 指標の単位 | % | |
|-------|----|---------------------|------|------|------|-----|-----|-----|-------|------------|------|
| 実績 | | 基準年 | 参考 | 1年目 | 2年目 | 3年目 | 4年目 | 5年目 | 目標値 | 目標値に対する進捗率 | |
| | | R1 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 | | | |
| | 実績 | 15.7 | 18.5 | 18.2 | 18.1 | | | | | | 30.0 |
| 計画 | | - | 18.7 | 20.7 | | | | | | | |



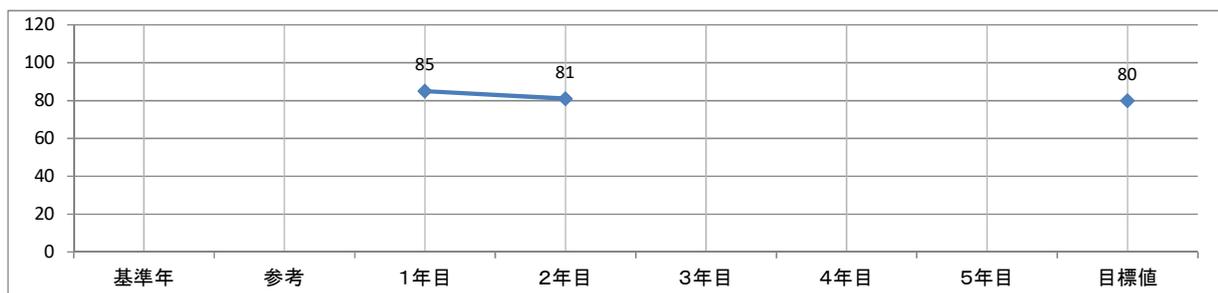
| 目標指標⑦ | | 農村女性起業数(年度末時点) | | | | | | | 指標の単位 | 件 | |
|-------|----|----------------|-----|-----|----------|-----|-----|-----|-------|------------|-----|
| 実績 | | 基準年 | 参考 | 1年目 | 2年目 | 3年目 | 4年目 | 5年目 | 目標値 | 目標値に対する進捗率 | |
| | | R1 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 | | | |
| | 実績 | 300 | 290 | 296 | R5.9月頃公表 | | | | | | 330 |
| 計画 | | - | 310 | 315 | | | | | | | |



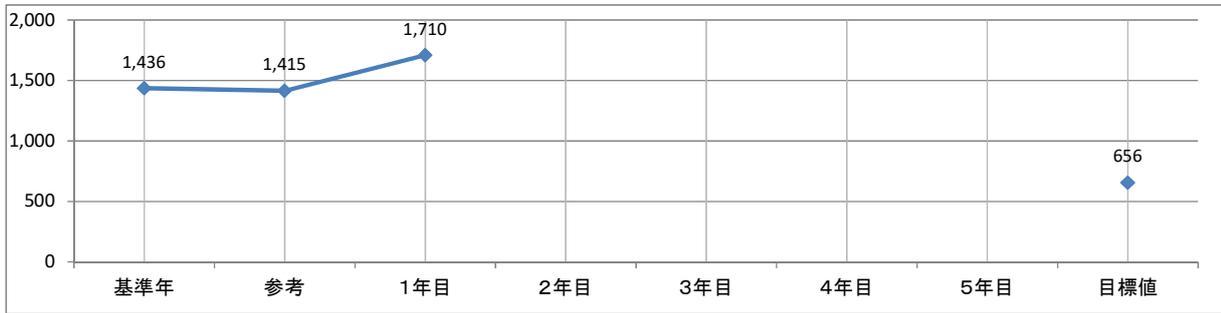
群馬県農業農村振興計画2021-2025 基本施策 実績シート

| | | | |
|----------|---|------|---|
| 施策の柱 | 未来につながる担い手確保と経営基盤の強化【人・農地】 | | |
| 展開方向 | 農地利用の最適化と生産基盤の整備 | | |
| 推進内容 | ①地域計画の策定と実現支援 ②遊休農地の発生抑制と再生支援 ③農地制度による優良農地の確保 ④生産基盤整備の推進 | | |
| 担当課 | 農業構造政策課、農村整備課 | | |
| 各年度の実績動向 | 年度 | 達成状況 | 成果・課題 |
| | R3 (1年目) | B | <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 人・農地プランの実質化が完了していない地域において取組を推進した。その結果、実質化が完了したプラン数は、226から244プラン(+18)に増加した。これにより、実質化された人・農地プランに基づき取組を実践している地区(集落)の割合は85%になり、目標としている80%を超える結果となった。 農地中間管理事業を中心とした農地集積の推進により遊休農地の発生抑制を行った。農地の出し手対策である経営転換協力金は93戸、30haの実績となり、遊休農地解消(再生支援)については、7地区、2.2haで支援した。 農用地区域内の農地を除外する市町村農業振興整備計画の変更協議について、農振法に基づく要件審査を適正に行った。その結果、除外面積約187haについて同意した。 上細井中西部地区(前橋市)ほか14地区において区画整理などの基盤整備を実施・支援し、担い手への農地集積を促進した。(実績は9月公表予定) |
| | R4 (2年目) | B | <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「人・農地プラン」の実質化が完了していない地域において取組を推進した。その結果、実質化が完了したプラン数は、244プランから4プラン増加し、248プランとなった。一方、実質化された「人・農地プラン」に基づき取組を実践している地区(集落)の割合は81%になり、目標としている80%を超える結果となった。 農地中間管理事業を中心とした農地集積の推進により遊休農地の発生抑制を行った。農地中間管理機構によって約192haの農地が新たに担い手に集積された。遊休農地解消(再生支援)については、6地区、2.8haで支援した。 農用地区域内の農地を除外する市町村農業振興整備計画の変更協議について、農振法に基づく要件審査を適正に行った。令和4年度は5年に1度の基礎調査に基づく見直しにより山林化した農地などの除外が約1,113haがあったため、除外全体面積が約1,461haと前年度(約187ha)より大幅に増加した。 上細井中西部地区(前橋市)ほか14地区において区画整理などの基盤整備を実施・支援し、担い手への農地集積を促進した。(実績は9月公表予定) <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和5年度は農業経営基盤強化促進法の改正法が施行される。これにより市町村は、2年以内に地域農業経営基盤強化促進計画(通称:地域計画)を策定させる必要がある。地域計画策定の有無は、将来の地域の農地利用や担い手の確保等のほか、補助事業の採択面でも影響を及ぼす。このため、県には、地域計画を策定する市町村に対し、情報提供や助言等の面において伴走支援が必要な状況にある。 農業経営基盤強化促進法等の関連法令の一部改正により、地域における協議の場の設置、将来の農地利用等について定めた地域計画(目標地図)の作成、農地の貸借が農地中間管理機構に集約されるなど制度が大幅に変わったため、猶予期間である令和7年4月までに新たな制度に対応する必要がある。 目標面積の達成するために、優良農地の保全を念頭に、開発等を目的とした農振除外の抑制を行う必要がある。 各年度の目標面積が達成できるよう関係者(市町村、土地改良区)と協力し、事業推進していく。 |
| | R5 (3年目) | | <p>【成果】</p> <p>【課題】</p> |
| | R6 (4年目) | | <p>【成果】</p> <p>【課題】</p> |
| | R7 (最終年) | | <p>【成果】</p> <p>【課題】</p> |

| 目標指標① | 地域計画又は実質化した人・農地プランに基づき取組を実践している地区(集落)の割合 | | | | | | | 指標の単位 | % |
|-------|--|----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|------------|
| 実績 | 基準年 | 参考 | 1年目 | 2年目 | 3年目 | 4年目 | 5年目 | 目標値 | 目標値に対する進捗率 |
| | R1 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 | | |
| | 実績 | - | - | 85 | 81 | | | | |
| 計画 | - | - | 40 | 50 | | | | | |



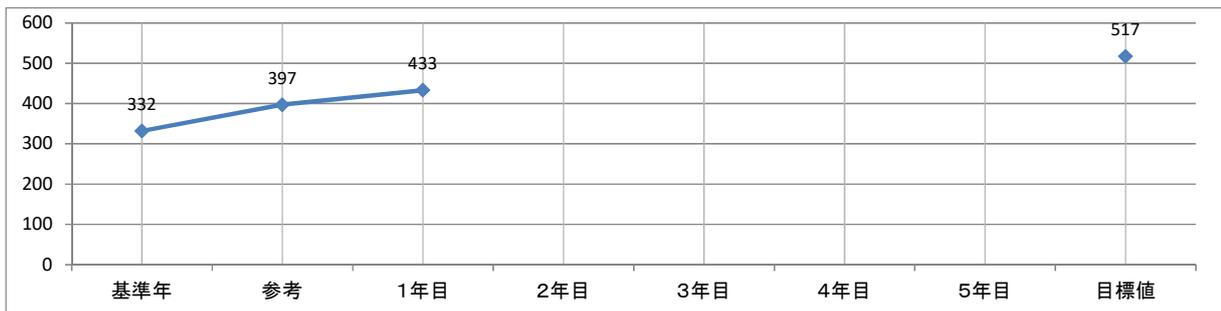
| 目標指標② | | 再生可能な遊休農地(1号)面積(荒廃農地調査は廃止、計画面積は変更なし) | | | | | | | 指標の単位 ha | | |
|-------|----|--------------------------------------|-------|-------|-----------|-----|-----|-----|----------|------------|-----|
| 実績 | | 基準年 | 参考 | 1年目 | 2年目 | 3年目 | 4年目 | 5年目 | 目標値 | 目標値に対する進捗率 | |
| | | R1 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 | | | |
| | 実績 | 1,436 | 1,415 | 1,710 | R5.11月頃公表 | | | | | | 656 |
| 計画 | | - | 1,176 | 1,046 | | | | | | | |



| 目標指標③ | | 農用地区域内の農地(耕地)面積 | | | | | | | 指標の単位 ha | | |
|-------|----|-----------------|--------|--------|-----------|-----|-----|-----|----------|------------|--------|
| 実績 | | 基準年 | 参考 | 1年目 | 2年目 | 3年目 | 4年目 | 5年目 | 目標値 | 目標値に対する進捗率 | |
| | | R1 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 | | | |
| | 実績 | 59,255 | 58,861 | 58,697 | R5.12月頃公表 | | | | | | 58,000 |
| 計画 | | - | 58,837 | 58,628 | | | | | | | |



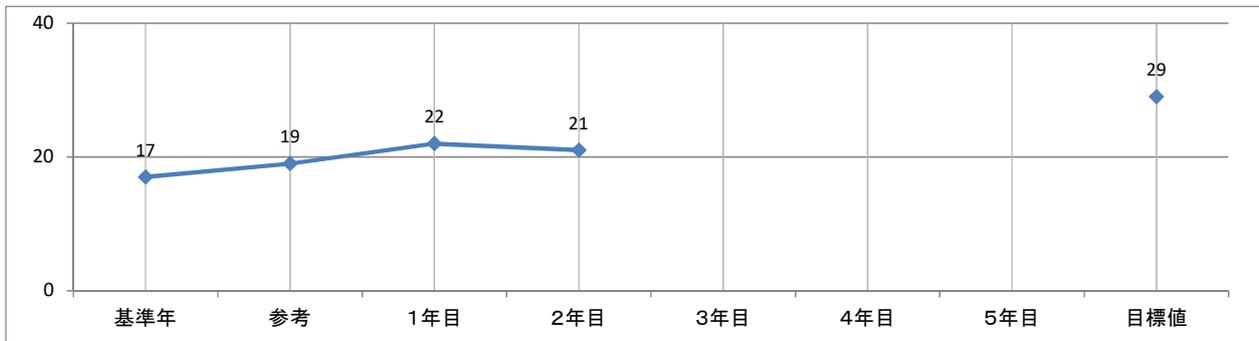
| 目標指標④ | | 生産基盤整備事業を契機に担い手へ集積する農地面積 | | | | | | | 指標の単位 ha | | |
|-------|----|--------------------------|-----|-----|----------|-----|-----|-----|----------|------------|-----|
| 実績 | | 基準年 | 参考 | 1年目 | 2年目 | 3年目 | 4年目 | 5年目 | 目標値 | 目標値に対する進捗率 | |
| | | R1 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 | | | |
| | 実績 | 332 | 397 | 433 | R5.9月頃公表 | | | | | | 517 |
| 計画 | | - | 395 | 448 | | | | | | | |



群馬県農業農村振興計画2021-2025 基本施策 実績シート

| | | | |
|----------|--|------|---|
| 施策の柱 | 未来につながる担い手確保と経営基盤の強化【人・農地】 | | |
| 展開方向 | 農地・農業水利施設の適切な保全管理の推進 | | |
| 推進内容 | ①農業水利施設の保全による農業用水の安定供給 ②農地・農業用施設の保全 | | |
| 担当課 | 農村整備課 | | |
| 各年度の実績動向 | 年度 | 達成状況 | 成果・課題 |
| | R3 (1年目) | A | 【成果】 ・大正用水3期地区(前橋市・伊勢崎市)ほか4地区において、水路、揚水機の更新(0.4km、2基)及び隧道の補修を実施し施設の長寿命化を図り、内3地区を完了させた。また、佐波新田用水第1、第2(伊勢崎市・太田市)及び藤川用水2期地区(邑楽町)の3地区において、農業水利施設の長寿命化対策に着手した。 ・多面的機能支払交付金に取り組む281組織(うち広域化8組織)が行う協働活動を支援し、適正な農地、農業用施設の保全管理を推進した。 |
| | R4 (2年目) | A | 【成果】 ・大正用水3期地区(前橋市・伊勢崎市)ほか6地区において、水路(0.7km)及び附帯設備の更新・補修を実施し施設の長寿命化を図った。また、坂東大堰2期(前橋市ほか3市、1町)、美野原3期(中之条町)、追貝平1期地区(沼田市)及び利根加用水2期地区(千代田町、館林市)の4地区において、農業水利施設の長寿命化対策に着手した。 ・多面的機能支払交付金に取り組む276組織(うち広域化9組織)が行う協働活動を支援し、適正な農地、農業用施設の保全管理を推進した。 【課題】 ・対策工事は農閑期の限定された期間に行うため、施設を管理する土地改良区と調整し営農に支障が出ないよう工事を計画する必要がある。 ・活動組織の構成員の高齢化により、取組を断念する組織が増えているため、広域化による作業や事務負担の軽減、土地改良区による事務支援などを推進する。 |
| | R5 (3年目) | | 【成果】 【課題】 |
| | R6 (4年目) | | 【成果】 【課題】 |
| | R7 (最終年) | | 【成果】 【課題】 |

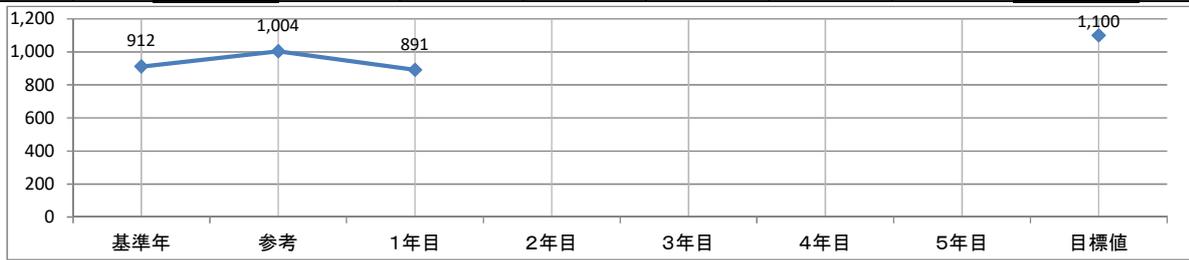
| 目標指標① | | 基幹農業水利施設の長寿命化対策工事を完成させる地区数 | | | | | | | 指標の単位 | 地区 |
|-------|----|----------------------------|----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|------------|
| 実績 | | 基準年 | 参考 | 1年目 | 2年目 | 3年目 | 4年目 | 5年目 | 目標値 | 目標値に対する進捗率 |
| | | R1 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 | | |
| | 実績 | | 17 | 19 | 22 | 21 | | | | 29 |
| 計画 | | | - | 21 | 23 | | | | | |



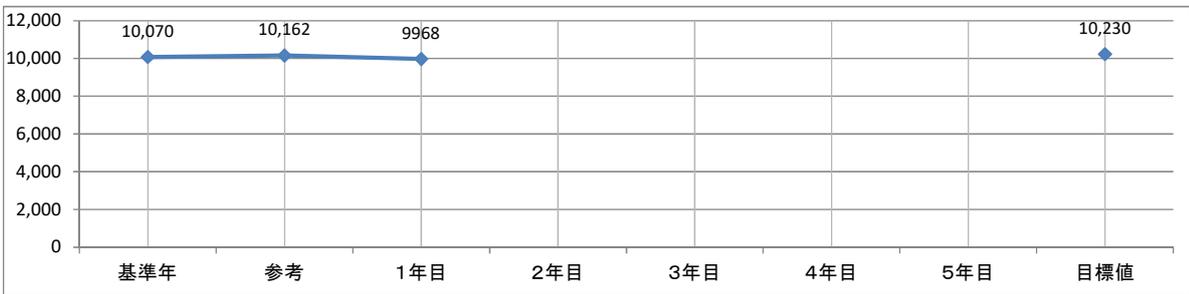
群馬県農業農村振興計画2021-2025 基本施策 実績シート

| | | | |
|----------|---|------|---|
| 施策の柱 | 次世代につなぐ収益性の高い農業の展開【収益性向上】 | | |
| 展開方向 | ニューノーマルにおける園芸産地等の競争力強化 | | |
| 推進内容 | ①担い手が育つ「儲かる野菜経営と活気ある野菜産地」の実現 ②世界で戦えるこんにやく産地の育成 ③競争力ある産地の育成と生産基盤の強化(果樹、花き、菌床きのこ) | | |
| 担当課 | 蚕糸園芸課、林業振興課 | | |
| 各年度の実績動向 | 年度 | 達成状況 | 成果・課題 |
| | R3 (1年目) | B | <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「野菜王国・ぐんま」総合対策により、重点8品目の規模拡大、生産性の向上を図るとともに産地PRを行った。対象者:57者(施設整備16者 機械導入34者(両方導入2者) ソフト事業9件) 補助金額125,384千円(事業費511,139千円) 財政事業が厳しい中、野菜安定価格事業の交付予約数量は、244,265トンと前年度と同数量を維持した。 世界で戦えるこんにやく総合対策事業により、機械導入補助を実施し、こんにやく生産者の生産基盤強化を図った。 対象者9名(ブームスプレーヤ、生子植付機、拾い上げ機など)、補助金額6,064千円 観光果樹の振興に向けて、ウェブ版果樹園マップ「味覚あふれるぐんまのくだもの園」を開設し、消費者へのPRを図った。また、県育成りんご新品種「紅鶴」のキャッチフレーズを募集、決定し、今後のPRに向けた体制を整えた。 花き生産の技術対策については、パラ環境制御技術活用事例集を作成し、技術のマニュアル化を図った。販売対策として、吾妻スプレーマム、六合の花、片品アジサイ、富岡ペゴニアの産地PR動画を制作した。消費拡大対策では、プライダル業界と連携した県産花き活用促進事業等を実施した。 菌床きのこの安定生産を図るため、オガ粉等の生産資材の確保を支援しました。また、きのこ生産の省力化、効率化を図るための施設整備の導入に支援しました。さらに、林業試験場と連携して新品目のきのこの育成技術の確立に取り組んだ。 |
| | R4 (2年目) | B | <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「野菜王国・ぐんま」総合対策により、重点8品目の規模拡大、生産性の向上を図るとともに産地PRを行った(対象者:35者(施設整備15者 機械導入15者(両方導入0者) ソフト事業5件)、補助金額133,330千円(事業費534,275千円))。また、野菜安定価格事業の交付予約数量は、244,265トンと前年度と同数量を維持した。 「持続的なこんにやく生産を支える総合対策」により、機械導入を支援し、生産基盤の強化による産地育成を図った。(対象者:11名、補助金額:6,430千円) 県育成りんご新品種「紅鶴」のプレデビューイベントを高崎駅で実施したほか、インスタグラムを開設して「ぐんまのりんご」をPRした。また、果樹経営系支援対策事業を活用し、優良品種への転換や新植を支援し、収益力の向上を図った。(対象者:24名、面積:2.8ha<累計46.6ha>) コロナ禍により生じた花きの需要変化を探るため、民間シンクタンクに調査を委託したところ、今後の展望と改善方策が明らかになった。また、消費拡大を図るため、県産花きの展示会や高校生フラワーアレンジコンテストを実施した。 燃料価格高騰対策として、施設園芸セーフティネット構築事業の加入促進を図り、省エネ資機材の導入経費を補助する事業を創設した(施設園芸セーフティネット構築事業 加入者536戸(加入率39%)、施設園芸省エネ転換緊急対策事業 事業実施主体数20団体(208戸)、補助金額116,556千円)。 菌床きのこの生産資材(オガ粉等)の調達経費について、きのこ生産に支援した。また、きのこ生産にあたり省力化・効率化を図るための施設整備に支援した。 林業試験場と連携して新品目のキノコ育成技術の確立に取り組んだ。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> こんにやく製品の消費が減少し、生玉出荷価格が低迷しているため、こんにやく経営が困難になってきている。経営の複合化や消費拡大対策が必要となっている。 本県花き産出額は、コロナ禍によって生じた家庭需要の拡大や円安による輸入減等により、51億円(R1年度)→53億円(R3年度)と向上したが、目標額(60億円)を達成するには、需要構造の変化に対応した販路開拓及び、若年層への消費拡大、SNSを活用した産地情報の発信等に取り組む必要がある。 持続可能な園芸生産を実現するため、燃料価格高騰の影響を受けにくい経営への転換が急務となっている。 菌床の資材であるオガ粉は、放射能の影響により県内産の調達が逼迫している。 燃油や生産資材高騰により生産経費が増加しているが、高騰分を販売価格に転嫁できていない。 |
| | R5 (3年目) | | <p>【成果】</p> <p>【課題】</p> |
| | R6 (4年目) | | <p>【成果】</p> <p>【課題】</p> |
| | R7 (最終年) | | <p>【成果】</p> <p>【課題】</p> |

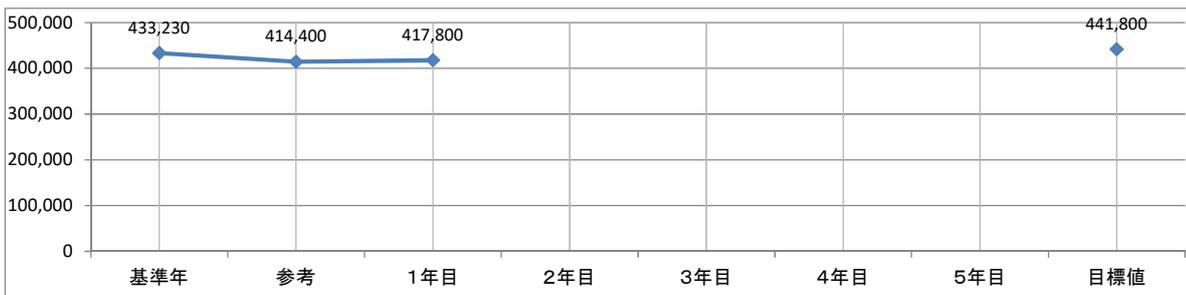
| 目標指標① | | 野菜産出額 | | | | | | | 指標の単位 | 億円 | |
|-------|----|-------|-------|-------|-----------|-----|-----|-----|-------|-------|---|
| 実績 | | 基準年 | 参考 | 1年目 | 2年目 | 3年目 | 4年目 | 5年目 | 目標値 | 進捗率 | |
| | | R1 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 | | | |
| | 実績 | 912 | 1,004 | 891 | R5.12月頃公表 | | | | | 1,100 | - |
| 計画 | | - | 1,042 | 1,061 | | | | | | | |



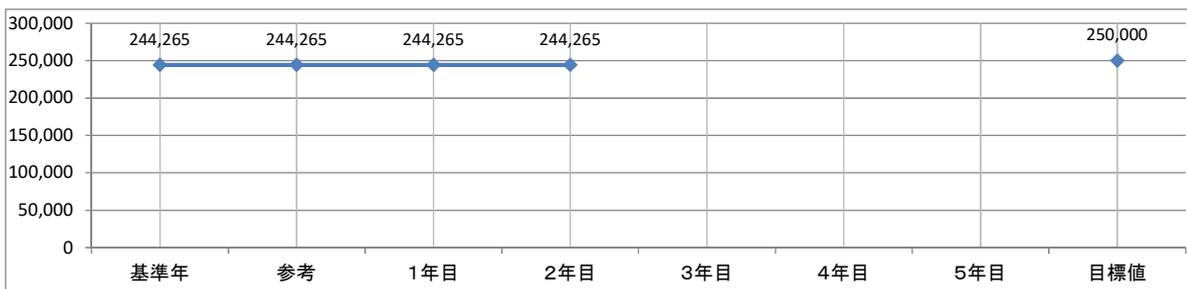
| 目標指標① | | 野菜重点8品目作付面積 | | | | | | | 指標の単位 | ha | |
|-------|----|-------------|--------|--------|----------|-----|-----|-----|-------|--------|--------|
| 実績 | | 基準年 | 参考 | 1年目 | 2年目 | 3年目 | 4年目 | 5年目 | 目標値 | 進捗率 | |
| | | R1 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 | | | |
| | 実績 | 10,070 | 10,162 | 9,968 | R5.8月頃公表 | | | | | 10,230 | -63.8% |
| 計画 | | - | 10,018 | 10,045 | | | | | | | |



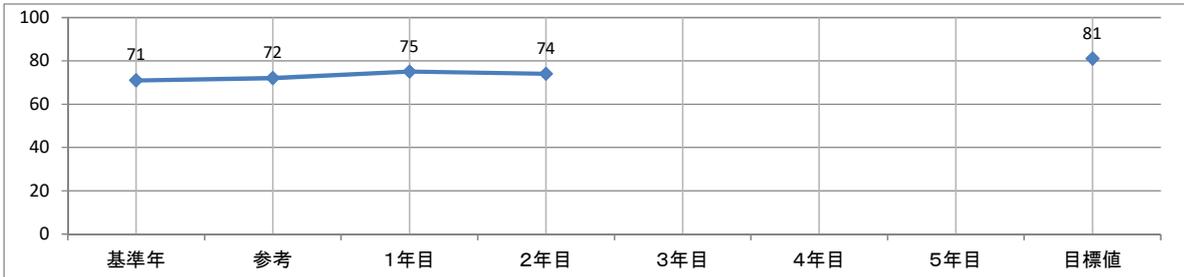
| 目標指標① | | 野菜重点8品目出荷量 | | | | | | | 指標の単位 | トン | |
|-------|----|------------|---------|---------|----------|-----|-----|-----|-------|---------|---------|
| 実績 | | 基準年 | 参考 | 1年目 | 2年目 | 3年目 | 4年目 | 5年目 | 目標値 | 進捗率 | |
| | | R1 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 | | | |
| | 実績 | 433,230 | 414,400 | 417,800 | R5.8月頃公表 | | | | | 441,800 | -180.0% |
| 計画 | | - | 429,830 | 432,020 | | | | | | | |



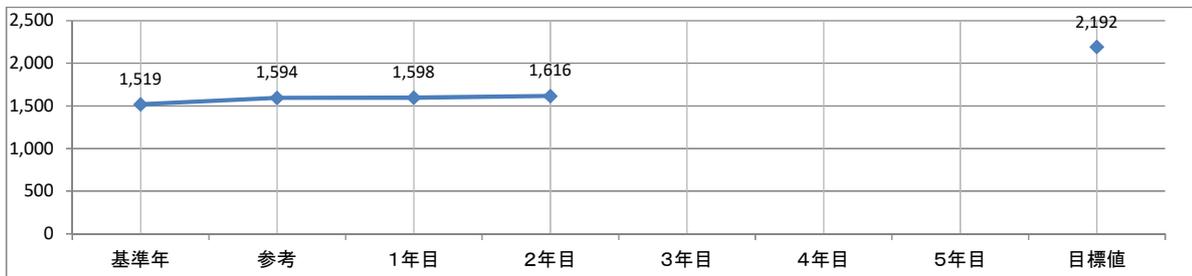
| 目標指標② | | 指定野菜価格安定制度交付予約数量 | | | | | | | 指標の単位 | トン | |
|-------|----|------------------|---------|---------|---------|-----|-----|-----|---------|------------|--|
| 実績 | | 基準年 | 参考 | 1年目 | 2年目 | 3年目 | 4年目 | 5年目 | 目標値 | 目標値に対する進捗率 | |
| | | R1 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 | | | |
| | 実績 | 244,265 | 244,265 | 244,265 | 244,265 | | | | 250,000 | 0.0% | |
| 計画 | | - | 245,800 | 247,900 | | | | | | | |



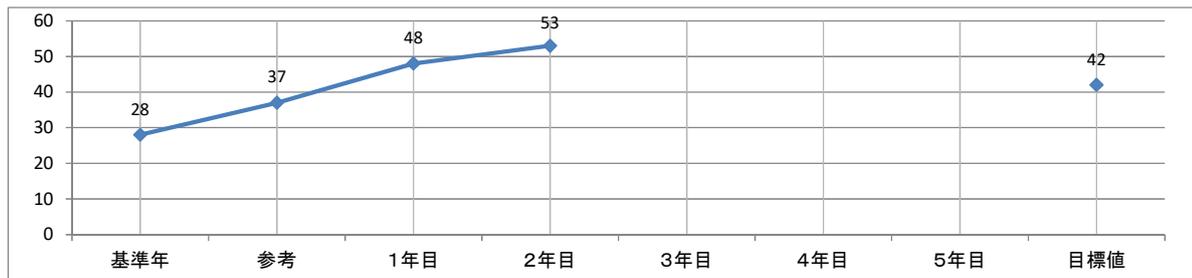
| 目標指標③ | | こんにゃく栽培面積10ha以上の農家数 | | | | | | | 指標の単位 | 戸 | |
|-------|----|---------------------|----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|------------|-------|
| 実績 | 実績 | 基準年 | 参考 | 1年目 | 2年目 | 3年目 | 4年目 | 5年目 | 目標値 | 目標値に対する進捗率 | |
| | | R1 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 | | | |
| | 計画 | 71 | 72 | 75 | 74 | | | | | 81 | 40.0% |



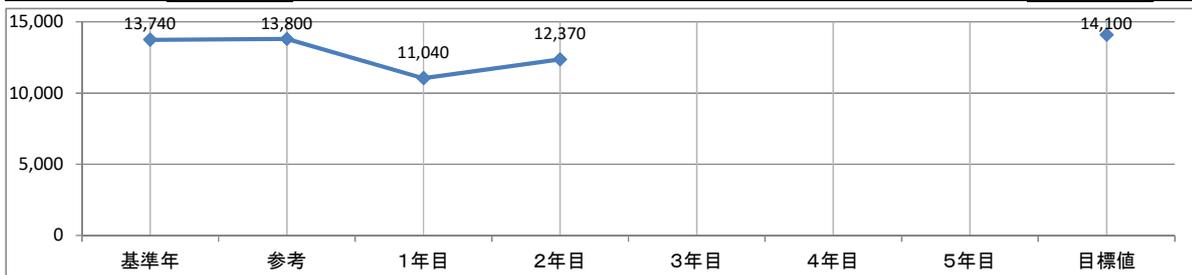
| 目標指標④ | | みやままさり栽培面積 | | | | | | | 指標の単位 | ha | |
|-------|----|------------|-------|-------|-------|-----|-----|-----|-------|------------|-------|
| 実績 | 実績 | 基準年 | 参考 | 1年目 | 2年目 | 3年目 | 4年目 | 5年目 | 目標値 | 目標値に対する進捗率 | |
| | | R1 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 | | | |
| | 計画 | 1,519 | 1,594 | 1,598 | 1,616 | | | | | 2,192 | 11.1% |



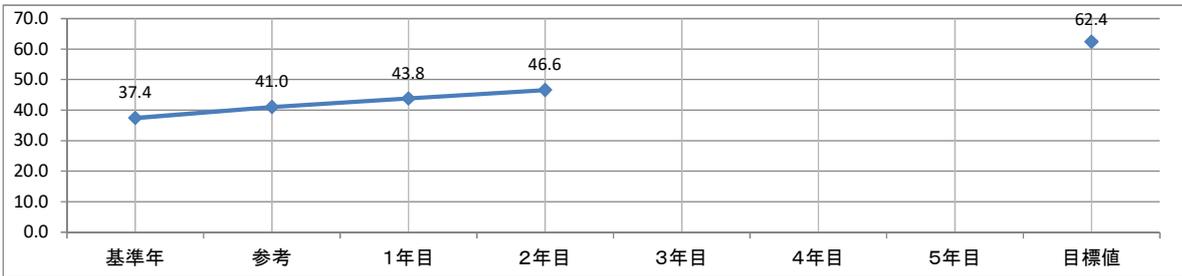
| 目標指標⑤ | | 越冬栽培面積 | | | | | | | 指標の単位 | ha | |
|-------|----|--------|----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|------------|-------|
| 実績 | 実績 | 基準年 | 参考 | 1年目 | 2年目 | 3年目 | 4年目 | 5年目 | 目標値 | 目標値に対する進捗率 | |
| | | R1 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 | | | |
| | 計画 | 28 | 37 | 48 | 53 | | | | | 42 | 64.3% |



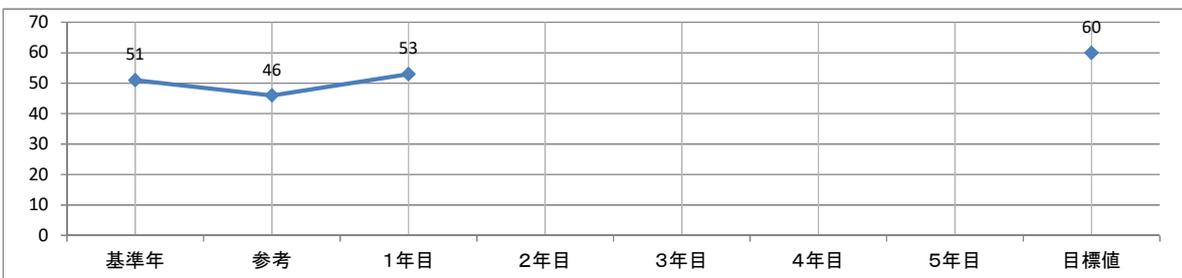
| 目標指標⑥ | | 観光果樹品目収穫量(りんご、ぶどう、なし) | | | | | | | 指標の単位 | t | |
|-------|----|-----------------------|--------|--------|--------|-----|-----|-----|-------|------------|-------|
| 実績 | 実績 | 基準年 | 参考 | 1年目 | 2年目 | 3年目 | 4年目 | 5年目 | 目標値 | 目標値に対する進捗率 | |
| | | R1 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 | | | |
| | 計画 | 13,740 | 13,800 | 11,040 | 12,370 | | | | | 14,100 | 16.7% |



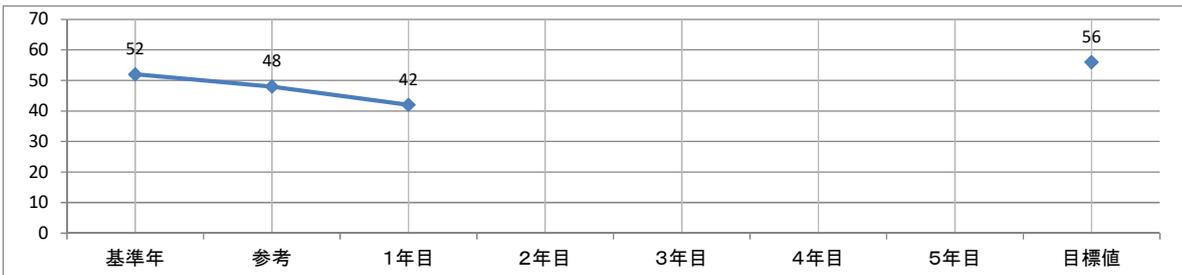
| 目標指標⑦ | | 果樹改植面積(累計) | | | | | | | 指標の単位 | ha | |
|-------|----|------------|------|------|------|-----|-----|-----|-------|------------|-------|
| 実績 | 実績 | 基準年 | 参考 | 1年目 | 2年目 | 3年目 | 4年目 | 5年目 | 目標値 | 目標値に対する進捗率 | |
| | | R1 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 | | | |
| | 計画 | 37.4 | 41.0 | 43.8 | 46.6 | | | | 62.4 | | 14.4% |



| 目標指標⑧ | | 花き産出額 | | | | | | | 指標の単位 | 億円 | |
|-------|----|-------|----|-----|-----|----------|-----|-----|-------|------------|---|
| 実績 | 実績 | 基準年 | 参考 | 1年目 | 2年目 | 3年目 | 4年目 | 5年目 | 目標値 | 目標値に対する進捗率 | |
| | | R1 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 | | | |
| | 計画 | 51 | 46 | 53 | 56 | R6.3月頃公表 | | | 60 | | - |



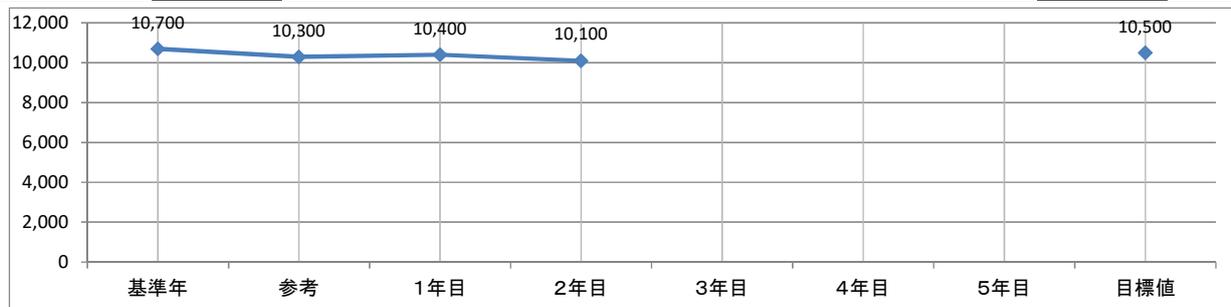
| 目標指標⑨ | | きのこ産出額 | | | | | | | 指標の単位 | 億円 | |
|-------|----|--------|----|-----|-----|----------|-----|-----|-------|------------|---|
| 実績 | 実績 | 基準年 | 参考 | 1年目 | 2年目 | 3年目 | 4年目 | 5年目 | 目標値 | 目標値に対する進捗率 | |
| | | R1 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 | | | |
| | 計画 | 52 | 48 | 42 | 54 | R5.9月頃公表 | | | 56 | | - |



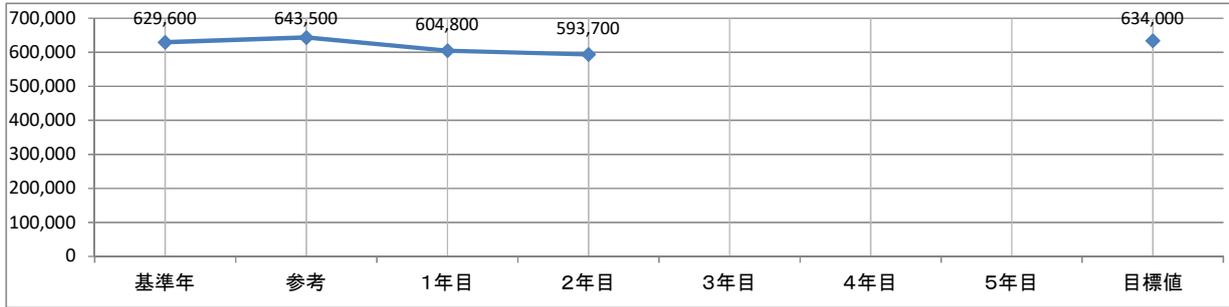
群馬県農業農村振興計画2021-2025 基本施策 実績シート

| | | | |
|----------|--|------|---|
| 施策の柱 | 次世代につなぐ収益性の高い農業の展開【収益性向上】 | | |
| 展開方向 | 国際競争力に打ち勝つ強靱な畜産経営の確立 | | |
| 推進内容 | ①家畜の伝染性疾患の発生予防とまん延防止の徹底 ②生産基盤の強化と畜産物の安定供給（酪農、肉牛、養豚、養鶏、飼料作物、畜産経営） ③地域と調和した畜産経営の確立 | | |
| 担当課 | 畜産課 | | |
| 各年度の実績動向 | 年度 | 達成状況 | 成果・課題 |
| | R3 (1年目) | B | 【成果】 ・令和3年の県内の生乳生産量は208,496トンであり、1戸当たりの生乳生産量は506トンとなり、計画比の109%となった。 ・浅間家畜育成牧場の草地整備改良工事および預託牛飼養施設の工事を実施するとともに、育成牛を計画どおりに受託し、後継牛確保の一翼を担った。 ・高糖分高消化性稲WCSについて、新たに耕種農家と畜産農家のマッチングが成立した。 ・子実とうもろこしの収穫実演会を開催し、農業者、農業団体、市町村等、関係者に栽培のメリットや課題を周知した。 |
| | R4 (2年目) | B | 【成果】 ・第12回全国和牛能力共進会に本県代表牛が出品し、肉牛の部で全国5位獲得をはじめ、本県出品牛としては過去最高の成績を収めた。 ・浅間家畜育成牧場の草地整備改良工事および預託牛飼養施設の工事を実施するとともに、育成牛を計画どおりに受託することができ、後継牛確保の一助となった。 ・耕種農家と畜産農家とのマッチング成果などにより、高糖分高消化性稲WCSの作付面積は増加した。また、子実とうもろこしの試験栽培に取り組む農家は、前年度1戸から3戸に増加した。さらに、収穫実演会を開催し、農業者、農業団体、市町村等、関係者に栽培のメリットや課題を周知した。 【課題】 ・第13回全国和牛能力共進会において前回大会以上の成績を収めるためには、出品候補牛作出に向け、高能力牛の受精卵を確保する必要がある。 ・浅間家畜育成牧場の草地整備改良工事および預託牛飼養施設の工事スケジュールに沿った計画的な工事の進捗管理を行い、将来の増頭体制に向けた環境整備を図っていく。 ・高糖分高消化性稲の新品種の栽培特性を検証し、試験栽培から経営に組み入れた本格栽培への移行支援を行う必要がある。 |
| | R5 (3年目) | | 【成果】 【課題】 |
| | R6 (4年目) | | 【成果】 【課題】 |
| | R7 (最終年) | | 【成果】 【課題】 |

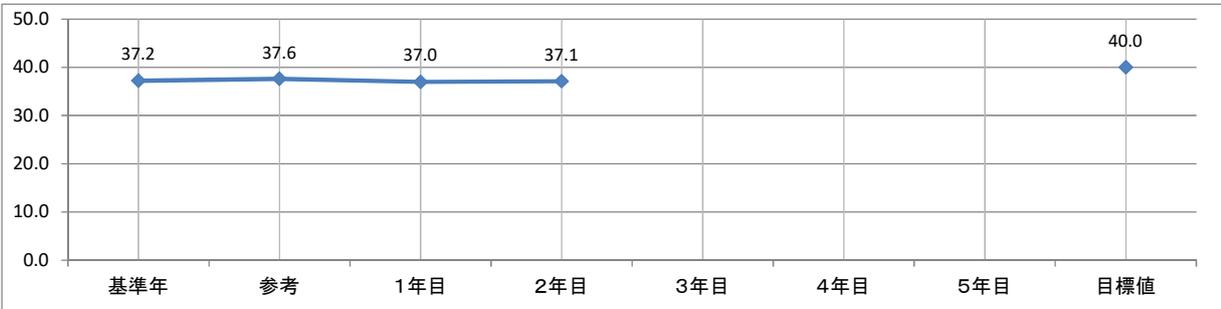
| 目標指標① | | 乳用未經産牛頭数 | | | | | | | 指標の単位 | 頭 |
|-------|----|----------|--------|--------|--------|-----|-----|-----|--------|------------|
| 実績 | | 基準年 | 参考 | 1年目 | 2年目 | 3年目 | 4年目 | 5年目 | 目標値 | 目標値に対する進捗率 |
| | | R1 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 | | |
| | 実績 | 10,700 | 10,300 | 10,400 | 10,100 | | | | 10,500 | |
| | 計画 | | - | - | 10,400 | | | | | |



| 目標指標② | | 豚飼養頭数 | | | | | | | 指標の単位 | 頭 |
|-------|----|---------|---------|---------|---------|-----|-----|-----|-------|------------|
| 実績 | | 基準年 | 参考 | 1年目 | 2年目 | 3年目 | 4年目 | 5年目 | 目標値 | 目標値に対する進捗率 |
| | | R1 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 | | |
| | 実績 | 629,600 | 643,500 | 604,800 | 593,700 | | | | | |
| 計画 | | - | 631,100 | 631,800 | | | | | | |



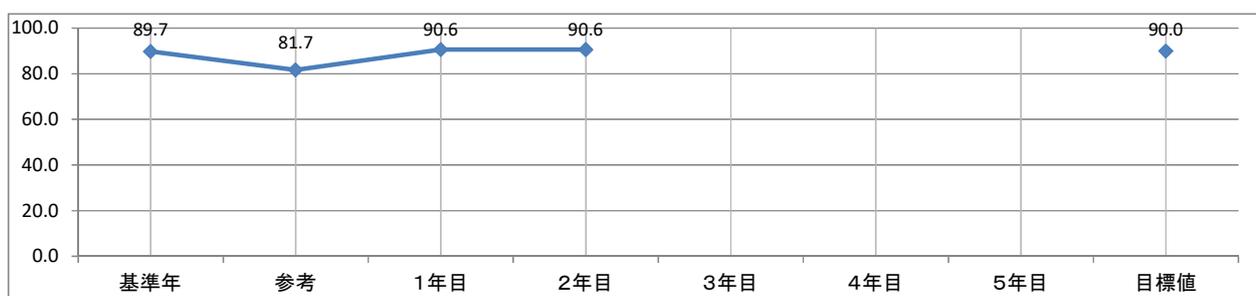
| 目標指標③ | | 飼料自給率 | | | | | | | 指標の単位 | % |
|-------|----|-------|------|------|------|-----|-----|-----|-------|------------|
| 実績 | | 基準年 | 参考 | 1年目 | 2年目 | 3年目 | 4年目 | 5年目 | 目標値 | 目標値に対する進捗率 |
| | | R1 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 | | |
| | 実績 | 37.2 | 37.6 | 37.0 | 37.1 | | | | | |
| 計画 | | - | 38.1 | 38.6 | | | | | | |



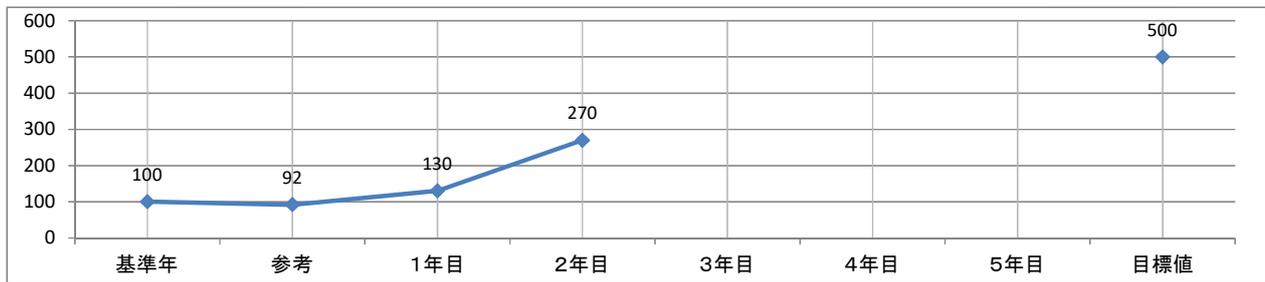
群馬県農業農村振興計画2021-2025 基本施策 実績シート

| | | | |
|----------|--|------|--|
| 施策の柱 | 次世代につなぐ収益性の高い農業の展開【収益性向上】 | | |
| 展開方向 | 地域の特性を生かした持続的な水田農業の展開 | | |
| 推進内容 | ①売れる米づくりの推進 ②水田における高収益作物等の作付拡大 ③ニーズに応じた高品質な麦生産 | | |
| 担当課 | 蚕糸園芸課 | | |
| 各年度の実績動向 | 年度 | 達成状況 | 成果・課題 |
| | R3 (1年目) | B | 【成果】 ・平坦地域では、良食味で高温登熟性に優れた水稲品種「いなほっこり」や「にじのきらめき」の作付けを推進するため、実証ほの設置等により、安定生産技術の確立に取り組んだ。作付面積は130haとなり、今後も増加する見込みである。 ・中山間地域では、地域の特色を生かした高品質米生産を支援し、地域ブランド米の作付拡大を図った。作付面積は345haとなり、年々増加傾向である。 |
| | R4 (2年目) | B | 【成果】 ・水稲うるち玄米の1等比率は、概ね90%程度確保できている。 ・平坦地域では、良食味で高温登熟性に優れた水稲品種「いなほっこり」や「にじのきらめき」の作付けを推進するため、実証ほの設置等により安定生産技術の確立に取り組んだ。作付面積は270haとなり、今後も増加する見込みである。 ・中山間地域では、地域の特色を生かした高品質米生産を支援し、地域ブランド米の作付拡大を図った。作付面積は397haとなり、年々増加傾向である。 ・小麦「ゆめかおり」のタンパク質含量の目標値である13.0%は達成できていないが、基準値である11.5%以上はクリアできており、品質評価基準はAランクが確保できている。 【課題】 ・水稲品種「にじのきらめき」は、今後も増加する見込みであり、県内採種ほ場での優良種子確保が必要である。 ・地域ブランド米の作付面積は増加傾向であるものの、やや頭打ちとなってきた。担い手の高齢化や販路確保が課題となっている。 ・小麦「ゆめかおり」は、製パンに適した高タンパク質含量を確保しやすい畑での作付けを原則としてきたが、連作障害の発生により、生産が不安定になりやすいという課題がある。作付拡大のためには、水田での作付けを進める必要があるが、高タンパク質含量を確保するための栽培技術の徹底が必要となる。 |
| | R5 (3年目) | | 【成果】 【課題】 |
| | R6 (4年目) | | 【成果】 【課題】 |
| | R7 (最終年) | | 【成果】 【課題】 |

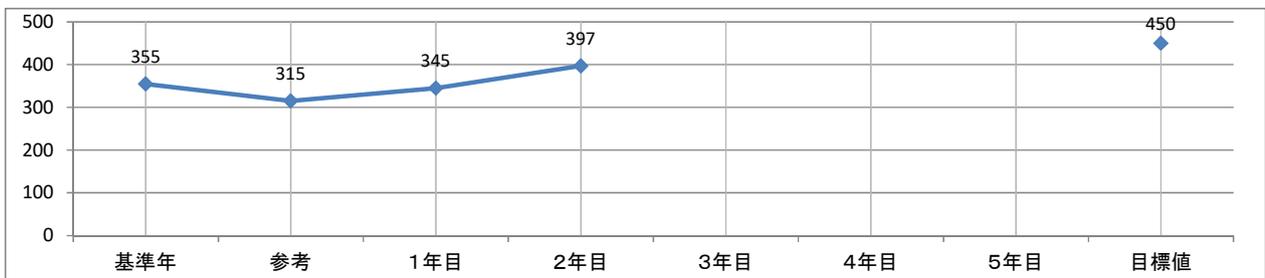
| 目標指標① | | うるち玄米一等比率 | | | | | | | 指標の単位 | % |
|-------|----|-----------|------|------|------|-----|-----|-----|-------|------------|
| 実績 | | 基準年 | 参考 | 1年目 | 2年目 | 3年目 | 4年目 | 5年目 | 目標値 | 目標値に対する進捗率 |
| | | R1 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 | | |
| | 実績 | 89.7 | 81.7 | 90.6 | 90.6 | | | | | |
| 計画 | | | 90.0 | 90.0 | | | | | | |



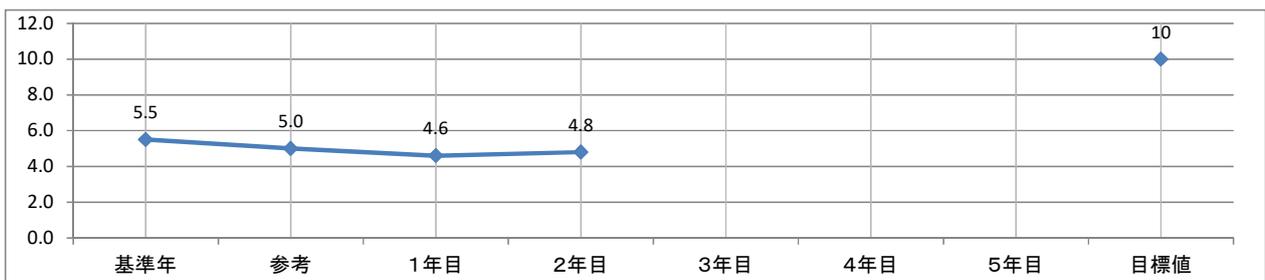
| 目標指標② | | 「いなほっこり」等作付面積 | | | | | | | 指標の単位 | ha | |
|-------|----|---------------|----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|-----|-----|
| 実績 | 実績 | 基準年 | 参考 | 1年目 | 2年目 | 3年目 | 4年目 | 5年目 | 目標値 | 進捗率 | |
| | | R1 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 | | | |
| | 計画 | 100 | 92 | 130 | 270 | | | | | | 500 |



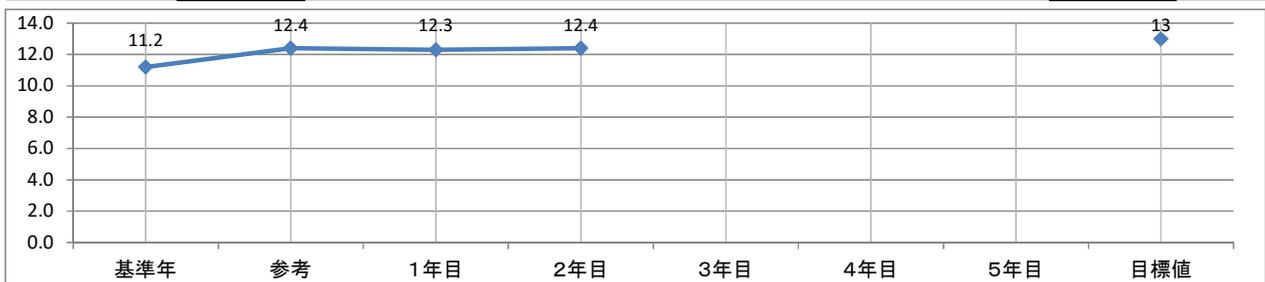
| 目標指標③ | | ブランド米作付面積 | | | | | | | 指標の単位 | ha | |
|-------|----|-----------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|------------|-----|
| 実績 | 実績 | 基準年 | 参考 | 1年目 | 2年目 | 3年目 | 4年目 | 5年目 | 目標値 | 目標値に対する進捗率 | |
| | | R1 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 | | | |
| | 計画 | 355 | 315 | 345 | 397 | | | | | | 450 |



| 目標指標③ | | 「さとのそら」の農産物検査数量割合 | | | | | | | 指標の単位 | % | |
|-------|----|-------------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|------------|----|
| 実績 | 実績 | 基準年 | 参考 | 1年目 | 2年目 | 3年目 | 4年目 | 5年目 | 目標値 | 目標値に対する進捗率 | |
| | | R1 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 | | | |
| | 計画 | 5.5 | 5.0 | 4.6 | 4.8 | | | | | | 10 |



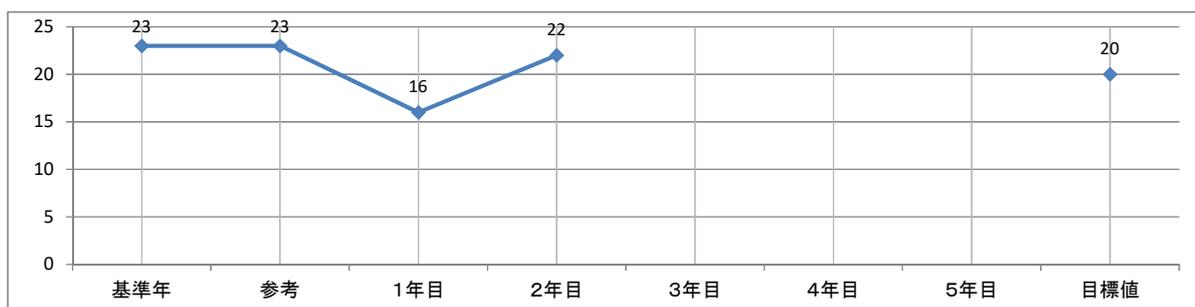
| 目標指標③ | | 「ゆめかおり」のタンパク質含有率 | | | | | | | 指標の単位 | % | |
|-------|----|------------------|------|------|------|-----|-----|-----|-------|------------|----|
| 実績 | 実績 | 基準年 | 参考 | 1年目 | 2年目 | 3年目 | 4年目 | 5年目 | 目標値 | 目標値に対する進捗率 | |
| | | R1 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 | | | |
| | 計画 | 11.2 | 12.4 | 12.3 | 12.4 | | | | | | 13 |



群馬県農業農村振興計画2021-2025 基本施策 実績シート

| | | | |
|----------|---|------|---|
| 施策の柱 | 次世代につながる収益性の高い農業の展開【収益性向上】 | | |
| 展開方向 | DXを背景としたスマート農業等の新技術や新品種の研究開発と普及促進 | | |
| 推進内容 | ①地域に根ざした技術開発の推進 ②産地の将来を見据えたスマート農業技術の普及促進 | | |
| 担当課 | 農政課、技術支援課 | | |
| 各年度の実績動向 | 年度 | 達成状況 | 成果・課題 |
| | R3 (1年目) | A | <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ぐんま農業研究基本計画」の5つの重点目標に基づいて、生産現場や消費者ニーズ等を踏まえた技術開発に取り組み、令和3年度はぐんま農業新技術として5件、普及員指導資料として11件の研究成果を取りまとめた。 ＜主な成果＞ ・ 嬭恋村のキャベツ栽培における適正なリン酸施肥量の解明 ・ 軽量化した回転蒔と尿受器の製作 ・ ドローンを利用したコクチバス産卵床の探索 ・ ネット式脱臭装置による臭気対策技術 ・ イチゴ、バラで環境制御技術の普及実証ほを設置し、得られた環境測定データから、生育や収量への影響を解析することができた。 ・ 米麦部門のスマート農業技術は71戸の経営体で導入され、目標値を達成した。 |
| | R4 (2年目) | A | <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ぐんま農業研究基本計画」の5つの重点目標に基づいて、生産現場や消費者ニーズ等を踏まえた技術開発に取り組み、令和4年度はぐんま農業新技術として10件、普及員指導資料として12件の研究成果を取りまとめた。 ＜主な成果＞ ・ 低コスト・省力化が可能なブドウY字樹形の開発 ・ 電動剪定ばさみの活用による桑収穫作業の省力化と疲労軽減 ・ 禁漁区の設定による溪流魚の増殖 ・ ゲノミック評価を活用した黒毛和種の24ヵ月齢出荷技術 ・ イチゴ、バラにおいて環境制御技術、ICT活用の普及実証ほを設置し、環境測定データや生育データの見える化を進めるとともにクラウドを利用した農家との情報共有を行った。また、得られたデータをもとに、農家との実績検討会、勉強会を開催した。 ・ 米麦部門のスマート農業技術は79戸の経営体で導入された。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ クラウドを利用した農家との情報共有では、ポイントを絞って効果的にBIツールを活用していく必要がある。 ・ また、環境制御を行う農家の技術が向上する中で、普及指導員も複数の環境要素を統合して管理する「統合環境制御」に関する理解を深めていく必要がある。 |
| | R5 (3年目) | | <p>【成果】</p> <p>【課題】</p> |
| | R6 (4年目) | | <p>【成果】</p> <p>【課題】</p> |
| | R7 (最終年) | | <p>【成果】</p> <p>【課題】</p> |

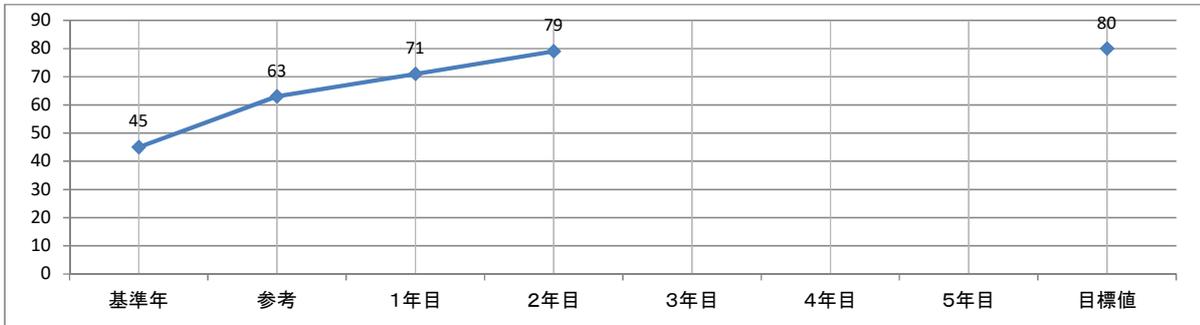
| 目標指標① | | ぐんま農業新技術・技術情報資料の件数 | | | | | | | 指標の単位 件 | |
|-------|----|--------------------|----|-----|-----|-----|-----|-----|---------|------------|
| 実績 | | 基準年 | 参考 | 1年目 | 2年目 | 3年目 | 4年目 | 5年目 | 目標値 | 目標値に対する進捗率 |
| | | R1 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 | | |
| | 実績 | | 23 | 23 | 16 | 22 | | | | |
| 計画 | | | - | 20 | 20 | | | | | |



| 目標指標② | | 施設園芸における環境制御技術導入農家数 | | | | | | | 指標の単位 戸 | |
|-------|----|---------------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|---------|------------|
| 実績 | | 基準年 | 参考 | 1年目 | 2年目 | 3年目 | 4年目 | 5年目 | 目標値 | 目標値に対する進捗率 |
| | | R1 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 | | |
| | 実績 | 97 | 124 | 143 | 153 | | | | | |
| 計画 | | - | 130 | 148 | | | | | | |



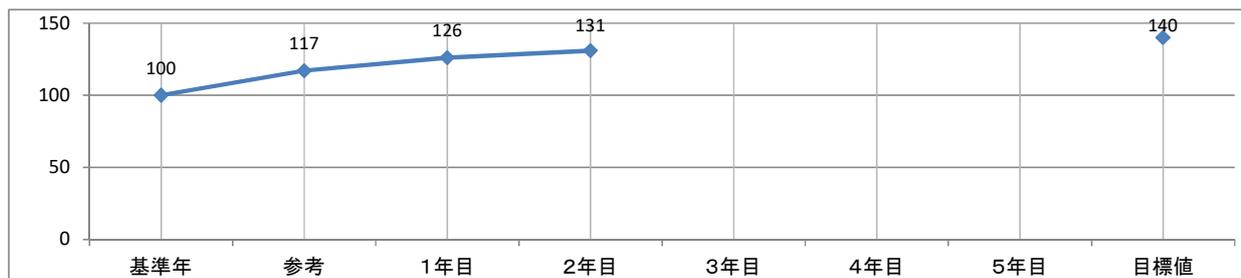
| 目標指標③ | | 水田作におけるスマート農業機械導入農家数 | | | | | | | 指標の単位 戸 | |
|-------|----|----------------------|----|-----|-----|-----|-----|-----|---------|------------|
| 実績 | | 基準年 | 参考 | 1年目 | 2年目 | 3年目 | 4年目 | 5年目 | 目標値 | 目標値に対する進捗率 |
| | | R1 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 | | |
| | 実績 | 45 | 63 | 71 | 79 | | | | | |
| 計画 | | - | 65 | 75 | | | | | | |



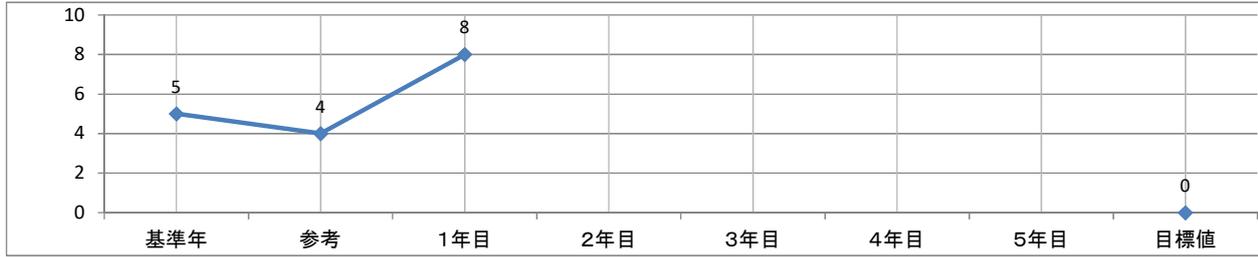
群馬県農業農村振興計画2021-2025 基本施策 実績シート

| | | | |
|----------|---|------|---|
| 施策の柱 | 次世代につなぐ収益性の高い農業の展開【収益性向上】 | | |
| 展開方向 | 農業経営の安定化に向けたリスクマネジメントの強化 | | |
| 推進内容 | ①農業生産工程管理(GAP)の導入推進 ②農作業安全対策の推進 ③セーフティネットの強化による農業経営の安定 ④家畜の伝染性疾病の発生予防とまん延防止対策の徹底(再掲) | | |
| 担当課 | 技術支援課、畜産課 | | |
| 各年度の実績動向 | 年度 | 達成状況 | 成果・課題 |
| | R3 (1年目) | B | 【成果】 ・県内農業者に対するGAP手法の理解や取組を広めるため、GAP導入講演会を開催するとともに、第三者認証取得を目指す生産組織等に対し支援を行った。また、普及指導員を対象に、指導者養成研修を開催し、GAP導入を支援する指導者の育成を図った。 ・県警、JA中央会、JA全農ぐんま、農業機械商組合、市町村会、県関係機関を構成員とした「群馬県農作業事故防止・農業機械化推進会議」を令和3年7月に立ち上げた。これにより関係機関との情報共有・連携が強化された。 ・令和4年1～3月に日本農業機械化協会の協力により「農作業安全に関する指導者向け研修会」を開催し、農作業安全指導員90名を育成した。 ・園芸施設共済の加入推進を図った。また、農業者ごとの収入減少を総合的に補てんする収入保険制度を推進した結果、1,437経営体が加入した。 |
| | R4 (2年目) | B | 【成果】 ・県内農業者に対するGAP導入講演会を開催するとともに、GAPに取り組む生産組織等を支援した。また、普及指導員を対象に指導者養成研修を開催し、指導者の育成を図った。 ・本県のGAPを国際水準GAPの取組へと引き上げを図るため、国際水準GAPガイドラインに対応したチェックシートを作成した。 ・関係機関と連携し、春と秋の農繁期に農作業安全確認運動を展開し、農作業安全に関する啓発活動(講習会のべ329回、参加者のべ6,175人)を行った。また、令和4年12月～令和5年3月に「農作業安全指導者向け研修」を開催し、農作業安全指導員75名を育成した。 ・農業者ごとの収入減少を総合的に補てんする収入保険制度を推進した結果、1,609経営体(R5.1月時点)が加入した。また、園芸施設共済の加入推進を図った。 【課題】 ・国際水準GAPに対する理解を深めていく必要がある。また、GAPをSDGsと結びつけて取り組むことが重要である。 ・高齢者の農作業死亡事故は高止まり傾向にあり、啓発活動の情報が届かない高齢者層に対する啓発活動を行う必要がある。 ・令和2年をピークに収入保険制度の加入数が鈍化しているため、更なる加入促進が必要である。 |
| | R5 (3年目) | | 【成果】 【課題】 |
| | R6 (4年目) | | 【成果】 【課題】 |
| | R7 (最終年) | | 【成果】 【課題】 |

| 目標指標 | GAPの取組組織数 | | | | | | | 指標の単位 | 組織 | 目標値に対する進捗率 |
|------|-----------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|-----|------------|
| | 基準年 | 参考 | 1年目 | 2年目 | 3年目 | 4年目 | 5年目 | | | |
| 実績 | R1 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 | 目標値 | 140 | 65.0% |
| | 実績 | 100 | 117 | 126 | 131 | | | | | |
| 計画 | | - | 108 | 116 | | | | | | |



| 目標指標② | | 農作業死亡事故件数 | | | | | | 指標の単位 | 人 | |
|-------|----|-----------|----|-----|----------|-----|-----|-------|-----|------------|
| 実績 | | 基準年 | 参考 | 1年目 | 2年目 | 3年目 | 4年目 | 5年目 | 目標値 | 目標値に対する進捗率 |
| | | R1 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 | | |
| | 実績 | 5 | 4 | 8 | R6.3月頃公表 | | | | | |
| 計画 | | - | 0 | 0 | | | | | | |

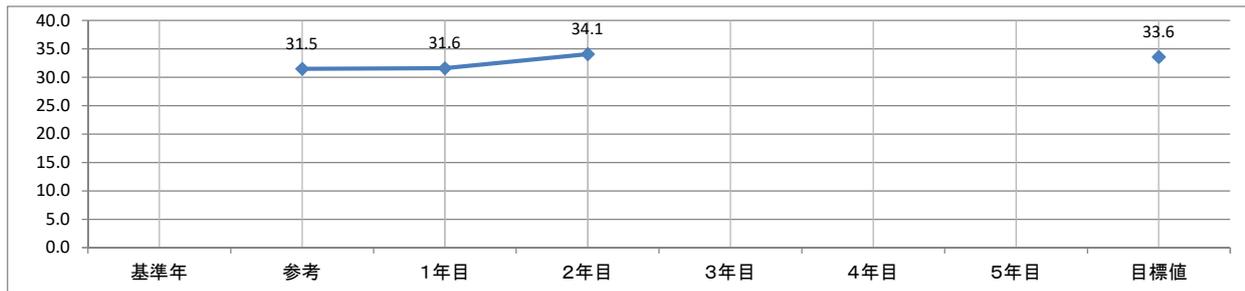


群馬県農業農村振興計画2021-2025 基本施策 実績シート

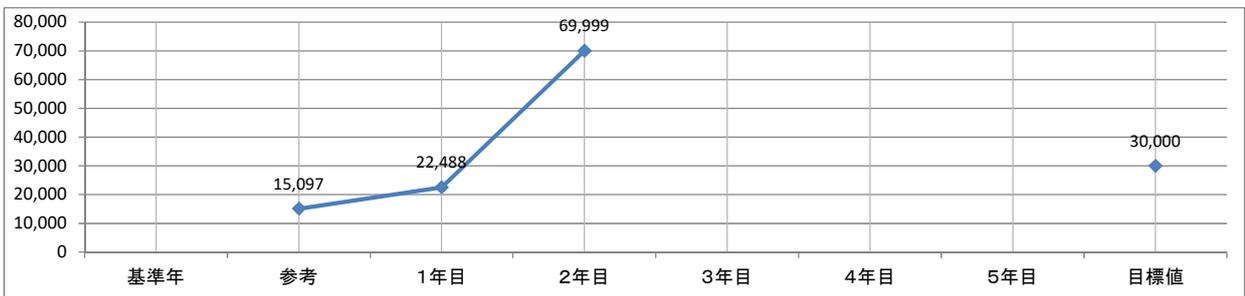
| | | | |
|----------|---|------|---|
| 施策の柱 | 豊富で多彩な県産農畜産物の需要拡大【需要拡大】 | | |
| 展開方向 | 県産農畜産物の「強み」を生かした魅力発信と需要拡大 | | |
| 推進内容 | ①新たな品種・品目のブランド化に向けた取組 ②産地としての群馬県のイメージ向上 ③6次産業化活動の支援 | | |
| 担当課 | ぐんまブランド推進課 | | |
| 各年度の実績動向 | 年度 | 達成状況 | 成果・課題 |
| | R3 (1年目) | B | <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県育成品種のりんご4品種について、G-アナライズ&PRチームでの分析により強みや特徴を見いだし、結果をレポートに取りまとめ、首都圏で開催した県産りんごを活用した料理教室等で配布し、理解促進を図った。また、分析結果を抜粋したポスターを作成して全りんご農家に配布することで、生産現場へのフィードバックを図った。 ・民間企業と連携し、首都圏で県産農畜産物を食材として使用した料理教室を117回(1,628人)開催しました。料理という体験を通して、さらには教室を生産者とりモートでつなぐなどの工夫により県産食材の理解促進と認知向上を図った。 ・上州地鶏については、G-アナライズ&PRチームの分析結果を踏まえ、機能性表示食品の届出を目指すことを決定し、品質安定化に向けた取組とデータ構築に着手した。 ・食品メーカー等との共同企画による県産農畜産物の消費拡大キャンペーンを3回実施(延べ503店舗)し、産地イメージの向上に努めた。 ・「GUNMA QUALITY」(県産農畜産物統一ロゴマーク)の普及に努めた結果、県産農畜産物、加工品の包装、出荷箱などにおける使用品目数は200品目にまで拡大した。 ・コロナ禍で売上額が減少している生産者向けに、産直ECサイトを活用した県産農畜産物の新たな販路開拓支援を行った。 ・県庁動画スタジオtsulunosを活用した動画配信や、東京事務所と連携したテレビや雑誌の取材誘致(7件)等、各種メディアの活用により、県産農畜産物の認知度向上を図った。 ・6次産業化サポートセンターを設置し、6次産業化に取り組もうとする農業者や食品加工事業者等からの相談に対する助言やプランナー(専門家)派遣を実施した。(相談件数:のべ229件、プランナー派遣回数:のべ33件) ・人材育成を目的に、「ぐんま6次産業化チャレンジ塾」を開催し、6次産業化を成功させるDXを活用したマーケティング戦略や、ECサイト・SNS等のデジタル技術を活用した販路開拓に必要な知識等、ニューノーマルに対応した6次産業化に取り組む人材の育成に取り組んだ。(講義10回・参加者数のべ274名、インターンシップ2回・参加者数のべ41名) ・6次産業化チャレンジ支援事業として、6次産業化に意欲のある県内農業者を対象に事業提案を公募し、審査会で選考した優秀事業プランに対し、補助金による支援を行った。(応募件数:5件、補助金交付件数:2件) |
| | R4 (2年目) | B | <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県育成品種のウメ(白加賀)及び নিজマス(ギンヒカリ)について、G-アナライズ&PRチームでの分析により強みや特徴を見いだし、結果をレポートに取りまとめた。ウメについては、首都圏で開催した料理教室で食材として使用し、理解促進を図った。 ・民間企業と連携し、首都圏で県産農畜産物を食材として使用した料理教室を84回(1,029人)開催し、県産食材の理解促進と認知度向上を図った。 ・上州地鶏(ムネ肉)については、G-アナライズ&PRチームの分析結果を踏まえ、機能性表示食品としての届出が消費者庁に受理された。 ・食品メーカー等との共同企画による県産農畜産物の消費拡大キャンペーンを実施(229店舗)し、産地イメージの向上に努めた。 ・「GUNMA QUALITY」(県産農畜産物統一ロゴマーク)の普及に努めた結果、県産農畜産物、加工品の包装、出荷箱などにおける使用品目数は224品目にまで拡大した。 ・コロナ禍で売上額が減少している生産者向けに、産直ECサイトを活用した県産農畜産物の新たな販路開拓支援を行い、本県登録生産者数は、29名増加し、128名となった。 ・インスタグラムやフェイスブック等のSNSや動画配信、東京事務所と連携したテレビや雑誌の取材誘致(6件)等、各種メディアの活用により、県産農畜産物の認知度向上を図った。 ・農山漁村発イノベーションサポートセンターを設置し、6次産業化や農山漁村発イノベーション(農林水産物や農林水産業に関わる多様な地域資源を活用し、新事業や付加価値を創出することにより、農山漁村における所得と雇用機会の確保を図る)に取り組もうとする農業者や食品加工事業者等からの相談に対する助言やプランナー(専門家)派遣を実施した。(相談件数:のべ193件、プランナー派遣回数:のべ38件) ・人材育成を目的に、「ぐんま6次産業化等イノベーションチャレンジ塾2022」を開催し、6次産業化や農山漁村発イノベーションを成功させるためにDXを活用したマーケティング戦略や、ECサイト・SNS等を活用した販路開拓に必要な知識等、6次産業化や農山漁村発イノベーションに取り組む人材の育成を行った。(講義8回・参加者数のべ405名、インターンシップ3回・参加者数のべ76名) ・農山漁村発イノベーション広域サポート事業を実施し、農山漁村発イノベーションサポートセンターでは支援出来ない者(※)を対象とした相談対応を行った。 ※サポートセンターの支援対象者となるためには、今後5年間で経営全体の付加価値額を増加させる計画を立てる必要があるため、当該計画を立てることが困難な事業者に対しては、広域サポート事業により相談対応を行った。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・G-アナライズ&PRチームにおける取組では、需要に見合った生産体制の構築、おいしさや健康に関与する成分の含有量と栽培条件の関係性を検証する必要がある。 ・首都圏における料理教室では、定員充足に向けた魅力的な品目・料理による事前PR、参加者のSNS等による情報拡散が必要である。 ・産直ECサイトを活用した生産者の販路開拓では、ECサイト活用メリットの周知や販売力向上のためのスキルアップ支援が必要である。 ・県内の6次産業化関連の年間販売額は年度別計画額を達成出来ない状況であるため、目標額達成のためには商品開発力の向上や販路の開拓等きめ細かな事業者支援に引き続き取り組む必要がある。 ・令和4年度以降のサポートセンターは、6次産業化以外の当該が所管していない取組(農泊支援、木工品等農産物以外の特産品の振興など)に係る相談対応等の支援も行うことから、部内・庁内の関係所属と調整を図りながら運営する必要がある。 |

| | | |
|--|-------------|--------------|
| | R5 (3年目) | 【成果】 【課題】 |
| | R6 (4年目) | 【成果】 【課題】 |
| | R7 (最終年) | 【成果】 【課題】 |

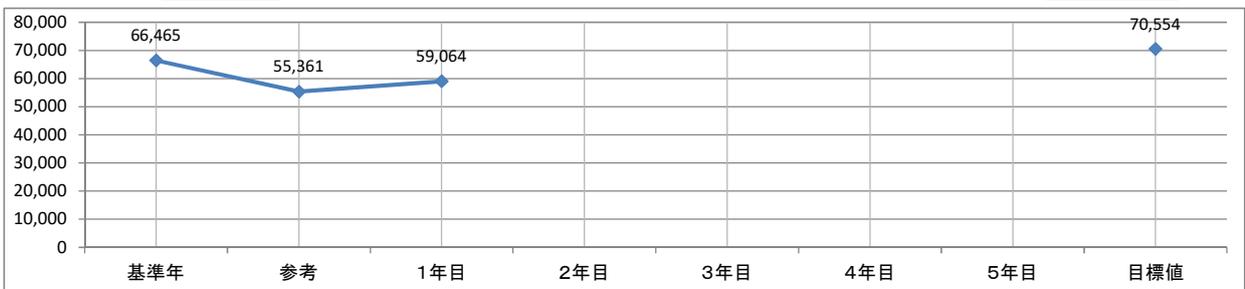
| 目標指標① | | 群馬県産農畜産物を「買いたい」「食べたい」と考えている消費者の割合 | | | | | | | 指標の単位 | % |
|-------|----|-----------------------------------|------|------|------|-----|-----|-----|-------|------------|
| 実績 | | 基準年 | 参考 | 1年目 | 2年目 | 3年目 | 4年目 | 5年目 | 目標値 | 目標値に対する進捗率 |
| | | R1 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 | | |
| | 実績 | - | 31.5 | 31.6 | 34.1 | | | | 33.6 | |
| | 計画 | - | - | 31.9 | 31.9 | | | | | |



| 目標指標① | | PR動画の年間総視聴回数 | | | | | | | 指標の単位 | 回 |
|-------|----|--------------|--------|--------|--------|-----|-----|-----|--------|------------|
| 実績 | | 基準年 | 参考 | 1年目 | 2年目 | 3年目 | 4年目 | 5年目 | 目標値 | 目標値に対する進捗率 |
| | | R1 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 | | |
| | 実績 | - | 15,097 | 22,488 | 69,999 | | | | 30,000 | |
| | 計画 | - | - | 18,000 | 18,000 | | | | | |



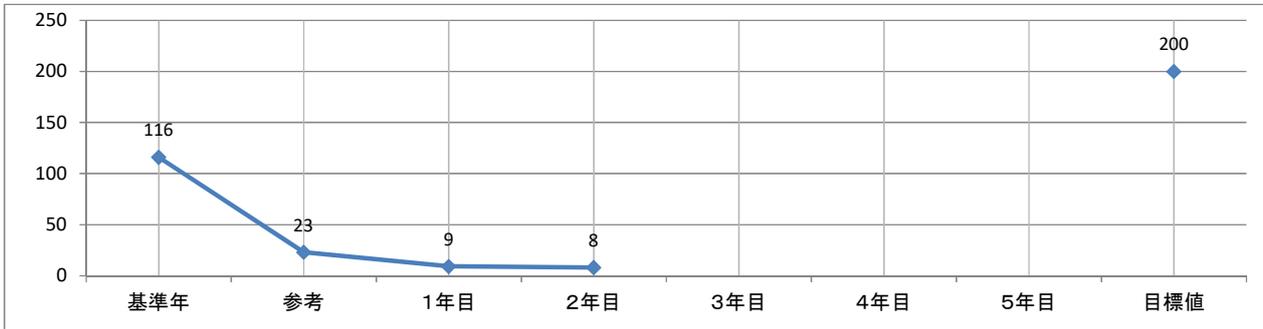
| 目標指標① | | 農業生産関連事業 年間総販売金額(6次産業化総合調査) | | | | | | | 指標の単位 | 百万円 |
|-------|----|-----------------------------|--------|--------|----------|-----|-----|-----|--------|------------|
| 実績 | | 基準年 | 参考 | 1年目 | 2年目 | 3年目 | 4年目 | 5年目 | 目標値 | 目標値に対する進捗率 |
| | | R1 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 | | |
| | 実績 | 66,465 | 55,361 | 59,064 | R6.6月頃公表 | | | | 70,554 | |
| | 計画 | - | - | 67,801 | 68,479 | | | | | |



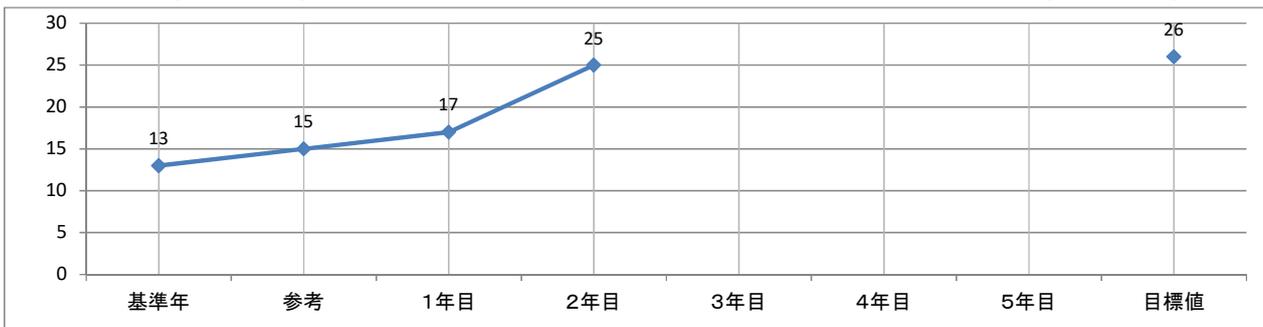
群馬県農業農村振興計画2021-2025 基本施策 実績シート

| | | | |
|----------|---------------------------------------|------|---|
| 施策の柱 | 豊富で多彩な県産農畜産物の需要拡大【需要拡大】 | | |
| 展開方向 | 農畜産物等の輸出による販路拡大 | | |
| 推進内容 | ①農畜産物等の輸出による販路拡大 ③海外需要に応じた生産・環境の整備 | | |
| 担当課 | ぐんまブランド推進課 | | |
| 各年度の実績動向 | 年度 | 達成状況 | 成果・課題 |
| | R3 (1年目) | C | <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・香港においてバイヤー招へい商談会を2回開催し、現地PR販売を通じて評価の高かった「いちご」、「やまといも」については、本輸出に繋がる結果となった。 ・欧州(フランス・パリ)において上州和牛の認知度向上や需要回復を目的に、SNSを活用したPR販売等を実施した結果、取扱飲食店が9店舗から35店舗に増加した。 ・北関東三県連携を活用したUAEにおける県産農畜産物等プロモーションにより、こんにやく麵を使用したメニュー開発及び試食提供を行ったところ評価が高く、現地での健康志向層への需要も期待される結果となった。 |
| | R4 (2年目) | B | <p>【成果】</p> <p>(香港・台湾)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バイヤー招へい商談会、現地フェア、Web商談会など開催した結果、香港でのヤマトイモ、イチゴ、サツマイモ、コンニャク加工品の輸出実績につながった。また、令和4年2月に輸入規制が緩和された台湾においては、ヤマトイモ、キャベツ、コンニャク加工品等の輸出に道筋をつけることができた。 (フランス・パリ) ・ミュッシュラン星付きレストランにおいて、上州和牛を供する期間限定のプロモーションを実施したところ、レストラン関係者など実需者から一定の評価を得ることができ、上州和牛の認知度向上につながった。 (UAE・ドバイ) ・現地レストランにて、こんにやく麵を使用したメニュー開発及び試食提供を行ったところ、高評価が得られ、現地での健康志向層への需要の可能性を確認することができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・輸出国が求める検疫規制に応じた生産者・産地を育成し、輸出農畜産物等の安定的な供給体制を構築する必要がある。 |
| | R5 (3年目) | | <p>【成果】</p> <p>【課題】</p> |
| | R6 (4年目) | | <p>【成果】</p> <p>【課題】</p> |
| | R7 (最終年) | | <p>【成果】</p> <p>【課題】</p> |

| 目標指標① | | 青果物輸出金額 | | | | | | | 指標の単位 | 百万円 | |
|-------|----|---------|----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|------------|-----|
| 実績 | | 基準年 | 参考 | 1年目 | 2年目 | 3年目 | 4年目 | 5年目 | 目標値 | 目標値に対する進捗率 | |
| | | R1 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 | | | |
| | 実績 | 116 | 23 | 9 | 8 | | | | | | 200 |
| 計画 | | - | 40 | 40 | | | | | | | |



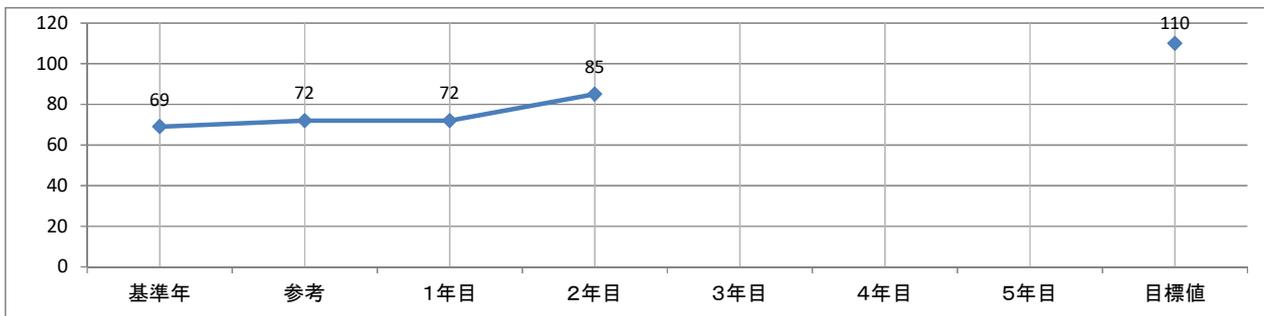
| 目標指標① | | 輸出に取り組む産地・事業社数 | | | | | | | 指標の単位 | 産地・者 | |
|-------|----|----------------|----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|------------|----|
| 実績 | | 基準年 | 参考 | 1年目 | 2年目 | 3年目 | 4年目 | 5年目 | 目標値 | 目標値に対する進捗率 | |
| | | R1 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 | | | |
| | 実績 | 13 | 15 | 17 | 25 | | | | | | 26 |
| 計画 | | - | 20 | 22 | | | | | | | |



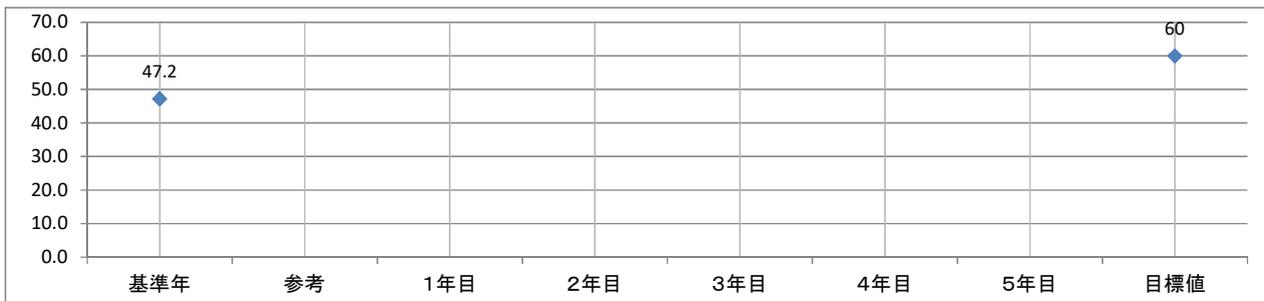
群馬県農業農村振興計画2021-2025 基本施策 実績シート

| | | | |
|----------|---|------|--|
| 施策の柱 | 豊富で多彩な県産農畜産物の需要拡大【需要拡大】 | | |
| 展開方向 | 食の地産地消の推進による地域内の経済循環の向上 | | |
| 推進内容 | ①地産地消の推進による県民の県産農畜産物への愛着醸成 ②地域の郷土料理等の食文化への理解促進 | | |
| 担当課 | ぐんまブランド推進課、健康長寿社会づくり推進課 | | |
| 各年度の実績動向 | 年度 | 達成状況 | 成果・課題 |
| | R3 (1年目) | B | <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県産農畜産物やその加工品を販売又は利用する小売店、飲食店及び宿泊施設等を「ぐんま地産地消推進店」として新たに8店舗を認定するとともに、更新時に3店舗が優良店へ昇格した。また、「地産地消推進店&直売所ガイドブック」を約30,000部作成し、観光関連施設、道の駅、健康情報ステーション及び市町村等へ配布して店舗のPRを行った。 ・県民が県産農畜産物を日常的に意識する機会を増やすため、GUNMA QUALITY(県産農畜産物統一ロゴマーク)の普及に努めた結果、県産農畜産物やその加工品の包装、出荷箱などにおける使用品目数は200品目にまで拡大した。 ・学校給食への県産農畜産物の利用を促進するため、栄養教諭・学校栄養職員向けに本県農業の特徴やG-アナライズ&PRチームで分析した県産農畜産物の強み等を説明した資料を作成して提供した。昨年に引き続き、教育委員会と連携し、県内全公立小中学校でのすき焼き給食を実施した。 ・「和食文化絵手紙コンテスト」を開催し、5歳から91歳まで、県内各地から603点の応募があった。作品の創作過程を通じて、地域の郷土料理等の食文化への関心を高めるとともに、新聞、ラジオ等の各種媒体を活用した事業広報により、県民の食文化に関する理解の促進が図られた。 ・若い世代食育推進協議会において、大学生等による和食文化のPR動画作成等の実践活動を通し、若い世代の食文化への関心と理解が深まった。 ・和食と地域食文化の保護継承のため、農林水産省と連携し、郷土料理データベース「うちの郷土料理」に群馬県の郷土料理27品目を掲載した。地域や家庭で受け継がれてきた料理への接点の拡大が図られた。 |
| | R4 (2年目) | B | <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県産農畜産物やその加工品を販売又は利用する小売店、飲食店及び宿泊施設等を「ぐんま地産地消推進店」として新たに17店舗を認定するとともに、更新時の昇格を含め新たに14店舗を優良店へ認定した。また、県産農畜産物の魅力を実感する機会を増やすため、「ぐんま地産地消推進店」を巡るスタンプラリーを実施し、延べ約500人の参加があった。 ・県民が県産農畜産物を日常的に意識する機会を増やすため、「GUNMA QUALITY」(県産農畜産物統一ロゴマーク)の普及に努めた結果、県産農畜産物やその加工品の包装、出荷箱などにおける使用品目数は224品目にまで拡大した。 ・学校給食への県産農畜産物の利用を促進するため、栄養教諭・学校栄養職員向けに本県農業の特徴やG-アナライズ&PRチームで分析した県産農畜産物の強み等を説明した資料を作成して提供した。また、「学校給食ぐんまの日」に、畑と近隣の小学校4校の教室をリモートで結び、生産者と児童約600人が交流を図る食農教育を行った。 ・令和3年度に実施した「和食文化絵手紙コンテスト」の作品の展示を、イオンモール高崎(8月4日)、イオンモール太田でのぐんまフェア(10月26日から30日)、県民センター(11月15日から12月15日)で実施し、来場者の地域の食文化への理解を深める機会となった。 ・県内大学生等により郷土料理動画作成などの食育実践事業を実施した結果、若い世代の食文化への関心と理解が深まった。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県内における地産地消運動を効果的に展開するためには、関係機関・団体の気運醸成に努める取組が必要である。 ・本県の伝統的な食文化を次世代へ継承するため、継続して、和食やぐんまの伝統的な食文化に関する展示や広報の実施や、若い世代による実践活動等を通じて、食文化への理解促進を図る必要がある。 |
| | R5 (3年目) | | <p>【成果】</p> <p>【課題】</p> |
| | R6 (4年目) | | <p>【成果】</p> <p>【課題】</p> |
| | R7 (最終年) | | <p>【成果】</p> <p>【課題】</p> |

| 目標指標① | | ぐんま地産地消優良店認定店舗数 | | | | | | | 指標の単位 | 店舗 | |
|-------|----|-----------------|----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|------------|-----|
| 実績 | | 基準年 | 参考 | 1年目 | 2年目 | 3年目 | 4年目 | 5年目 | 目標値 | 目標値に対する進捗率 | |
| | | R1 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 | | | |
| | 実績 | 69 | 72 | 72 | 85 | | | | | | 110 |
| 計画 | | - | 75 | 75 | | | | | | | |



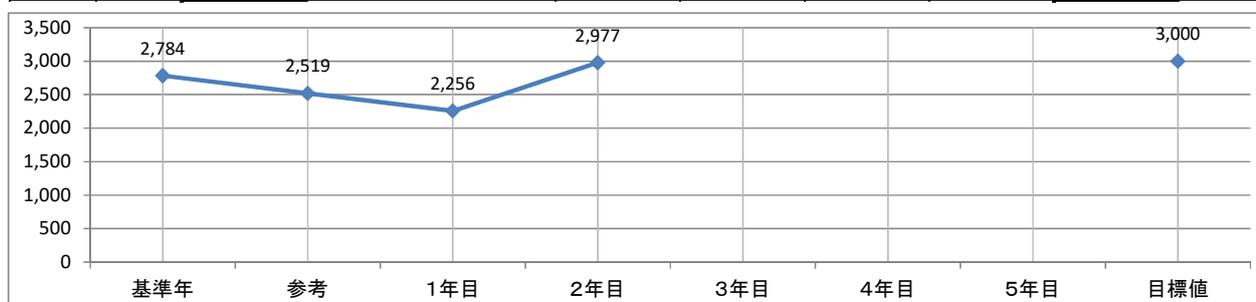
| 目標指標② | | 郷土料理や伝統料理等の地域や家庭で受け継がれてきた料理や味について知っている県民の割合 | | | | | | | 指標の単位 | % | |
|-------|----|---|----|--------|--------|-----|-----|-----|-------|------------|----|
| 実績 | | 基準年 | 参考 | 1年目 | 2年目 | 3年目 | 4年目 | 5年目 | 目標値 | 目標値に対する進捗率 | |
| | | R1 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 | | | |
| | 実績 | 47.2 | - | R6年度公表 | R6年度公表 | | | | | | 60 |
| 計画 | | - | 52 | 53.7 | | | | | | | |



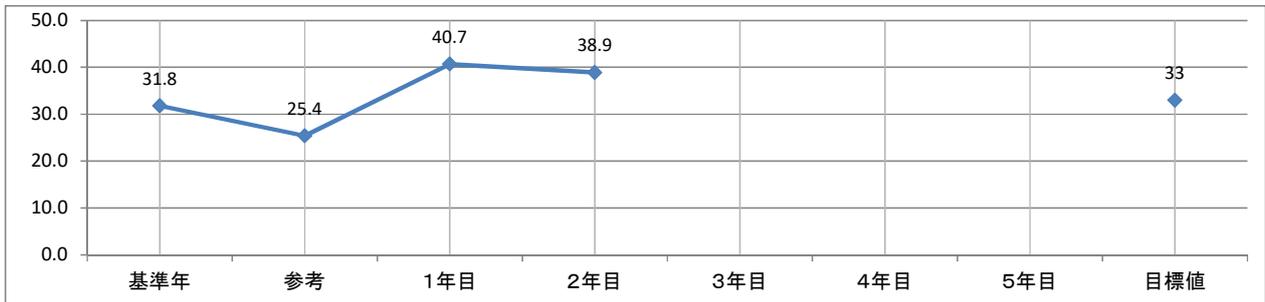
群馬県農業農村振興計画2021-2025 基本施策 実績シート

| | | | |
|----------|---|------|---|
| 施策の柱 | 豊富で多彩な県産農畜産物の需要拡大【需要拡大】 | | |
| 展開方向 | 安全確保策に基づく安全・安心な農畜産物の提供 | | |
| 推進内容 | ①食と農に対する県民の理解促進と安心の提供 ②農薬の適正使用と危害防止対策の推進 ③生産農場段階における畜産物の安全性の確保 ④検査・確認体制の充実 | | |
| 担当課 | 技術支援課、畜産課、食品・生活衛生課 | | |
| 各年度の実績動向 | 年度 | 達成状況 | 成果・課題 |
| | R3 (1年目) | B | 【成果】 ・新型コロナウイルスの感染拡大により、多くの講演会や講座が中止となったため、令和3年度実績が基準年の実績値以下となってしまったものの、新しい生活様式のもと、オンラインセミナー等新たな手法を取り入れて実施した。 ・農薬を使用する生産者や農薬を販売する販売者を対象に講習会等を開催し、農薬の適正使用と危害防止対策を周知した。 ・農産物の放射性物質検査を67件実施したところ、食品衛生法上の基準値を超えた事例はなかった。 ・動物用医薬品販売業の許可事業所の立入検査により、適正な取扱いに関する調査等を実施し、適切な販売を指導した。 |
| | R4 (2年目) | B | 【成果】 ・新型コロナウイルスの感染症予防の観点から、引き続き、オンラインセミナーによるリスクコミュニケーション事業を実施した。 ・農薬を使用する生産者や農薬を販売する販売者を対象に講習会等を開催し、農薬の適正使用と危害防止対策を周知した。 ・農産物の放射性物質検査を37件実施したところ、食品衛生法上の基準値を超えた事例はなかった。 ・動物用医薬品販売業の許可事業所の立入検査により、適正な取扱いに関する調査等を実施し、適切な販売を指導した。 【課題】 ・消費者への理解促進を図るため、引き続き、様々な方法によりリスクコミュニケーション事業を実施する必要がある。 ・新型コロナウイルス感染症の位置づけが「5類感染症」へ移行された後における農業管理指導士向け研修会等の実施方法について検討する必要がある。 |
| | R5 (3年目) | | 【成果】 【課題】 |
| | R6 (4年目) | | 【成果】 【課題】 |
| | R7 (最終年) | | 【成果】 【課題】 |

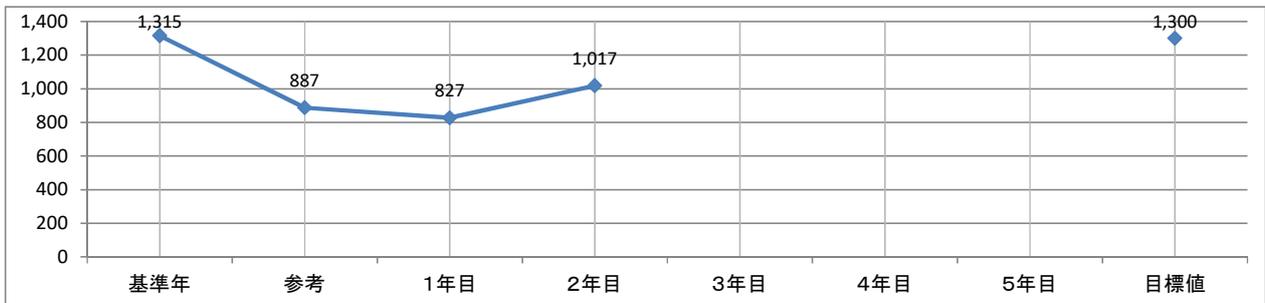
| | | | | | | | | | | |
|-------|----------------------|-------|-------|-------|-------|-----|-----|-------|-------|------------|
| 目標指標④ | リスクコミュニケーション事業年間参加人数 | | | | | | | 指標の単位 | 人 | |
| 実績 | | 基準年 | 参考 | 1年目 | 2年目 | 3年目 | 4年目 | 5年目 | 目標値 | 目標値に対する進捗率 |
| | | R1 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 | | |
| | 実績 | 2,784 | 2,519 | 2,256 | 2,977 | | | | 3,000 | 75.2% |
| 計画 | | - | 3,000 | 3,000 | | | | | | |



| 目標指標④ | | 動物用医薬品販売業者への立入検査割合 | | | | | | | 指標の単位 | 回 | 目標値に対する進捗率 |
|-------|----|--------------------|------|------|------|------|-----|-----|-------|----|------------|
| 実績 | | 基準年 | 参考 | 1年目 | 2年目 | 3年目 | 4年目 | 5年目 | 目標値 | | |
| | | R1 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 | | | |
| | 実績 | | 31.8 | 25.4 | 40.7 | 38.9 | | | | 33 | - |
| 計画 | | | - | 33.3 | 33.3 | | | | | | |



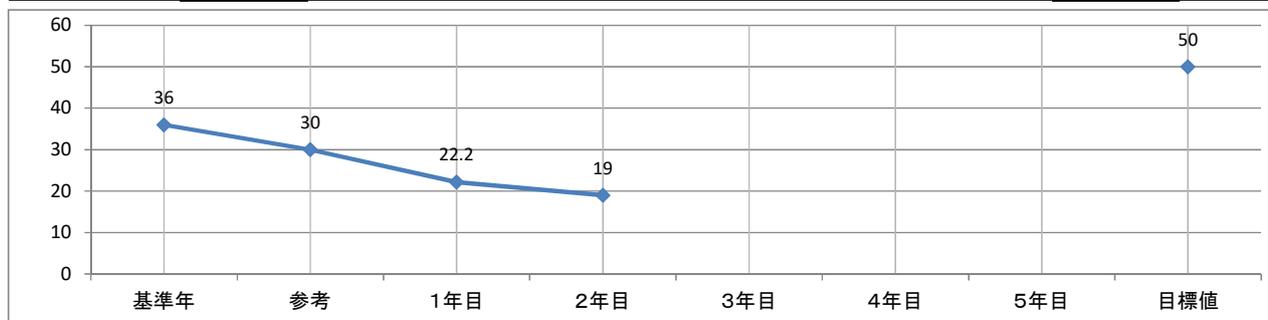
| 目標指標④ | | 講習会等での農薬適正使用指導回数 | | | | | | | 指標の単位 | 回 | 目標値に対する進捗率 |
|-------|----|------------------|-------|-------|-------|-------|-----|-----|-------|-------|------------|
| 実績 | | 基準年 | 参考 | 1年目 | 2年目 | 3年目 | 4年目 | 5年目 | 目標値 | | |
| | | R1 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 | | | |
| | 実績 | | 1,315 | 887 | 827 | 1,017 | | | | 1,300 | 63.6% |
| 計画 | | | - | 1,300 | 1,300 | | | | | | |



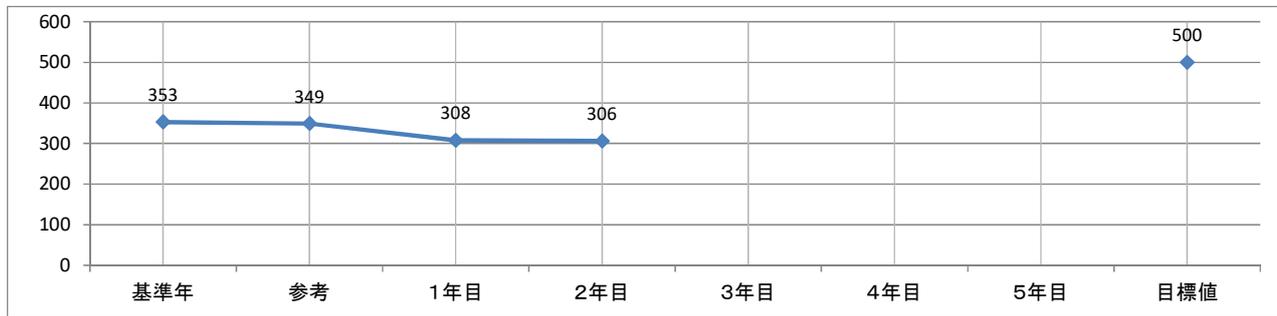
群馬県農業農村振興計画2021-2025 基本施策 実績シート

| | | | |
|----------|--|------|---|
| 施策の柱 | 魅力あふれる農村の持続的な発展【魅力度向上】 | | |
| 展開方向 | 歴史的・文化的背景を持つ多彩な地域特産物の生産振興 | | |
| 推進内容 | 多彩な特産物の生産による活力と魅力ある地域づくり ①蚕糸、②水産、③きのこ | | |
| 担当課 | 蚕糸園芸課、林業振興課 | | |
| 各年度の実績動向 | 年度 | 達成状況 | 成果・課題 |
| | R3 (1年目) | C | 【成果】 ・桑の凍霜害等により繭生産量は大幅に減少したものの、「ぐんま養蚕学校」等を通じ、新たに2経営体が養蚕を開始した。 ・県内17漁協中6漁協(うちR3新規は5漁協)がオンライン遊漁券を導入した。ハコスチの日(11月19日)にPRイベントを行い、ハコスチの普及と利用促進に努めた。 ・県内産きのこを学校給食へ提供し、きのこの需要拡大の取組を行った。また、マスメディア等を利用してきのこの消費拡大に取り組んだ。 |
| | R4 (2年目) | B | 【成果】 ・「ぐんま養蚕学校」等を通じ、新たに3経営体が養蚕を開始した。また、中古養蚕機材をリサイクルし、新規参入者等へ供給する体制を整えた。 ・県内17漁協中9漁協(うちR4新規は3漁協)がオンライン遊漁券を導入し、利便性が向上した。また、ハコスチの日(11月19日)にPRイベントを行い、ハコスチの普及と利用促進に努めた。 ・県内産きのこの学校給食への提供と食育の実施、きのこ品評会、きのこ料理コンクールの開催により消費拡大の取組を行った。また、マスメディア等を利用して、きのこの消費拡大に取り組みました。 |
| | R5 (3年目) | | 【成果】 【課題】 |
| | R6 (4年目) | | 【成果】 【課題】 |
| | R7 (最終年) | | 【成果】 【課題】 |

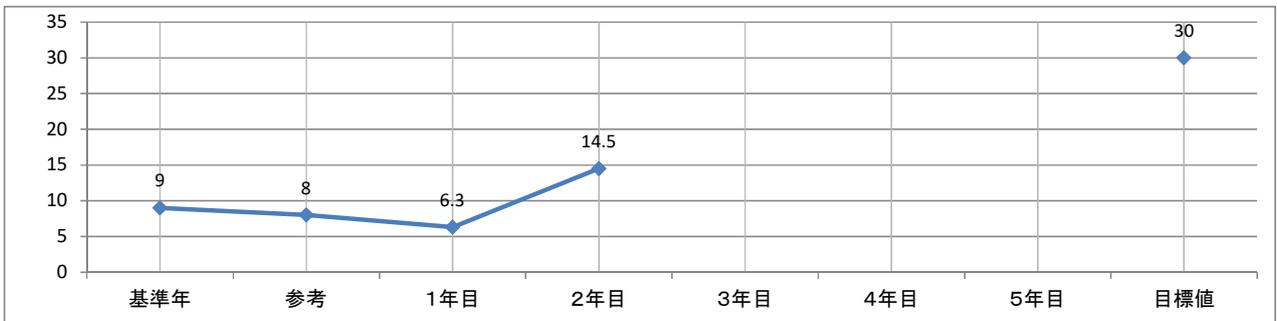
| 目標指標① | | 繭生産量 | | | | | | 指標の単位 | t | |
|-------|----|------|----|-----|------|-----|-----|-------|-----|------------|
| 実績 | | 基準年 | 参考 | 1年目 | 2年目 | 3年目 | 4年目 | 5年目 | 目標値 | 目標値に対する進捗率 |
| | | R1 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 | | |
| | 実績 | | 36 | 30 | 22.2 | 19 | | | | 50 |
| 計画 | | | - | 39 | 42 | | | | | |



| 目標指標① | | 養蚕経営体一戸当たり繭生産量 | | | | | | | 指標の単位 | |
|-------|----|----------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|------------|
| 実績 | | 基準年 | 参考 | 1年目 | 2年目 | 3年目 | 4年目 | 5年目 | 目標値 | 目標値に対する進捗率 |
| | | R1 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 | | |
| | 実績 | 353 | 349 | 308 | 306 | | | | 500 | |
| 計画 | | - | 395 | 420 | | | | | | |



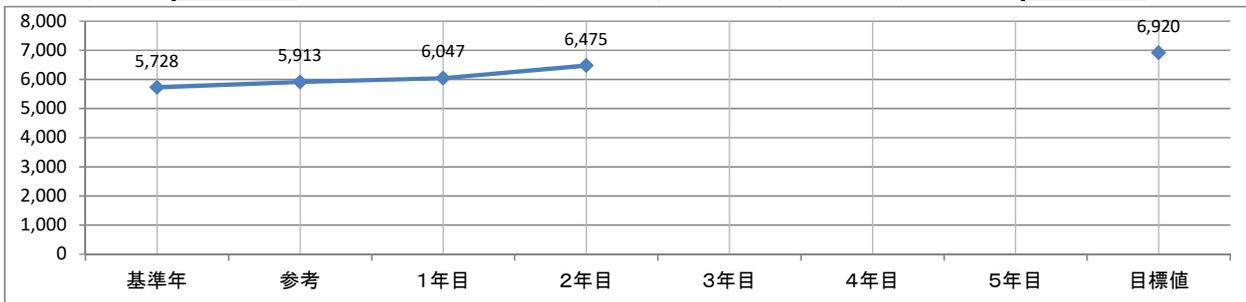
| 目標指標① | | ハコステ生産量 | | | | | | | 指標の単位 | |
|-------|----|---------|----|-----|------|-----|-----|-----|-------|------------|
| 実績 | | 基準年 | 参考 | 1年目 | 2年目 | 3年目 | 4年目 | 5年目 | 目標値 | 目標値に対する進捗率 |
| | | R1 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 | | |
| | 実績 | 9 | 8 | 6.3 | 14.5 | | | | 30 | |
| 計画 | | - | 24 | 24 | | | | | | |



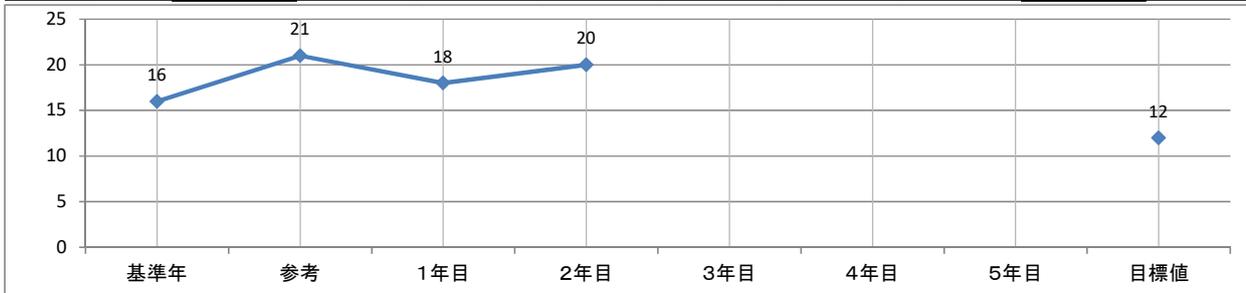
群馬県農業農村振興計画2021-2025 基本施策 実績シート

| | | | |
|--------------|--|------|---|
| 施策の柱 | 魅力あふれる農村の持続的な発展【魅力度向上】 | | |
| 展開方向 | 資源循環を目指した環境保全型農業の推進 | | |
| 推進内容 | ①環境保全型農業の推進 ②病害虫の発生状況を考慮した効果的な防除の推進 ③食品ロス「ゼロ」の推進 | | |
| 担当課 | 技術支援課、ぐんまブランド推進課 | | |
| 各年度の 実績動向 | 年度 | 達成状況 | 成果・課題 |
| | R3 (1年目) | B | <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エコファーマー認定者数について、普及指導現場との連携した取組により概ね計画を達成できた。また、生分解性マルチの活用農業者へのヒアリングや販売業者との情報交換を行い、普及・啓発した。 ・効果的な病害虫防除を実施する判断材料として、「病害虫発生予報」を毎月(12回)、新たな病害虫の発生が確認された場合に「特殊報」を2回、その他必要に応じて「病害虫情報」を4回、計18回提供した。 ・クビアカツヤカミキリ等の重要病害虫について、発生状況を調査するとともに適切な防除対策を図った。また、消費・安全対策交付金を活用して、発生地の果樹園における防除の取組を支援した。 ・農業者や農業団体、食品関連事業者向けに食品ロス削減に係る情報提供などの普及啓発に取り組みました。 |
| | R4 (2年目) | B | <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・普及指導現場との連携した取組により、累計エコファーマー認定者数は6,475人と目標値を達成できた。 ・効果的な病害虫防除を実施する判断材料である「病害虫発生予報」を毎月(計12回)、新たな病害虫の発生が確認された際に情報提供する「特殊報」を1回、病害虫の多発が予想される際に情報提供する「注意報」を1回、その他必要に応じて情報提供する「病害虫情報」を3回行った。 ・クビアカツヤカミキリ等の重要病害虫について、発生状況を調査するとともに適切な防除対策を図った。また、消費・安全対策交付金を活用して、発生地の果樹園における防除の取組を支援した。 ・直売所等で生鮮食品ロスが発生した場合に、それを廃棄することなく、子ども食堂等へ寄付できる体制づくりを各地域で促進していくことを目的として、JA直売所、子ども食堂関係者、県普及指導員、市町村職員等を対象に「農業生産分野における食品ロス削減推進セミナー」を開催し、食品ロス削減に関する普及啓発に取り組んだ。(参加者数30名) <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「みどりの食料システム法」に基づく新たな認定制度が令和5年度から開始予定であるが、対象範囲の拡大や認定要件も変更となるため、制度周知を図り、さらなる認定者増加に向けた普及啓発を行う必要がある。 ・適期・的確な防除が実施できるよう、予察調査の効率化と予報精度のさらなる向上を図る必要がある。 ・クビアカツヤカミキリについては、引き続き、交付金活用等による防除対策の徹底を図る必要がある。 ・規格外品や直売所等で発生した農産物の売れ残りの多くが廃棄されていると思われることから、これらの活用に向けて支援を行う必要がある。一部の直売所や生産者団体及び生産者個人が、地域のフードバンク等にそれらを無償提供している事例はあるが、組織的な取組は少なく、SDGs達成の観点からも積極的な啓発及び支援が必要である。 |
| | R5 (3年目) | | <p>【成果】</p> <p>【課題】</p> |
| | R6 (4年目) | | <p>【成果】</p> <p>【課題】</p> |
| | R7 (最終年) | | <p>【成果】</p> <p>【課題】</p> |

| 目標指標① | | エコファーマー認定者数(累計) | | | | | | | 指標の単位 | 人 | |
|-------|----|-----------------|-------|-------|-------|-----|-----|-----|-------|------------|-------|
| 実績 | | 基準年 | 参考 | 1年目 | 2年目 | 3年目 | 4年目 | 5年目 | 目標値 | 目標値に対する進捗率 | |
| | | R1 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 | | | |
| | 実績 | 5,728 | 5,913 | 6,047 | 6,475 | | | | | | 6,920 |
| 計画 | | - | 6,120 | 6,320 | | | | | | | |



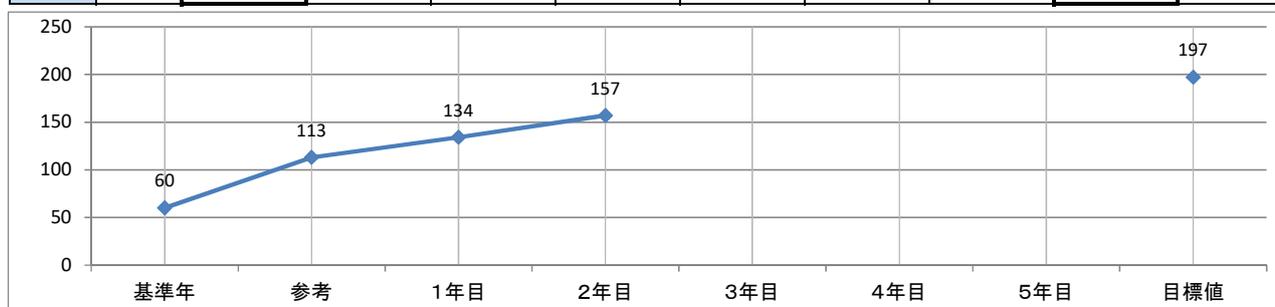
| 目標指標① | | 病害虫発生予察情報の提供回数(年間) | | | | | | | 指標の単位 | 回 | |
|-------|----|--------------------|----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|------------|----|
| 実績 | | 基準年 | 参考 | 1年目 | 2年目 | 3年目 | 4年目 | 5年目 | 目標値 | 目標値に対する進捗率 | |
| | | R1 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 | | | |
| | 実績 | 16 | 21 | 18 | 20 | | | | | | 12 |
| 計画 | | - | 12 | 12 | | | | | | | |



群馬県農業農村振興計画2021-2025 基本施策 実績シート

| | | | |
|----------|----------------------------------|------|---|
| 施策の柱 | 魅力あふれる農村の持続的な発展【魅力度向上】 | | |
| 展開方向 | 誰もが安心して暮らせる農村地域の実現に向けた防災・減災対策の強化 | | |
| 推進内容 | ①防災重点ため池の豪雨・地震対策 ②農村の防災・減災の推進 | | |
| 担当課 | 農村整備課 | | |
| 各年度の実績動向 | 年度 | 達成状況 | 成果・課題 |
| | R3 (1年目) | A | 【成果】 ・緊急時の迅速かつ安全な避難行動につなげるハザードマップの作成について、事業主体を支援し、防災重点ため池5か所のハザードマップを作成した。(175箇所/197箇所作成済み) ・防災重点ため池32か所の豪雨・地震における詳細調査に着手した。 (豪雨:154/197箇所調査済み、地震:175/197箇所調査済み) ・県、市町村、防災重点ため池を管理する土地改良区及び群馬県土地改良事業団体連合会で構成する「群馬県ため池保全整備連絡会」を設置し、ため池の適正な管理手法等について検討した。(2回開催) |
| | R4 (2年目) | A | 【成果】 ・緊急時の迅速かつ安全な避難行動につなげるハザードマップの作成について、事業主体を支援し、防災重点ため池16か所のハザードマップを作成した(191箇所/197箇所作成済み)。 ・防災重点ため池23か所の豪雨・地震における詳細調査に着手した(豪雨:161/197箇所調査済み、地震:185/197箇所調査済み)。 ・「ため池サポートセンターぐんま」を開設(R4.4.27)し、県内の防災重点ため池の現地パトロール(40箇所)や相談対応(15回)を行い、ため池管理者に対して適正な管理手法について指導を行った。 【課題】 ・豪雨・地震における詳細調査において、安全性の低いため池の防災工事については、計画的かつ集中的に実施できるよう対策事業や事業主体の検討を行う必要がある。 |
| | R5 (3年目) | | 【成果】 【課題】 |
| | R6 (4年目) | | 【成果】 【課題】 |
| | R7 (最終年) | | 【成果】 【課題】 |

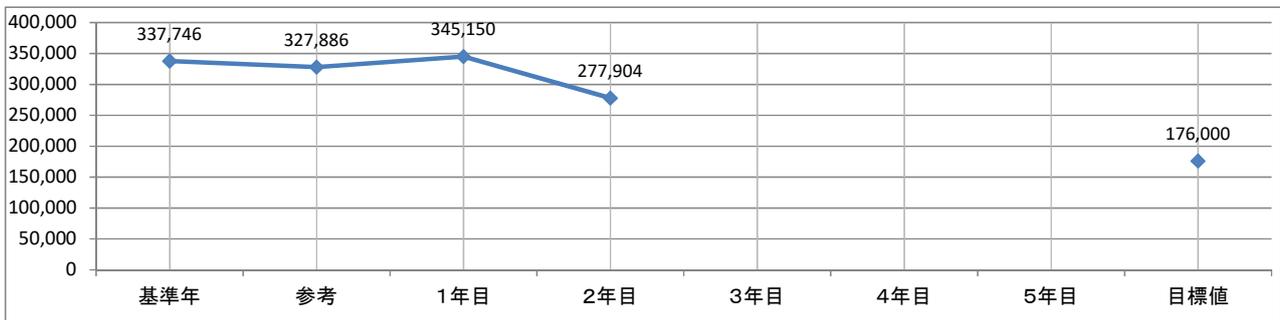
| 目標指標① | | ハザードマップの作成及び豪雨・地震における詳細調査を完了させる防災重点ため池数 | | | | | | | 指標の単位 | 箇所 |
|-------|----|---|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|------------|
| 実績 | | 基準年 | 参考 | 1年目 | 2年目 | 3年目 | 4年目 | 5年目 | 目標値 | 目標値に対する進捗率 |
| | | R1 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 | | |
| | 実績 | 60 | 113 | 134 | 157 | | | | | |
| 計画 | | - | 129 | 157 | | | | | | |



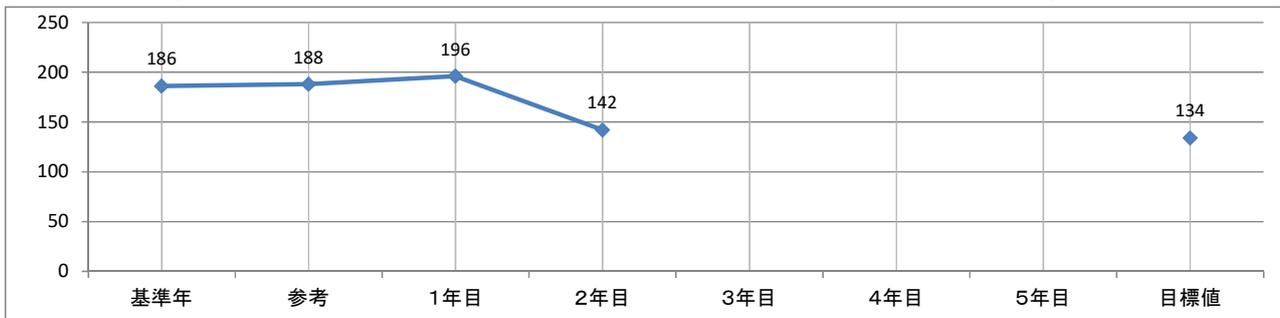
群馬県農業農村振興計画2021-2025 基本施策 実績シート

| | | | |
|----------|-------------|------------------------------------|---|
| 施策の柱 | | 魅力あふれる農村の持続的な発展【魅力度向上】 | |
| 展開方向 | | 官民共創による野生鳥獣被害防止対策の強化 | |
| 推進内容 | | ①効果的な被害対策の推進と人材育成 ②地域の一体的な取組の推進 | |
| 担当課 | | 技術支援課 | |
| 各年度の実績動向 | 年度 | 達成状況 | 成果・課題 |
| | R3 (1年目) | B | <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ニホンジカ、ニホンザル、カモシカ、イノシシ、ツキノワグマ及びカワウの6鳥獣種について、鳥獣保護管理法に基づく適正管理計画(5か年計画)に基づき、捕獲や被害防除対策等を推進した。また、学識経験者等の意見を反映し、ニホンザル及びツキノワグマの次期計画を策定した。 嬭恋村に生息するニホンジカは広域に移動するため、ICT(GPS)首輪を利用し移動経路等の調査を実施した(4頭を追跡)。調査の結果、ニホンジカは農作物の栽培・収穫期(春～秋)に村内を利用し、冬期は隣接する長野県へ移動することが把握され、集中利用する移動ルートでの効果的な捕獲の検討が可能となった。 鳥獣交付金等により、市町村が被害防止計画に基づき実施する総合的な被害対策を支援した。 鳥獣被害地での合意形成及び対策の実行管理を担う地域の牽引者を育成する「地域リーダー育成研修」を中部管内、西部管内及び吾妻管内において開催した。 地域ぐるみで鳥獣被害対策に取り組む「鳥獣害に強い集落づくり支援事業」を中部管内で2地区、西部管内で3地区、吾妻管内で2地区、東部管内で1地区の計8地区において実施した。 |
| | R4 (2年目) | B | <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ニホンジカ、ニホンザル、カモシカ、イノシシ、ツキノワグマ及びカワウの6鳥獣種について、鳥獣保護管理法に基づく適正管理計画(5か年計画)に基づき、捕獲や被害防除対策等を推進した。 鳥獣交付金等により、市町村が被害防止計画に基づき実施する総合的な被害対策を支援した。 嬭恋村を広域行動域とするニホンジカのICT(GPS)首輪等による生息状況調査により、移動ルート、捕獲適地情報を把握した。調査結果を踏まえ、群馬県・長野県境広域捕獲計画を作成し、R5に広域捕獲を連携して実施する。 豚熱感染拡大防止のため、野生イノシシの移動経路となっている河川内や養豚場周辺の草木等の伐採等を行い、緩衝帯を整備した。 鳥獣被害地での合意形成及び対策の実行管理を担う地域の牽引者を育成する「地域リーダー育成研修」7回、地域リーダーからの情報に基づき広域的な課題に取り組む指導者を育成する「地域対策指導者育成研修」1回、各対策を効果的に組み合わせたプランを作成し現地への技術指導を行う技術者を育成する「高度専門技術者育成研修」4回を開催した。 地域ぐるみで鳥獣被害対策に取り組む「鳥獣害に強い集落づくり支援事業」を中部管内で2地区、西部管内で4地区、吾妻管内で2地区、利根沼田管内で1地区の計9地区において実施した。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> カワウ適正管理計画の期間満了に伴い、漁業関係者の意見を反映した改訂を進める必要がある。 生産者や地域住民の捕獲活動への体系的な参画を推進する必要がある。 豚熱にかかるイノシシ対策を引き続き推進する必要がある。 |
| | R5 (3年目) | | <p>【成果】</p> <p>【課題】</p> |
| | R6 (4年目) | | <p>【成果】</p> <p>【課題】</p> |
| | R7 (最終年) | | <p>【成果】</p> <p>【課題】</p> |

| 目標指標① | | 野生鳥獣による農作物被害額 | | | | | | | 指標の単位 | 千円 | |
|-------|----|---------------|---------|---------|---------|-----|-----|-----|-------|------------|---------|
| 実績 | | 基準年 | 参考 | 1年目 | 2年目 | 3年目 | 4年目 | 5年目 | 目標値 | 目標値に対する進捗率 | |
| | | R1 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 | | | |
| | 実績 | 337,746 | 327,886 | 345,150 | 277,904 | | | | | | 176,000 |
| 計画 | | - | 227,000 | 212,000 | | | | | | | |



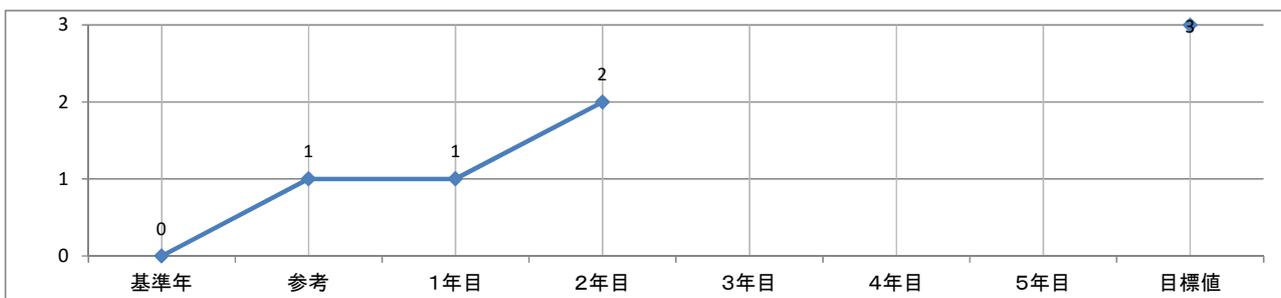
| 目標指標② | | 野生鳥獣による農作物被害面積 | | | | | | | 指標の単位 | ha | |
|-------|----|----------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|------------|-----|
| 実績 | | 基準年 | 参考 | 1年目 | 2年目 | 3年目 | 4年目 | 5年目 | 目標値 | 目標値に対する進捗率 | |
| | | R1 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 | | | |
| | 実績 | 186 | 188 | 196 | 142 | | | | | | 134 |
| 計画 | | - | 165 | 157 | | | | | | | |



群馬県農業農村振興計画2021-2025 基本施策 実績シート

| | | | |
|----------|--|------|---|
| 施策の柱 | ニューノーマルがもたらす農村の新たな価値の創出【価値創出】 | | |
| 展開方向 | 「快疎」な空間としての農村地域を求める関係人口の創出・拡大 | | |
| 推進内容 | ①本県の固有の風土が培った地域資源の磨き上げ ②農村の魅力発信による関係人口の創出 ③特色ある農泊等の推進による関係人口の拡大・深化 ④関係機関と連携した農村への移住・定住の促進 ⑤多様な人材を巻き込むことによる地域コミュニティの活性化 | | |
| 担当課 | 農政課、農業構造政策課、農村整備課 | | |
| 各年度の実績動向 | 年度 | 達成状況 | 成果・課題 |
| | R3 (1年目) | B | 【成果】 ・大学生等で構成するやま・さと応援隊が、地域住民との交流を通じて農山村の課題解決や魅力発信及び地域資源の掘り起こしに取り組んだ。 ・農村の魅力を効果的に伝える農泊プロモーション動画を2本製作し、tulunosを活用して魅力発信をおこなった。 ・農泊モデル地区(農泊×キャンピングカー)の取組を、ぐんまグリーン・ツーリズム協議会において県内各地域にPRした。また、2地区目のモデル地区の実施に向けて、施設見学や聞き取り調査及び調整を行い構想を作成した。 |
| | R4 (2年目) | A | 【成果】 ・大学生等で構成するやま・さと応援隊が、地域住民との交流を通じて農山村の課題解決や魅力発信及び地域資源の掘り起こしに取り組んだ。 ・農泊実践者インタビューを新コンテンツ「農泊を語る」としてwebで情報発信し、農村地域の魅力を発信した。また、農村の魅力を効果的に伝える農泊プロモーション動画5本を、tulunosやイベント等で配信して魅力を発信した。さらに、2地区目の農泊モデル地区として「農泊×養蚕」モニターツアーを2回実施し、特色ある農泊の推進を行った。 【課題】 ・新たなコンテンツ「農泊を語る」において県内各地の取組を掲載し充実させることで、農村の魅力発信に努めていく。また、3地区目の農泊モデル地区の創出に向けて、農泊事業者等との連携が必要である。 |
| | R5 (3年目) | | 【成果】 【課題】 |
| | R6 (4年目) | | 【成果】 【課題】 |
| | R7 (最終年) | | 【成果】 【課題】 |

| | | | | | | | | | | |
|-------|----|---------------|----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|------------|
| 目標指標① | | 「農泊モデル地区」の支援数 | | | | | | | 指標の単位 | 地区 |
| 実績 | | 基準年 | 参考 | 1年目 | 2年目 | 3年目 | 4年目 | 5年目 | 目標値 | 目標値に対する進捗率 |
| | | R1 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 | | |
| | 実績 | 0 | 1 | 1 | 2 | | | | 3 | |
| | 計画 | | - | 1 | 2 | | | | | |



群馬県農業農村振興計画2021-2025 基本施策 実績シート

| | | | |
|----------|---|------|---|
| 施策の柱 | ニューノーマルがもたらす農村の新たな価値の創出【価値創出】 | | |
| 展開方向 | 農村協働力(地域の絆)の深化による多面的機能の維持・発揮 | | |
| 推進内容 | ①協働活動による多面的機能の維持・発揮 ②中山間地域の農業生産活動の支援 | | |
| 担当課 | 農村整備課 | | |
| 各年度の実績動向 | 年度 | 達成状況 | 成果・課題 |
| | R3 (1年目) | A | 【成果】 ・多面的機能支払交付金に取り組む281組織(うち広域化8組織)が行う協働活動を支援し、適正な農地、農業用施設の保安全管理を推進した。また、土地改良区による事務支援を予定する組織や生産基盤整備事業の計画地域における組織の立ち上げを支援した。 ・営農条件が不利な中山間地域の農業生産活動を継続する取組を行う170組織を支援し、農村集落機能の維持・強化を図った。 |
| | R4 (2年目) | A | 【成果】 ・多面的機能支払交付金に取り組む276組織(うち広域化9組織)が行う協働活動を支援し、適正な農地、農業用施設の保安全管理を推進した。また、土地改良区による事務支援を予定する組織や生産基盤整備事業実施中地域における組織の立ち上げを支援した。 ・営農条件が不利な中山間地域の農業生産活動を継続する取組を行う171組織を支援し、農村集落機能の維持・強化を図った。 【課題】 ・活動組織の構成員の高齢化により、取組を断念する組織が増えているため、広域化による作業や事務負担の軽減、土地改良区による事務支援などを推進していく必要がある。 ・中山間地域における農業者の著しい高齢化により、協定継続を断念した組織が多かったことから、事務負担の軽減や他集落等との交流促進による活動支援を推進していく必要がある。 |
| | R5 (3年目) | | 【成果】 【課題】 |
| | R6 (4年目) | | 【成果】 【課題】 |
| | R7 (最終年) | | 【成果】 【課題】 |

| 目標指標① | | 農地・農業用施設の維持・保全が図られた農地面積 | | | | | | | 指標の単位 | ha |
|-------|--------|-------------------------|--------|--------|--------|-----|-----|-----|-------|------------|
| 実績 | | 基準年 | 参考 | 1年目 | 2年目 | 3年目 | 4年目 | 5年目 | 目標値 | 目標値に対する進捗率 |
| | | R1 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 | | |
| | 実績 | 17,553 | 17,890 | 18,951 | 18,869 | | | | | |
| 計画 | 17,553 | - | 18,255 | 19,210 | | | | | | |



7. 地域施策

| | |
|---------|---|
| 地域名 | 中部地域 |
| 施策の取組方向 | 中部地域の元気で魅力ある農業・農村の実現を目指し、「揺るぎない足腰の強い中部農業の確立」、「生き活きと躍動する農村の構築」、「農産物の安定生産と安全性の確保」を柱として、次の施策に取り組みます。 |
| 年度 | 施策の成果・課題 |
| R4 | <p>1 揺るぎない足腰の強い中部農業の確立</p> <p>【成果】</p> <p>○担い手の確保・育成と「人・農地プラン」の実現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規就農者数(45歳未満)は、前年度の80名に比べ減少したものの69名確保することができた。 ・農地中間管理事業については、各市町村と連携して積極的な活用推進を図った結果、200haが転貸された。 ・農業経営基盤強化促進法の一部改正により人・農地プランが法定化され、令和7年3月末までに地域計画を策定することとなった。地域計画では、10年後に目指すべき農地利用の姿を地図に表示した目標地図(筆ごとに耕作者を記載)を作成するとともに、地域農業の将来のあり方等を明確化する。市町村・農業委員会と協力し、地域計画作成に向けた準備や農業者への周知活動を行った。 <p>○産地の競争力強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・補助事業の活用を推進し、ハウス設備の整備、防除機や出荷調整機器等の導入を支援した。 ・はばたけ「ぐんまの担い手」支援事業:10件、「野菜王国・ぐんま」総合対策:7件、経営発展支援事業:3件、担い手確保・経営強化支援事業:1件 ・きゅうりの新規栽培者は、令和3年度は0名だったが、令和4年度は4名を確保し、環境測定結果に基づく環境制御装置の有効利用による収量・品質向上に向けた栽培技術指導に取り組んだ。 ・なすの新規栽培者は、令和3年度は27名だったが、令和4年度は令和3年度より2割多い33名を確保し、2力年で延べ60名となった。高品質安定生産を図るための整枝管理や病害虫対策等の栽培管理技術の向上を推進した。 ・花きについては、栄養診断を実施し、適正な肥培管理による高品質安定生産技術を指導した。 <p>○畜産経営体の収益性向上・省力化や経営の効率化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・畜産・酪農収益力強化整備等特別対策事業等(畜産クラスター事業等)に取り組んでいる17協議会を支援するとともに、機械導入等による変更計画の作成を支援した。 ・畜産GAPの認証取得に向けて養鶏農家1戸を支援した結果、肉養鶏では県内初の「JGAP認証農場」に認定された。 ・県産飼料拡大・未利用資源活用対策支援事業を活用し、県産飼料生産の規模拡大に取り組む飼料生産組織8件に対し、収穫機、ロールペーラ、ラップマシンの導入を支援した。 ・経営の効率化には、適切な飼養衛生管理が重要であることから、家畜の伝染性疾患の発生予防とあわせて指導を行った。 <p>○集落営農法人等の経営改善・水田の高度利用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集落営農法人の経営継続にかかるビジョン策定のためのアンケートや話し合いを実施し、ビジョン策定を支援した結果、令和4年度は3法人で策定され、策定法人は累計で6法人となった。また、71法人の経営支援相談等を行い、法人運営の現状と課題を把握した。 ・経営多角化を目的に、ネギ等の野菜導入に向けた栽培指導や加工キャベツの品種比較実証ほを設置して優良品種を検討した。 ・水田自動給水栓等水管理システムの現地実証(3箇所)とあわせて技術研修会(4回)を開催し、スマート農業技術の普及を図った。 ・8つのコントラクター組織に対して組織運営を支援した。また、子実トウモロコシの栽培については3年目となり、約4.2haで栽培され、単収は422kg/10aとなった。 ・令和5年度の集落営農活性化プロジェクト促進事業(国庫補助事業)の活用に向け、3集落営農法人の集落ビジョンを作成した。 <p>【課題】</p> <p>○担い手の確保・育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・改正農業経営基盤強化促進法が令和5年4月1日に施行され、地域計画(目標地図)の策定、農地の貸借等の手続きの変更、基盤法基本方針・基本構想の改正、農地法3条の下限面積の廃止など、多くの改正が行われた。特に地域計画については、令和7年3月末までに新たに市町村が策定しなければならず、市町村・農業委員会に適切に情報をつなぎ、連携・協力して対応する必要がある。 ・就農相談から技術・経営指導まで切れ目なくサポートするため、地域の支援体制強化に取り組む必要がある。 <p>○産地の競争力強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国庫事業はハードルが高く、県単事業に要望が集中し、競争率が高くなっている一方で、事業採択後に辞退するケースも複数存在している。また、事業実施後、成果目標を達成できないケースが散見される。 ・資材等の価格が軒並み高騰する中で、各種事業の効果的な活用により、担い手の確保・育成、生産性の向上及び収益力の強化に総合的に取り組む必要がある。 <p>○畜産経営体の収益性向上・省力化や経営の効率化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県内でもトップクラスの多くの生産者がいることから、収益の向上と経営の効率化に取り組む必要がある。 <p>○集落営農法人等の経営改善・水田の高度利用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経営継続に係るビジョン策定を進め、水田営農の中核となっている集落営農法人等の体質強化に取り組む必要がある。 |

| | |
|---------|--|
| 地域名 | 中部地域 |
| 施策の取組方向 | 中部地域の元気で魅力ある農業・農村の実現を目指し、「揺るぎない足腰の強い中部農業の確立」、「生き活きと躍動する農村の構築」、「農産物の安定生産と安全性の確保」を柱として、次の施策に取り組みます。 |
| 年度 | 施策の成果・課題 |
| R4 | <p>2 生き活きと躍動する農村の構築</p> <p>【成果】</p> <p>○意欲ある多様な担い手と次世代リーダーの活躍の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次世代リーダーとして、新規農業経営士・農村生活アドバイザー5名が認定された。 ・若手女性農業者組織「あぐりいいな」はSNSを活用した情報発信研修会を開催した。また、「まえばしマジョーラ」は各種マルシェへ参加し、地域農産物や自身の活動をPRした。 ・管内の若手女性農業者を支援するため、戸別訪問やアンケートにより支援要望を把握し、その内容に沿った経営管理や技術習得の講座を4回開催した。 <p>○生産基盤整備の推進と施設等の防災・減災対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前橋市上細井中西部地区、伊勢崎市境小此木東部地区及び渋川市笠張地区の計3地区において、担い手の経営基盤強化に向け、農地の集積・集約化を進めながら農地整備事業を実施した。 ・前橋市から伊勢崎市に跨って農業用水を供給する大正用水3期地区(前橋市)において、農業用水の安定供給のため、幹線水路の水路橋下部工事などを実施するとともに、渋川市の赤城南第2地区(渋川市赤城町)において農産物輸送体系の維持及び地域交通の安全性確保のため、広域農道の舗装補修を実施し、基幹的農業用施設の長寿命化対策を進めた。 ・管内に点在する101の防災重点ため池について、令和4年度は8箇所のみハザードマップ作成及び豪雨・自身対策調査に取り組み事業主体に対して技術支援や助言を行い、地域の防災・減災対策を推進した。R4年度末までに管内101箇所中95箇所のハザードマップが作成された。 <p>○農村環境の適切な保全管理と鳥獣害対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農地や農業用施設の維持・保全のため、多面的機能支払交付金を活用し、農地面積4,513haの農地維持活動や資源向上活動に取り組んでいる活動組織に対し、関係市町村と連携して研修会の開催やフォローアップ等、活動組織の支援を実施した。また、新規で活動を希望する地域に対しては、組織設立の検討会等で関係機関と連携し助言を行う等、組織立ち上げに向けた支援を進めた。 ・鳥獣害対策として各種補助事業を活用し捕獲対策を進めるとともに、前橋市苗ヶ島山田地区では農村整備事業を活用した侵入防止柵等の導入を推進した。 <p>○観光と連携した都市と農村の交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で観光と連携した交流事業が中止となり、新常態に対応した交流事業のあり方を検討した。 ・観光農園では、来場者が見込まれず市場出荷に切り替えるなど、経営転換を図り影響を最小限に食い止めた。 ・赤城自然園の協力により、来園者を対象に榛東村・吉岡町のブドウの試食配布、渋川市・榛東村のリンゴの試食配布・即売を行い、北群馬渋川地区の観光果樹をPRした。 <p>【課題】</p> <p>○意欲ある多様な担い手と次世代リーダーの活躍の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次世代リーダーとして、農業経営士、農村アドバイザーの認定を継続して進める必要がある。 ・若手女性農業者の支援を通じ、多様なリーダーの育成を図る必要がある。 <p>○生産基盤整備の推進と施設等の防災・減災対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農地整備事業実施地区において、担い手への農地集積・集約化を進め、地域農業経営の強化を図っていく必要がある。 ・農業用ため池の防災・減災対策については、関係機関との一層の連携を保ちながら推進していく必要がある。 <p>○農村環境の適切な保全管理と鳥獣害対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の実情・要望に応じた適正な保全管理に努めていく必要がある。 ・鳥獣害対策では、地域が主体となった地域ぐるみの対策が必要である。 ・管内の豚熱発生を受け、引き続き野生イノシシの捕獲を強化していく必要がある。 ・農村地域では、急激な人口減少や鳥獣捕獲の担い手である狩猟者が減少している。 <p>○観光と連携した都市と農村の交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症法上の位置づけが5類に移行し、コロナ以前の日常を取り戻しつつあるが、新たなニーズを踏まえたグリーン・ツーリズムの普及を図るには、多様な人材を含めた推進体制を強化する必要がある。 |

| | |
|---------|---|
| 地域名 | 中部地域 |
| 施策の取組方向 | 中部地域の元気で魅力ある農業・農村の実現を目指し、「揺るぎない足腰の強い中部農業の確立」、「活き活きと躍動する農村の構築」、「農産物の安定生産と安全性の確保」を柱として、次の施策に取り組みます。 |
| 年度 | 施策の成果・課題 |
| R4 | <p>3 地域農畜産物の需要拡大と安全・安心の確保</p> <p>【成果】</p> <p>○地域農畜産物の需要拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域農産物の販売促進と消費者交流の一環として、「ぎやらりーマルシェ」を開催し10起業が参加した。 ・前橋市と連携して「赤城の恵」ブランド商品のPRや認証に係る取組を支援した。 ・前橋産小麦の消費拡大を図るため、令和3年度の「すいとんサラダ」、「まんじゅう」に続き、令和4年度は「トマトすいとん」と「あまねじ」のレシピ動画を作成し、群馬県の動画情報発信サイト「tsulunos」で発信した。 ・北群馬渋川地区の農産物を活用したレシピのリーフレットを管内小学校5年生へ配布し、食育教材として活用された。 <p>○農薬危害低減と農作業事故の防止・GAP推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農薬や農作業事故の危害要因・事故発生時の対応等を明確にするため、GAP認証取得の推進と考え方を取り入れた取組の普及を図った。また、認定取得後のフォローアップとして維持審査を支援した。 ・食品加工では、HACCPへの取組が求められており、その取組等を支援した。 ・農作業死亡事故「ゼロ」を目指し啓発活動を実施したところ、令和3年度は死亡事故「0」を達成したが、令和4年度は2件発生した。 <p>○家畜疾病対策及び特定家畜伝染病防疫措置の体制強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特定家畜伝染病の発生予防のため、適切な飼養衛生管理について重点指導を行った。 ・豚熱の発生予防対策として、野生イノシシの捕獲強化対策を実施(R4年4月～R5年3月末の管内有害捕獲数221頭[前年同期間151頭])した。(R4年4月～R5年3月末)の中部家保管内における検査頭数193頭、陽性頭数6頭：基準日は捕獲日) ・随時、豚熱や高病原性鳥インフルエンザの発生情報を各農家および関係機関に中部地域特定家畜伝染病現地対策本部として情報提供を行い、さらに農業事務所内研修を1回開催した。 <p>【課題】</p> <p>○地域農畜産物の需要拡大と安全・安心の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市町村・JAとの連携による食育活動等を通じた地産地消を一層の推進を図る必要がある。 <p>○農薬危害低減と農作業事故の防止・GAP推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和3年5月に制定された「みどりの食料システム戦略」及び令和5年3月に策定された「群馬県みどりの食料システム基本計画」の目標達成に向け、関係機関、農業者及び消費者等への理解促進を図るとともに、農業の生産力向上と持続性の両立に向けた農業環境負荷低減に係る取組を早急に推進する必要がある。 <p>○家畜疾病対策及び特定家畜伝染病防疫措置の体制強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家畜の所有者に対し飼養衛生管理基準の遵守について指導を徹底する必要がある。特定家畜伝染病の発生に備えて市町村と防疫措置体制の連携強化を図る。 |

| | |
|---------|---|
| 地域名 | 西部地域 |
| 施策の取組方向 | <p>西部地域では、自然・立地条件など地域特性や資源を生かして多品目少量生産を主体とした多彩な農業が展開されていますが、担い手の高齢化や減少、農繁期の労働力不足、中山間地の過疎化、耕作放棄地の増大、野生鳥獣による農作物被害などが問題となっています。</p> <p>そのため、地域農業を担う多様な農業者の確保・育成及び担い手への農地の集積・集約化、地域の特色を生かした農業経営の体質強化と販売力の強化、農業生産基盤の整備・保全、鳥獣被害対策等の取組を推進します。</p> |
| 年度 | 施策の成果・課題 |
| | <p>1 地域農業を担う多様な農業者の確保・育成</p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ニューノーマルに対応した多様な担い手の確保・育成、就農後の経営安定・定着 <ul style="list-style-type: none"> ・地域で農業を志す者に対し就農相談を行い、就農計画作成支援等を行った。 ・新規就農者の中から88名（普及指導課45名、藤岡地区農業指導センター20名、富岡地区農業指導センター21名）の重点指導対象を選定し、経営安定のための巡回指導等を行った。 ○地域農業の牽引役となる人材育成 <ul style="list-style-type: none"> ・新規認定、再認定を希望する農業者の経営改善計画作成指導を行った。 ・農業経営相談所の重点指導農業者に対し、伴走支援を継続し、「支援会議」により経営改善を支援した。 ・地域農業の牽引役として農業経営士、農村生活アドバイザー、青年農業士を認定した。 ○農地中間管理事業等を活用した担い手への農地の集積・集約化 <ul style="list-style-type: none"> ・各市町村の「人・農地プラン」の実質化の進行管理や支援・助言を行うとともに、座談会に出席し、情報共有を図り、農地中間管理事業について周知を図った。 ○農福連携等による労働力不足の解消 <ul style="list-style-type: none"> ・西部地域農福連携推進会議を開催し、情報共有を図るとともに、新たな取組として農福連携ワークショップを開催した。 ・学生ボランティア・農福連携による労働力不足の解消に向け、「うめ」の収穫作業に係る作業体験会を開催し、作業マニュアルを作成した。 ・3JAに農福連携相談窓口を設置し、マッチングを図った。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業経営士や農村生活アドバイザーを講師とした現地視察会等の開催による、新規就農者自らが経営を顧みる場の提供 ・地域農業の牽引役となる人材を継続的に育成 ・市町村との農地集積・集約化の推進についての情報共有の強化 ・農業サイド・福祉サイド相互の理解醸成(例)農作業工賃の設定 |
| R4 | <p>2 地域の特色を生かした収益性の高い農業</p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○なし・うめ等の果樹産地での改植推進、県育成品種の導入、新たな技術の導入拡大 <ul style="list-style-type: none"> ・改植事業では、なし・うめの改植面積が約1.6ha増え、累計で7.4haとなった。 ・県育成うめ新品種「群馬U6号」（商標登録令和4年3月23日付け「ゆみまる」）を導入した管内2ヶ所では、結実調査を継続して実施した。さらに、クビアカツヤカミキリの被害木大量処理方法の検討会を開催し、処理方法が対策手引きに適合することが確認できた。また、なしのハダニ防除については、新規に2戸の農家が天敵製剤を導入した。 ○野菜やこんにやく栽培におけるICT等を活用したスマート農業の普及推進 <ul style="list-style-type: none"> ・環境制御技術の導入による施設トマトの収量向上を目的として、的確な草勢管理を支援した。 ・施設野菜農家の環境モニタリング装置、炭酸ガス発生装置の導入を支援した。 ・ドローン技術を活用して、こんにやくの作付状況や病害発生を調査し、防除指導に活用した。 ・令和4年度「野菜王国・ぐんま」総合対策において、受益者7戸（いちご3戸、ねぎ4戸）に対して、鉄骨ハウスや農機具等の導入を支援した。 ・令和4年度持続的なこんにやく生産を支える総合対策において、受益者2戸（受益面積 計12ha）に対して、農機具導入（こんにやく拾上機、培土複合作業機）を支援した。 ○水田フル活用による飼料イネ、飼料用米、麦類の生産安定、売れる米づくり・麦づくりの推進 <ul style="list-style-type: none"> ・地域水田収益力強化ビジョンに基づき、需要に応じた生産を推進するとともに、ビジョンに位置づけられた地域推進作物に係る取組を支援した。 ・小麦「ゆめかおり」実証ほによりタンパク質含量を上げるための効果的な追肥技術を推進した。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栽培者の高齢化や気候変動の影響による生産量・品質の低下やクビアカツヤカミキリのまん延防止 ・高樹齢化しているなし・うめ園における改植拡大と適正な管理指導による、生産性の向上 ・スマート農業の普及の継続的な推進 ・ICT活用によるスマート農業の導入に係る農業者の理解の一層の促進 ・引き続き、水田フル活用に係る各制度への理解を促進し、水田農業全体としての農業経営の安定を図るための経営所得安定制度への加入の促進 |

| | |
|---------|---|
| 地域名 | 西部地域 |
| 施策の取組方向 | <p>西部地域では、自然・立地条件など地域特性や資源を生かして多品目少量生産を主体とした多彩な農業が展開されていますが、担い手の高齢化や減少、農繁期の労働力不足、中山間地の過疎化、耕作放棄地の増大、野生鳥獣による農作物被害などが問題となっています。</p> <p>そのため、地域農業を担う多様な農業者の確保・育成及び担い手への農地の集積・集約化、地域の特色を生かした農業経営の体質強化と販売力の強化、農業生産基盤の整備・保全、鳥獣被害対策等の取組を推進します。</p> |
| 年度 | 施策の成果・課題 |
| R4 | <p>3 地域の特色を生かした農村地域の活性化</p> <p>○地域の歴史的・文化的背景を持つ多彩な農畜産物の生産や6次産業化の振興</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高崎健康福祉大学と連携して、地域農畜産物「下仁田ネギ」の草姿タイプの生育状況に関する調査を実施するとともに、なしの新たな加工品開発に取り組んだ。 ・花いちもんめ工房を支援し、道の駅上野への新規生花販売開始とドライフラワー加工新商品販売による6次産業化を推進した。 <p>○地域農畜産物の「強み」を生かした魅力発信や加工品等による高付加価値化、国内外への販路拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・降ひょう被害を受けたうめ産地応援事業として各種イベント等におけるうめ商品を景品として提供した。 ・降ひょう被害の克服に取り組む産地をFMラジオでPRを行った。 ・榛名のなしを使用した「和梨のシードル」、「なしのスパークリングワイン」の開発及び販売開始を支援した ・高崎健康福祉大学(やま・さと応援隊)と連携して、なしの新しい加工品(福神漬け)の試作に取り組んだ。 ・高崎市内のイチゴ農家4者が、香港への輸出(1,300パック)に取り組んだ。 ・神流町奥多野グリーン・ツーリズム研究会によるアワバタダイズ栽培を支援するとともに、その活動をPRを行った。収穫したアワバタダイズは町が購入し、特産豆腐に加工、販売した。 <p>○地域の農畜産物や農村文化、農村景観等の魅力を情報発信、地域に継続的に関わる関係人口を増加させ農村地域の活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高崎健康福祉大学(やま・さと応援隊)と連携して、地域農産物「なし」の魅力を、大学の学園祭や「はるなの梨」ジャンボ梨コンテスト等を通じてPRした。 ・奥多野グリーン・ツーリズム研究会並びに奥多野生活研究グループ連絡協議会の活動を支援・PRするとともに移住者等に対して会活動への参加を推進した。 <p>○多面的機能支払や中山間地域等直接支払を活用した地域協働活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多面的機能支払交付金による地域活動は、管内の46組織(2,565ha)において農地維持や末端水路の保安全管理が実施された。 ・令和4年度も多面的機能支払交付金や中山間地域等直接支払交付金により、協働活動による農地および施設の維持保全を支援した。 ・令和2年度から第5期対策に移行した中山間地域等直接支払交付金を活用し、管内の50協定(269ha)において共同活動による農地の維持保全を図った。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幅広く関係者との連携強化を進めるとともに、具体的な新商品の開発、新たな取組の促進、関係人口の増加と農村地域の活性化 ・引き続き多面的機能支払や中山間地域直接支払等の事業を有効に活用し地域協働活動を推進 |
| | <p>4 農業生産基盤の整備・保全・管理</p> <p>【成果】</p> <p>○農業の生産基盤である農地と基幹的水利施設の保全対策の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農地整備: 富岡市吉田、藤岡市牛田川除、保美地区の実施 ・水利施設: 鎚川用水、甘楽多野用水、中村堰、神流川用水地区の実施 <p>○関係市町村と連携して、防災重点ため池、地すべり防止等の防災・減災対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災重点ため池: 藤岡市大谷牛秣地区(地震対策)、富岡市上の平溜池(廃止) ・地すべり防止: 藤岡市等8箇所(継続監視)、甘楽町河振地区(地すべり対策) <p>○野生鳥獣被害対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・被害面積7,094ha(前年度比99%)、被害金額: 6,012万円(前年度比88%) ・鳥獣被害防止総合対策交付金(5市町及び8地域協議会、国庫)や鳥獣害対策地域支援事業(9市町村)により、捕獲檻の導入、緊急捕獲活動等を支援 ・多面的機能支払交付金: 11地区(侵入防止柵の管理等) ・小規模農村整備事業: 富岡3地区 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国営土地改良事業「鎚川地区」の事業推進(国、市町村、土地改良区との各種調整) ・防災重点ため池特措法の期限である令和12年度末までに防災工事等を完了 ・引き続き国庫や県単事業を有効に活用して農作物被害を軽減 ・営農意欲の減退につながる鳥獣被害に対する迅速な対応 |

| | |
|---------|---|
| 地域名 | 西部地域 |
| 施策の取組方向 | <p>西部地域では、自然・立地条件など地域特性や資源を生かして多品目少量生産を主体とした多彩な農業が展開されていますが、担い手の高齢化や減少、農繁期の労働力不足、中山間地の過疎化、耕作放棄地の増大、野生鳥獣による農作物被害などが問題となっています。</p> <p>そのため、地域農業を担う多様な農業者の確保・育成及び担い手への農地の集積・集約化、地域の特色を生かした農業経営の体質強化と販売力の強化、農業生産基盤の整備・保全、鳥獣被害対策等の取組を推進します。</p> |
| 年度 | 施策の成果・課題 |
| R4 | <p>5 消費者視点の安全・安心な農畜産物の生産・提供</p> <p>【成果】</p> <p>○持続的な農業生産、信頼される産地づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境保全型農業直接支払交付金を活用して、管内7市町(12農業者団体)において、有機農業・堆肥施用に取り組み、環境保全型農業の実施を推進した。 ・GAPIに関する研修会 64回 1,942人(普及指導課 34回 1,217人、品目:ネギ、ズッキーニ、ナスなど、藤岡地区農業指導センター 9回 147人 品目:イチゴ、ネギ、アスパラガスなど 富岡地区農業指導センター 21回 578人 品目:タマネギ、下仁田ネギ、ナスなど) ・エコファーマー実績 23名(普及指導課15名、藤岡地区農業指導センター5名、富岡地区農業指導センター3名) ・特別栽培農産物6品目(玉葱22.3ha、馬鈴薯1.9ha、ニラ0.29ha、コンニャク0.9ha、ブルーベリー0.07ha、ウメ1.54ha) <p>○安全・安心な農産物生産の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肥料取締法【特殊肥料の変更届(2件)、肥料販売業の新規届出(1件)、変更届(3件)】農薬取締法【販売店の立入調査(45件)】、農薬適正使用条例及び農産物等安全検査実施要領【5品目(なす、トマト、きゅうり、なし、ブロッコリー)実施し全て適正】、放射性物質検査方針【1品目(小麦)実施し全て基準値未満】 ・農薬安全使用講習会として、各種栽培講習会の中で農薬の安全使用を説明 172回 4173人(普及指導課、54回 1957人 藤岡地区農業指導センター 71回 1218人 富岡地区農業指導センター 47回 998人) <p>○酪農における飼料の生産拡大と利用促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・所内担当者会議を開催し、関係者の支援体制や飼料増産に向けた推進内容について検討した。 <p>○飼養管理衛生基準の遵守徹底、市町村や畜産関係機関と連携した防疫体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・飼養衛生管理基準の遵守徹底について畜産農家へ継続的に指導するとともに、西部地域特定家畜伝染病防疫演習を開催(2回)して、市町村や関係機関と連携した迅速かつ的確な初動防疫体制の強化を図った。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・取組を拡大していくための、更なる各種制度、事業に係る理解の促進 ・各種法令の遵守に向けた、関係機関との連携による啓発活動の継続 ・自給飼料の増産を目指す生産者の情報やニーズの把握及び関係者の連携による具体的な支援策の検討 ・県対策本部、現地対策本部及び市町村対策本部との連携強化 |

| | |
|---------|---|
| 地域名 | 吾妻地域 |
| 施策の取組方向 | 当地域は、西部地区の高原地帯を除くと農家戸数や就業人口の減少・高齢化が進み、担い手対策が急務となっているため、特に新規参入者に対する支援を強化します。また、鳥獣による農作物被害は依然として深刻な状況にあり、今後も一層の対策を進めます。一方で、本地域は観光資源に恵まれ交流人口が多いことから、これを活用した農業振興に取り組みます。 |
| 年度 | 施策の成果・課題 |
| R4 | <p>1 地域農業を支える多様な担い手の確保と経営基盤の強化</p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農地の集積・集約化の推進にあたり、農用地利用集積促進事業を活用するなどし農地を中間管理機構へ貸し付け、集積を図った。 ・新規就農者の受入体制を強化し、定着と経営者意識の醸成を図るとともに、栽培技術の習得を支援した。新規就農者3名(中之条町:花き)が営農を開始し、1名が研修中である。また、就農フェア等で相談を行うとともに、新規就農者13名に対しサポートチームによる経営改善を指導した。 ・農業者組織の育成や経営基盤強化に向けた取組を支援するとともに、農作業受委託を促進した。町村、JA、生産組織代表者を参集し「あがつま水稲作推進検討会議」を開催し振興方策を検討するとともに、集落営農組織の受託面積拡大に向けた運営支援や栽培指導を行った。 ・地域リーダー、農業青年、女性農業者の組織活動を支援した。農業経営士や農村生活アドバイザー、農業青年組織の活動は、新型コロナウイルスの感染対策をとり、最小限の活動を行った。あがつま農村女性会議と吾妻農業事務所の共催によりあがつま農業フォーラムを開催し、担い手確保に向けた意見交換を行った。 ・農地中間管理事業の活用や生産基盤の整備を契機とした担い手への農地集積・集約化を推進し、地域計画の策定に向けた取組を行った。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さらに農地の集積・集約化を推進していく。 ・農業経営基盤強化法等の一部改正が行われたことを受け、各町村と連携し、町村基本構想の見直しと地域計画策定に対応していく。 ・既存受入体制の充実と新たな体制づくりに向け、担い手担当者会議や受入農業者等研修会を開催していく。新規就農および予定者への支援、就農希望者の継続募集を行う。 ・水稲作推進検討会において、各市町村と情報共有・意見交換を行う。組織の長中期計画の作成、受託面積の増加に備えた機械の更新やオペレータの確保を準備していく。 ・各組織の事業計画を検討し、地域農業検討会や女性農業者の活動等を支援する。 |
| | <p>2 地域の特性を生かした農産物の産地強化と競争力のある農業生産</p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境保全型農業直接支払交付金は、3町村、3団体がカバークローブ、有機農業に取組んだ。 ・特殊肥料で販売業務開始届出事項変更届出書(10業者)、生産業者届出事項変更届出書(4業者)、計画協議書(1業者)と生産事業廃止届出書(1業者)の提出があった。 ・キャベツ、はくさい等の高原野菜、夏秋なすやズッキーニ、りんご、キク類、こんにゃく等の地域特産物の安定生産と高品質化に向け、JAなど関係機関と連携し栽培講習会や実証ほの設置、難防除病害虫対策などを実施し産地強化を図った。産地維持のため、JAと連携して野菜や花き類等の説明会を開催して新規栽培者の確保を目指すとともに、野菜新規栽培者については重点的な指導を行った。 ・おいしい米づくりや品質向上に向け、良食味米生産組織を対象に気象に応じた栽培や良食味米生産のための講習会を実施し、食味コンクールを利用した有利販売への取り組みを支援した。 ・資源循環を目指した環境保全型農業に取り組み、エコファーマーは14戸が更新認定された。GAP導入推進では各生産部会に対し労働環境や収穫調整作業の改善について指導し意識の向上が図られるとともに、JGAP取得者が3戸増加した。表土流亡軽減対策は、防止対策展示ほの設置、関係機関による対策会議を開催、軽減対策の手引きを生産者へ配布作成した。 ・農産物直売所や観光農園の運営及び地域特産物を活用した農産物加工品の開発、販売等を支援するとともに、消費者に対するPR活動を行った。女性起業家や農産物直売所協議会を対象にしたHACCP研修会は、コロナ禍により中止となったため資料配付で対応した。 ・道の駅の直売所出荷者に対し、販売品目や栽培資料を配付し安定生産を指導した。また、基盤整備や加工施設整備が完了した営農組織に対して、品目毎に栽培指導や加工指導を行い技術の向上が図られた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境保全型農業直接支払交付金事業を取組む農業者等の制度趣旨に対する理解度が低いと、町村を通して農業者等に対する丁寧な説明が必要となる。 ・北軽井沢の酪農家が大口の堆肥の需要がないかとの要望があり関係者とのマッチングを検討する必要がある。 ・地域特産物の安定生産と高品質化に向け、栽培講習会や実証ほ設置、気象変動や難防除病害虫対策などを継続し、産地強化を図る。 ・環境保全型農業や表土流亡軽減対策、GAP導入推進等について、引き続き産地への働きかけを行う。下層土が露出したほ場では土壌改良資材の施用では不十分のため、抜本的な対策を検討していく必要がある。 ・農産物直売所や女性起業家に対する加工品の開発・販売等を支援、食品衛生法等関係法令の改正を周知する研修会の開催。 ・ハツ場ダム周辺地域の営農組織等へ品目ごとの栽培や防除、加工指導を行い、農業と地域活性化に取り組む。 |

| | |
|---------|---|
| 地域名 | 吾妻地域 |
| 施策の取組方向 | 当地域は、西部地区の高原地帯を除くと農家戸数や就業人口の減少・高齢化が進み、担い手対策が急務となっているため、特に新規参入者に対する支援を強化します。また、鳥獣による農作物被害は依然として深刻な状況にあり、今後も一層の対策を進めます。一方で、本地域は観光資源に恵まれ交流人口が多いことから、これを活用した農業振興に取り組みます。 |
| 年度 | 施策の成果・課題 |
| R4 | <p>3 競争力に優れた収益性の高い畜産経営の確立と家畜伝染病の発生予防</p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 畜産経営の安定化に向けて、生産性の高い飼養管理と飼料自給率の向上を図った。草地研修会開催を契機に、永年草地の簡易更新面積が増加し、各地区の簡易更新後の生育状況や種苗会社からの情報を参加者らで確認し、情報共有された。 関係機関と協力して乳質改善対策や飼養衛生管理について巡回指導を実施し、併せて情報提供を行った。 農場HACCP構築会議を講師と関係機関等により4回開催、認証取得に向けて農家支援を行い、令和4年8月に酪農1農場において認証取得が図られた。 畜産環境対策に取り組み、地域と調和した畜産経営を支援した。 コンニャク栽培における堆肥(鶏ふん)利用展示ほを設置し、施用効果を確認するとともに、講習会においてコンニャク栽培農家へ利用促進を図った。 TMRセンターでは、麦栽培農家との麦わらのマッチングができたが、雨の影響で収量が昨年度の約半分(350ロール)となった。 TMRセンターの稲WCSは、需給契約で約800ロールを購入することにより、良質飼料生産と自給飼料の確保が図られた。 TMRセンターへの自走式給餌機の導入について、助言、指導を行い事業承認を実現した。 広報等により畜産環境対策の重要性について、関係者への啓発・指導を行うことにより意識の向上が図られた。 飼養衛生管理基準の遵守の徹底を指導し、生産者の家畜伝染病防疫意識の向上が図られた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 定期的な草地管理指導の実施。簡易更新(追播)実証ほにより、2品種の生育状況を調査し、適応性の比較を行う。 今後もJAあがつまや家畜保健衛生課など関係機関と協力して、乳質改善対策や飼養衛生管理について継続的な指導等を行う。 リン酸や石灰の過剰なほ場が多く、土壌分析を行い計画的な堆肥利用が必要。 新型コロナ、円安、ウクライナ情勢等の影響により飼料および資材価格の上昇が続き、経営を圧迫している。 畜産環境問題については、順法状態にあっても苦情が発生する場合がある。 飼養衛生管理基準を遵守させることが困難な経営状態の生産者が存在する。 |
| | <p>4 魅力ある農村の維持・発展</p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 補助事業等を活用し、有害鳥獣の捕獲や防護柵の設置を行った。 吾妻管内の町村ごとに担当者と被害防止に向けて打合せを行うとともに、関係機関との情報共有を図った。特に被害の多い嬭恋村においては、鳥獣被害対策支援センター等と連携し研修会等を実施した。 鳥獣による農作物への被害軽減のため、地域が一体となった取組を支援した。鳥獣害に強い集落づくり支援事業を活用し、長野原町大津地区、嬭恋村大笹地区で展示ほの設置や対策技術情報の提供を行った。長野原町では町内全域に回覧により、被害対策技術情報を提供している。 地域の共同活動による農地・水路等の維持・保全に取り組む活動組織のフォローアップを行い、円滑な活動を支援した。 農業水利施設では、美野原用水の老朽化した掛樋を更新するための実施設計を行った。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 野生鳥獣捕獲者の高齢化による担い手不足に加え、根本的な対策がない状況にある。 引き続き地区を問わず鳥獣害の啓発活動を継続する。嬭恋村大笹2地区のワイヤーメッシュ柵の見回り調査は次年度も継続するほか、田代の軍道地区でも新たに調査を実施する。 地域の実情では、高齢化等により活動が難しい地域があるので、地域住民と連携した組織作りを指導する。 老朽化した農業水利施設について、引き続き計画的に保全整備を実施する。 |

| | |
|---------|---|
| 地域名 | 利根沼田地域 |
| 施策の取組方向 | 利根沼田地域は、豊かな水資源や標高差に富む地形などの自然環境と多くの観光資源に恵まれ、新幹線や高速道路の高速交通網も整備されています。農業においては、高原野菜の生産や観光農業が盛んで、1経営体あたりの耕地面積は県平均を上回っており、農業に対する意欲が高い地域です。 このような条件を最大限に生かし、次の5本柱を中心に地域と密着した農業施策の総合的かつ効率的な推進を図ります。 |
| 年度 | 施策の成果・課題 |
| R4 | <p>1 地域農業を支える多様な担い手の確保・育成</p> <p>【成果】</p> <p>○次世代の担い手</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就農相談や新規就農者の掘り起こし、新規就農者の支援策等を関係機関と情報共有した。さらに、JAと新規就農者関係で定期的な打合せを実施した。その結果、管内の新規参入者は35名(44歳以下24名)であった。若手農業者等組織活動では、リンゴ若手セミナーや女性リンゴ栽培者への講習会を開催するほか、タブレットを利用した支援を行い組織の活性化を図った。さらに、青年農業士等の企画による若手農業者研修会・交流会を実施した。 ・3社と企業参入の相談を対面で実施し、農地手続きや制度資金等の支援策の案内を行い、関係機関と情報共有を図った。 <p>○農地集積・集約化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・荒廃農地再生利用集積事業により約126.5aの農地を再生し、機構を活用して担い手へ集積した。農用地利用集積促進事業により約1,332.5aの借り手に奨励金を交付し、機構を活用して担い手へ集積した。 <p>【課題】</p> <p>○次世代の担い手</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受入産地の育成について積極的な市町村はなかった。交流会では、コロナ禍で日程の調整や参加人数の制限等の問題があり、縮小傾向となっている。 <p>○農地集積・集約化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農地の集積・集約化を進めるため、機構集積協力金や農用地利用集積促進事業奨励金、税控除等のメリットを周知し、地域計画策定における目標地図づくり等を通じて、ヤミ耕作や利用権から農地中間管理事業への切替えを推進し、担い手への更なる転貸を促す必要がある。 |
| | <p>2 地域特性を生かしたブランド産地の育成</p> <p>【成果】</p> <p>○夏秋野菜</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雨よけトマトは高品質安定生産と省力化を図るために、育苗点滴灌水システムと養液土耕システムの導入支援や、養液土耕栽培技術向上のための研修会や現地指導を行い、産地の競争力を高めることができた。 ・県単補助事業を活用し、パイプハウス等の建設を支援した(県単:6件、受益面積139.5a)。また、作業省力化のため、移植機や収穫機等の導入を支援した(県単:6件)。 <p>○ブランド米</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水稲では、良食味米生産の支援を行い、食味分析鑑定コンクール等で10点の入賞があった。 <p>○コンニャク・畜産</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こんにゃくでは、みやままさりの普及推進を中心に、実証ほ等を設置し支援した。 ・畜産・酪農収益力強化整備等特別対策事業に係る畜産クラスター計画の作成、事業実施等を支援した。 <p>【課題】</p> <p>○夏秋野菜</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資材や肥料などの価格が高騰していることから、対応策を検討していく。 <p>○ブランド米</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水稲では、高齢化により本田防除が難しくなっている。ドローン空中散布や直播栽培に関する問合せが多くなっており、各種制度の周知を図る必要がある。また、作期分散や差別化の観点から、「コシヒカリ」以外の良食味品種の検討も必要である。 ・ブランド力の向上を図るため、品質の維持・向上とPR戦略の構築が必要である。 <p>○コンニャク・畜産</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こんにゃくでは、コロナ禍により研究会の方針で講習会や実績検討会が開催できず技術情報が伝わりにくい状況である。 ・関係機関と連携し、畜産経営の効率化の支援を継続していく。 |

| | |
|-----|--|
| 地域名 | <p>利根沼田地域</p> |
| | <p>3 観光農業と6次産業化の推進</p> <p>【成果】</p> <p>○輸出と観光農業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・台湾への輸出が緩和されたことから、関係機関へ情報提供するとともに、各産地への助言等を行った。 <p>○地産地消と6次産業化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6次産業化に関する制度等の周知を図った。また、地産地消推進店等の認定を支援した。 ・ぬまたブランド農産物認証等、市町村が実施する地域農産物ブランド化の取組を支援した。 ・りんご研究会と利根実高が「紅鶴」の地域振興について連携してレシピの作成に取り組んだ。また、道の駅「尾瀬かたしな」を活用したりんご産地活性化支援の中で、リンゴの加工講習会を開催して加工の取組を推進した結果、「製造は検討したい」といった意見が多かった。りんご加工講習会の様子を映像化し、当日参加できなかった人にも共有した。なお、リンゴのほか、トマト加工の要望もあった。 <p>【課題】</p> <p>○輸出と観光農業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光農園や農産物直売所等への新たな誘客対策等の検討が必要である。 ・輸出産地の体制整備が必要である。 <p>○地産地消と6次産業化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管内の地産地消推進店は増加していないため、制度の周知等を一層図り、新規の掘り起こしが必要である。 ・加工場所や製造許可の取得、労働負担の軽減が課題となっている。 |
| R4 | <p>4 安全・安心な農業生産の推進</p> <p>【成果】</p> <p>○スマート農業とGAP推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レタスにおけるGAP導入を支援したことで、効率的かつ省力的な農産物の安定生産に向けて推進を図ることができた。 ・JA利根沼田久呂保レタス部会で新たにJGAPの団体認証を取得したほか、すでに認証取得済みの部会には維持審査等の支援を行った。 <p>○農畜産物の安全性確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・青果物の残留農薬検査(5品目 13検体)を行った。 ・原発事故から12年が経過したが、生産者等から栽培した農産物の放射性物質安全検査の要望があることから、継続して実施した。 <p>○家畜衛生</p> <ul style="list-style-type: none"> ・飼養衛生管理基準の遵守状況等について、直接、巡回確認の上、指導を実施した。 ・特定家畜伝染病の発生を想定し、消毒ポイントや現地事務所、農場併設テントの設置等、初動対応についてそれぞれ防疫演習を実施した。 ・特定家畜伝染病が発生した場合に備え、処分する家畜・家きん等の埋却予定地を巡回確認した。 ・高病原性鳥インフルエンザの国内発生を受け、対応マニュアル(案)を作成した。 <p>【課題】</p> <p>○スマート農業とGAP推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実需者からGAP取得に対する要望が高まっており、農産物の付加価値化を図るために更なる導入支援が必要である。 <p>○農畜産物の安全性確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの安全検査で、放射性物質が検出されたことはないが、土壌中の放射性物質が依然として高い場所があることから、継続して検査していく必要がある。また、検査を廃止するには、地域の生産者等関係者の同意を得る必要がある。 <p>○家畜衛生</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度も引き続き市町村や関係機関等との連携強化を図るとともに、発生予防のため畜産農家における飼養衛生管理基準の遵守徹底について、継続した指導が必要である。 ・また、万が一、特定家畜伝染病が管内で発生した際に、適切に対応できるよう、管内市町村や関係団体と連携し、平時から演習等実施し、体制を準備・維持しておく必要がある。 |

| 地域名 | 利根沼田地域 |
|-----|---|
| R4 | <p>5 農地の有効利用と農業生産基盤の保全・整備</p> <p>【成果】</p> <p>○担い手育成と遊休農地発生防止</p> <ul style="list-style-type: none"> ・川場村の上宿原地区において、区画整理工事(6.4ha)が完成し、5.2ha(うち機構活用3.49ha)を担い手へ集積・集約した。地元土地改良区へ機構集積協力金を交付した。 ・片品村の牛の平地区で4.2haの区画整理工事を行い、遊休農地の解消を行った。 <p>○地域活動と長寿命化、防災・減災</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4市町村の73協定集落、約624haにおいて、中山間地域等直接支払制度により農用地等の保全のための活動費用を交付することにより、遊休農地発生抑制の取り組みを支援した。また、10割単価を受給している54協定において、農地の将来像を話し合い集落戦略を作成(予定34協定作成済、20協定作成中)した。 ・昭和村にある赤城北ろく用水地区の2地区(赤城原、北ろく赤谷)の石綿管の10.1kmを塩ビ管に布設替え、農業水利施設の保全を図った。また、多面的機能支払い(71組織)の活動により団体が行う荒廃農地の解消等の取り組みを支援した。 <p>○鳥獣被害対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利根沼田地域鳥獣被害対策推進会議を书面開催(資料配付)するとともに、支援チーム(市町村担当者)意見交換会を開催し、情報共有や共通課題の検討及び野生イノシシの緊急捕獲促進を行った。 ・野生鳥獣被害を軽減するため、国庫・県単事業を活用した侵入防止柵の整備や捕獲奨励を支援した。 ・小規模農村整備事業を推進し、鳥獣害対策の支援を行った(14地区、事業費:43,538千円)。 |
| | <p>【課題】</p> <p>○担い手育成と遊休農地発生防止</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合いが始まった片品村上郷地区の基盤整備事業について、分散した農地の集約化が図れるよう、中間管理・協力金・奨励金の活用を支援する。 ・牛の平地区について、区画整理工事を早期に完成させ、用水の安定確保を図り、農地集積を進める必要がある。 ・2人の認定新規就農者認定に向けて、青年等就農計画作成支援を行う必要がある。 <p>○地域活動と長寿命化、防災・減災</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昭和村で進めている石綿管の布設替え工事の仕上げとして舗装復旧工事の実施を進めるとともに、多面的機能支払交付金・中山間地域等直接支払交付金の活動について、引き続き支援する必要がある。 <p>○鳥獣被害対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・豚熱感染の一因である野生イノシシの捕獲増が求められる。 ・鳥獣の捕獲強化や市街地出没対策等により奥山から市街地まで切れ目のない対応について、市町村等関係機関への支援及び情報共有を継続して実施していく必要がある。 ・市町村と連携して、鳥獣害対策に必要な小規模農村整備事業の予算を確保する必要がある。 |

| | |
|---------|---|
| 地域名 | 東部地域 |
| 施策の取組方向 | 東部地域は、一部に中山間地域を含む代表的な平坦農業地帯であり、県内作付面積の約4割を占める米や麦を中心に、都市近郊型農業の立地条件を活かした園芸や畜産など多彩な農業が営まれています。一方で、担い手の高齢化や減少、過疎化の進行による地域活力の低下に加え、農産物価格の低迷や農業基盤の脆弱化など、多くの課題を抱えています。そのため、地域農業を担う多様な農業者の確保・育成や農地の集積・集約化を推進するとともに、地域の特色を活かした生産・販売力の強化等の取組を進め、経営基盤の強化を図ります。 |
| 年度 | 施策の成果・課題 |
| R4 | <p>1 担い手確保・育成と生産基盤の保全・強化</p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市町やJA、生産者組織などの関係機関が連携し、受入体制の整備を図るとともに、就農希望者の計画作成支援や新規参入ガイドブックを作成し就農相談に活用している。また、新規就農者の技術や知識習得のためのフレッシュマン講座を開催し、早期の知識習得と技術向上を図ることで就農後の定着を支援した。 ・人・農地プランの実質化については、市町巡回や個別相談対応等の支援を行った結果、令和4年度末で、実質化済み68／89地区となった。また、農地中間管理事業の活用を図るため、制度周知や重点区域の設定を行った結果、農地中間管理事業の利用実績(209.20ha)中の「担い手への新規集積面積」が60.43ha(R5.3月末時点)となった。農業経営基盤強化促進法等が一部改正され、地域計画(従来の人・農地プラン)の策定が法定化された。また、農地の賃借は農地中間管理事業が中心となるなど農地の集積に関する仕組みも変わる。今後は、市町の地域計画策定の取組を支援するとともに、農業経営基盤強化促進法等の一部改正に対応するため、関係機関と役割分担の明確化及び推進体制の再構築を図る。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元農家との連携を図るため、交流機会の創出や農業青年クラブへの加入促進。 ・新規就農者の受け入れ体制整備と定着の支援。 ・就農後におけるサポート体制の強化。 ・地域計画策定の取組を支援するとともに、生産基盤整備により、担い手への農地集積・集約化を進める。 |
| | <p>2 地域特性を生かした土地利用型農業の推進</p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水稲では気象状況に応じた栽培管理や病害虫の発生状況及び発生予察を活用した適期防除指導を徹底し、優良品種の作付推進を行った。 ・飼料イネでは、品質向上と生産コスト低減のため実証ほを設置し、品種の早晩性などの特性の確認や堆肥利用により化成肥料を削減できることが確認できた。 ・コントラクター組織に対しては、ラッピング方法を改善することにより、WCSの品質が向上することを確認した。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・米麦の生産性と品質向上を図るとともに、生産基盤の条件や実需者のニーズ等を踏まえ、加工用米・飼料イネ等への転換と生産性向上の取組を支援する。 ・自給粗飼料の品質向上と安定供給を図るため、生産者組織等の活動を支援する。 |
| | <p>3 葉菜・果菜類の産地競争力の強化</p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キュウリと水稲の複合経営が中心である邑楽館林地区では、担い手確保と生産振興の両面から支援を行い、環境制御技術の導入により一部の生産者では収量の向上につながった。 ・夏秋ナス産地の栽培技術の高位平準化を図るため、定期巡回や農業基礎講座を定期的に開催した。また、産地が一体となった生産体制を構築するため、市やJA等の関係機関との情報交換を定期的に開催した。 ・夏秋ナスの産地の発展のため、生産面だけではなくレシピ動画や食育紙芝居を作成し、SNSを活用し消費者へアピールするほか、出荷袋にもSNSへリンクするようQRコードを印刷し消費面からも支援した。 ・安全安心な農産物生産のため、太田市内3戸のJGAP認証取得生産者およびグローバルGAP認証1団体に対し、生産管理手法の改善を支援した。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設野菜と米麦との複合経営の確立のため、先進技術の導入・確立、普及を推進し、産地の発展を図っていく。 ・夏秋ナス産地支援体制の強化に向け、関係各機関の役割分担を明確化し、夏秋ナス新規栽培者や単為結果性ナス栽培者の栽培技術、反収の向上を支援するとともに、ナス産地PRコンテンツを消費者に見てもらったための働きかけを行う。 ・GAP認証取得より基本的な考え方を導入した異物混入防止対策や生産履歴管理の徹底を促し、GAP手法未導入農家への安全意識の向上および波及を図っていく。 |

| | |
|---------|---|
| 地域名 | 東部地域 |
| 施策の取組方向 | 東部地域は、一部に中山間地域を含む代表的な平坦農業地帯であり、県内作付面積の約4割を占める米や麦を中心に、都市近郊型農業の立地条件を活かした園芸や畜産など多彩な農業が営まれています。一方で、担い手の高齢化や減少、過疎化の進行による地域活力の低下に加え、農産物価格の低迷や農業基盤の脆弱化など、多くの課題を抱えています。そのため、地域農業を担う多様な農業者の確保・育成や農地の集積・集約化を推進するとともに、地域の特色を活かした生産・販売力の強化等の取組を進め、経営基盤の強化を図ります。 |
| 年度 | 施策の成果・課題 |
| R4 | <p>4 花き・果樹産地の維持・発展とブランドの確立</p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ナシでは、高品質栽培に取り組み、輸出や高級ブランド「akari」等により、ブランド力の向上を実現することができた。また、明和町ナシ産地協議会では、新規研修生1名を確保することができ、新たな担い手として定着できるよう支援していく。 ・ブドウでは、タブレット利用によるシャインマスカットの収穫日予測を検証し、利用可能な技術であることが確認できた。クビアカツヤカミキリ対策では、実証ほを設置し薬剤処理の効果が確認できた。 ・キク類では、コロナ禍に対応するため新品目（ディスパッドマム）を導入した。 ・トルコギキョウでは、斑点病防止の実証ほを設置し、薬剤による空間消毒処理による防除効果を確認した。 ・鉢物カーネーションでは、開花前の重点指導巡回により品質を安定化させ、市場等からのクレームを撲滅することができた。 ・シクラメンでは、経営安定のため家庭用向けの小鉢栽培を推進し、販売数量を拡大することができた。 ・鉢物アジサイでは、新品種の栽培を推進し、出荷を行うことができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ナシでは、さらなるブランド化を推進、併せて産地維持のため新規栽培者の拡大。 ・ブドウでは、産地推奨品種の選定。カキでは、産地の維持のため新たな担い手の定着、確保。 ・クビアカツヤカミキリ対策では、より効果的な薬剤、防除方法の検討。 ・キク類では、新規導入したディスパッドマムの高品質安定生産、及び露地ギクの効果的な病害対策の検討。 ・トルコギキョウでは、空間消毒と併せ、散布剤での防除効果の確認。 ・鉢物カーネーションでは、引き続きクレームの無いような安定生産指導、及び増加傾向である立ち枯れ病対策。 ・シクラメンでは、経営安定のためのさらなる小鉢栽培導入推進。 ・鉢物アジサイでは、新品種の栽培拡大を推進。 |
| R4 | <p>5 農業・農村環境の維持と多面的機能の保全</p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鳥獣害対策では、みどり市大間々町塩沢地区で、継続事業として鳥獣被害に強い集落づくり事業を計画していたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、地域住民との話し合いが行えなかったため、十分な被害防止活動は実施できなかった。しかし、年度末でしたが、同地区で被害が拡大しているハクビシン等の小型獣を対象とした効果的な捕獲方法や檻の操作方法の研修会を実施し、住民自ら捕獲活動を行うこととなった。 ・飼養衛生管理基準の遵守では、家畜伝染病予防法に定められた飼養衛生管理基準の遵守状況を309戸の農家について確認した。また、そのうち豚および鶏飼育農家の全戸を含む149戸について立入り検査並びに改善指導を行ったところ、危機管理意識が向上し、衛生管理が適正に行われるようになった。 ・多面的機能の保全では、桐生市、太田市、みどり市の管内では26組織、取組面積2,161.0ha、邑楽館林管内では30組織、取組面積2,748.5haの協働活動を支援した。 ・ため池の防災・減災では、防災重点農業用ため池の豪雨・地震対策に係る詳細調査を1地区実施した。また、豪雨・地震において、安全性の低いと確認された2箇所の防災重点農業用ため池の補強工事を実施した。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鳥獣害対策では、野生鳥獣への効果的な被害対策を効率的に進めるため、官民共創による地域と関係機関が一体となった取組を推進する。以前購入した小型獣用の箱罠を地域住民へ貸し出しを行い、住民参加型の被害防止活動を支援する。しかし、地域住民の高齢化から住民主体による被害防止活動を継続できるかが課題になっている。 ・埋却地については、面積は確保されているが予定地の適性についての確認が困難であり、農家が準備した埋却地が実際には使用できないケースが想定される。 ・多面的機能の保全では、活動組織の役員や構成員の高齢化、役員の担い手不足により活動の継続が危ぶまれている。 ・ため池の防災減災では、令和4年度末時点で防災重点農業用ため池の詳細調査（耐震、豪雨）の6箇所が未実施である。 |